

学び合い育ち合う子どもの育成

犬山市立犬山北小学校 著
田中康史・杉江修治 監修

一粒書房

緒 言

本書は、犬山市立犬山北小学校が 2010 年度、2011 年度に、丹葉地区教育事務協議会と犬山市教育委員会から研究委嘱を受けた発表会の折の資料を中心に編集した実践記録である。

2001 年、少人数授業を出発点として始まった犬山市の授業改善は、2011 年度にいたっても、それぞれの学校で少人数授業にとどまらない授業改善研究として継続され、犬山市の教育文化の基礎に根づいた感がある。少人数授業も、指導の徹底というような教師主導の教え込みの機会としてではなく、児童生徒の主体的な学びを支援し、幅広い学力をつける機会ととらえ、子どもを横につなぐ、集団の力を生かした実践が重ねられてきている。

したがって、犬山北小学校の今回の 2 年の指定研究の成果も、豊かな前史をもつものである。

犬山市教育委員会が行った授業改善への働き掛けは、教育委員会と現場との関係のあり方の一つのモデルであったように思う。教育委員会は実践の環境を整えることに努力をした。代表的な試みは、市独自の非常勤講師の多人数の採用である。毎年 70 人近い講師の参加は、各校のティーチング・スタッフを豊かにし、さまざまな実践の試みを現場が行うことを可能にした。新しい現場の試みに対しては教育委員会は支援こそすれ、制約を加えるということにはなかった。犬山の授業改善の特徴は、教師たちが様々なアイデアを出し合い、挑戦することが許される環境の中で行われたことである。

犬山北小学校に私がかかわりをもつようになって 11 年が経過したが、ここは実に多様な教師の挑戦が重ねられた学校だった。地域との連携の中で特別支援教育にも力を入れ、児童一人ひとりにしっかりと目を向ける実践が続いてきた。そして、その成果として、この数年は、どういう子どもを育てるのかについての方向づけがさらに明確になり、児童の育ち合いの意義を教師が共通理解し、教師の役割は児童の学びのコーディネータだという基本的なスタンスを確立してきた。

愛知県で生じてきた 7, 8 年前から、そして全国的にも近年広がってきている、教師の年齢構成の変化は、学校現場にとって重大な課題を引き起こしてきている。若手教員の成長支援の体制が整わないまま、実践が進んでいってしまうことは望ましくない。こういった動向の中で、犬山北小学校のような、実践文化を創り上げていくことは非常に意義が大きいと感じる。しっかりした、そして健全な柱があることにより、教師たちも共に育つよりどころができると考えられるのである。

杉江 修治

目 次

緒言

第一部 研究発表会紀要

はじめに 4

1 研究の構想 5

2 研究の実践 8

3 研究の検証 22

4 研究の成果と課題 24

研究のあゆみ 25

おわりに 26

補足資料 27

第二部 学習指導案 41

第三部 資料

1 現職教育通信 89

2 学校通信 97

3 参観日・保護者配布資料 109

第一部 研究発表会紀要

はじめに

I 研究の構想

- 1 研究構想図
- 2 主題設定の理由
- 3 犬山北小学校が考える「学び合い」
- 4 教師の位置付けと心構え
- 5 目指す子ども像
- 6 研究の仮説
- 7 研究の手だて
- 8 研究の組織

II 研究の実践

- 1 授業部会の取組
- 2 実践例
- 3 環境部会の取組
- 4 評価部会の取組
- 5 家庭・地域との連携

III 研究の検証

- 検証1
- 検証2
- 検証3

IV 研究の成果と課題

- 1 成果
- 2 課題

研究のあゆみ

おわりに

はじめに

本校では、平成 13 年度より犬山市教育委員会の教育施策を受け、子ども同士、教師と子どもとの人間関係が築きやすく、子ども主体の学びの授業を可能とする学習環境として、本校の実態に即した形で少人数学級を編制してきました。さらには、市費非常勤講師を活用し、算数の少人数授業、理科の T T 授業も展開してきました。そしてこれらの少人数学級と少人数授業・T T の組み合わせによる創意あふれる授業づくりを目指し、子ども主体のきめ細かな授業を模索してきました。

その中でも、子ども同士がかかわり合いながら、主体的に課題に取り組んだり、問題解決したりする活動や、互いに認め合う活動を通して、思いやりの心も育てる「学び合い」の授業を積極的に取り入れてきました。子ども主体の「学び合い」の授業を行っていく中で、子どもたちは自分の考えをもち、伝え合うことで認め合う場面が見られるようになってきました。また、教師も一人一人に目が行き届くようになると同時に、学級内での子ども同士や子どもと教師との人間関係がより温かなものになっていくことを実感しました。

そしてこのような取り組みを、平成 15 年度では全国少人数指導交流会会場として授業公開するとともに、平成 19 年度からは毎年自主研究発表会を開催し、多くの先生方からのご指導もいただきました。さらには平成 20 年度には、「共に学び共に育つ学校づくり」を研究主題に、文部科学省委嘱の道徳教育実践研究事業（伝え合う力）として研究実践を重ねてきました。

このような中、平成 22・23 年度の 2 年間にわたり、丹葉地方教育事務協議会・犬山市教育委員会より研究委嘱を受けました。そして本校のこれまでの実践や研究を継続・発展させるべく、研究主題を「学び合い育ち合う子どもの育成」と設定し、研究に取り組んできました。

本校の研究は、これまでの実践を踏まえ、本年度より実施の学習指導要領の趣旨を生かし、家庭や地域との協力・連携を図るとともに、子どもたちのコミュニケーション能力の育成や人間関係づくりを土台にしなが、子どもたちの自立と共生を育む「学び合い」の授業や活動を繰り返し展開することによって、「確かな学力」と「豊かな人間性」を培っていかうとするものであります。とりわけ、教師たちは、子どもたちが主体的に活動するためのコーディネーターや、子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネーターを、授業や他の活動の重要な柱として位置づけ、それらの構想と実際の支援・指導、さらには事後の評価などについて議論を重ねてきました。

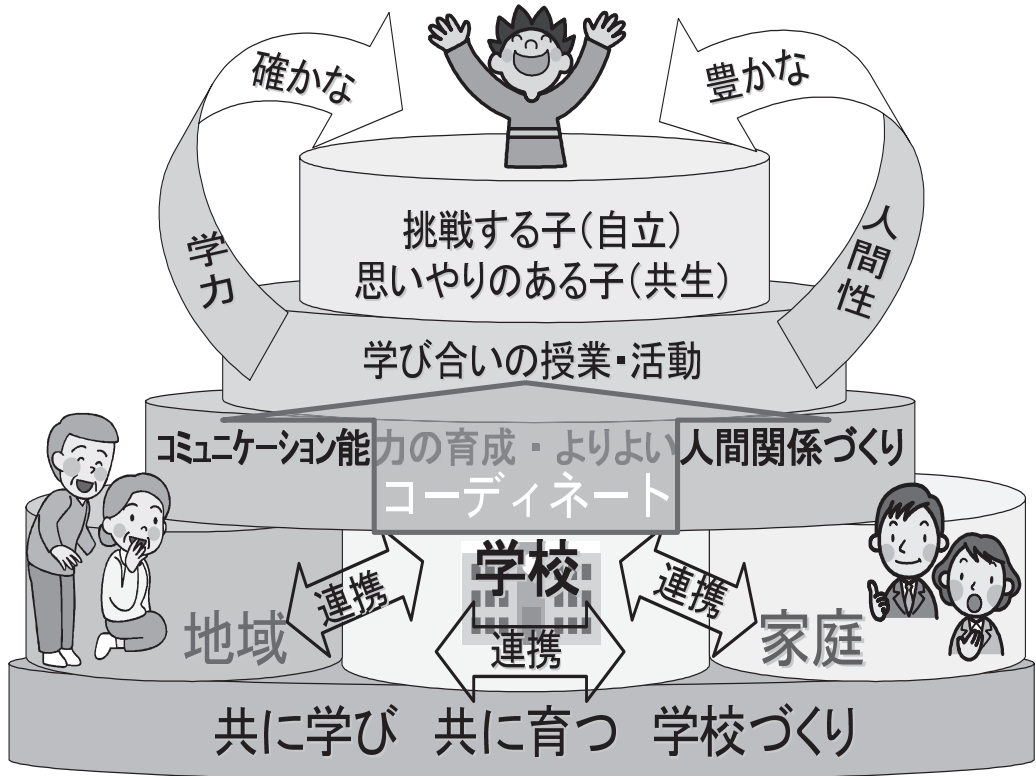
多くの皆様方の大所高所からのご指導・ご叱責をいただきながら、今後も息の長い研究実践を続けていきたいと考えております。

最後になりましたが、本校の研究推進にあたり、ご指導いただきました中京大学教授杉江修治先生をはじめ、愛知県教育委員会尾張教育事務所、犬山市教育委員会の諸先生方、そしてご支援いただきました保護者や地域の皆様方に心からお礼を申し上げます。

平成 23 年 10 月 26 日

校長 田 中 康 史

1 研究構想図

研究主題 **学び合い育ち合う子どもの育成**

2 主題設定の理由

本校では、犬山北小学校に集う子どもたちが空間や時間をともに過ごすだけでなく、集団生活をしていく中で、自分の個性や特性を理解した上で、相手や周囲の人々の気持ちをも推し量りながら、「自分の幸せは、他の人々の幸せと共有できて初めて意味がある。」という意識を持つとともに、自己実現に向けて行動できる人間の育成を目指している。

国際化・少子高齢化が進み、変化の激しいこれからの社会を生き抜いていくためには、決して他者依存するのではなく、自己を知りながら何事にも積極的に挑戦していく姿勢が大切である。それには、子どもたちがあらゆる教育活動に積極的に取り組み、様々な体験をすることで自信をつけ、主体的な態度を身に付けていくことが必要である。また、個々人がもっているお互いの良さを生かしながら、周囲と協力し合い、助け合い、自分と同じくらい仲間を大切にできる心を培っていくことも大切である。

そのためには、学校は、家庭や地域の協力・理解・連携を図り、子どもたちのコミュニケーション能力や人間関係づくりの育成を土台にし、様々な授業や活動の場面において、子どもたちが主体的に活動し、周囲と関わり合いながら互いに高め合える場でなければならない。そして日常的な「学び合い（自立と共生を育てる学習）」を通して、「確かな学力」と「豊かな人間性」を培っていくことで、最終的に「挑戦する子（自立）思いやりのある子（共生）」の具現化が図られ、主題に迫ることができるものと考えられる。

3 犬山北小学校が考える「学び合い」

- (1) 様々な授業や活動において、子ども同士がかかわり合いながら、主体的に課題に取り組んだり、問題解決したりする活動である。
- (2) 様々な授業や活動において、目標に向かって子ども同士がかかわり合いながら課題を解決する中で、互いを認め合える思いやりの心を育てる活動である。
- (3) 様々な授業や活動において、家庭・地域・学校が共通理解を図りながら互いに連携し、子どもたちとともに保護者や教師も成長する活動である。

4 教師の位置付けと心構え

本校における「コーディネート」とは、子どもたちの成長を促すための適切な支援と仕掛け（準備・働きかけ）をすることを言う。そして、その役割を果たすのが、「コーディネーター」で、それは子どもたちを取り巻く教職員であり、保護者であると位置付けている。

なかでも、教師は本校の様々な授業や活動において、子どもたちのコミュニケーション能力や人間関係づくりの育成を土台にしながら、子どもたちが主体的に活動し、周囲とかかわり合いながら互いに高め合っていく「学び合いの授業や活動」が展開できるように、コーディネート（支援や仕掛け）をしていく重要な演出者であり、脇役であると考えている。

さらに、コーディネーターとして配慮したいことは、

- ① 大人が判断しすぎず、子どもたちが自ら「考える」「話し合う」「見つける」。
- ② 多少のリスクがあっても、失敗を恐れない勇気を育て、失敗から学び、成長していく。
- ③ 大きな人間・広い世界を目指し、いろいろな考え方や広い世界を知る。

これらの方策の1つが、「子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート」と「子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート」であると考え、実践している。

5 目指す子ども像

「挑戦する子 思いやりのある子」

「挑戦する子」（自立）とは、他者依存せず、指示を待つのでなく自分で考えられる子、自分に自信を持ち、意欲的で前向きに取り組む、一步でも前進しようとする子、失敗を恐れず、やってみよう、挑戦してみようとする子のことを言う。

「思いやりのある子」（共生）とは、自分一人では社会生活は成り立っていかないことを理解し、他とのかかわり合い結びつきを大切にできる子、相手の立場に立って考え意見が言える子、他人の意見や考えをよく聞き、よいことは取り入れることができる子、他と喜びや悲しみも分かち合い、他を認め許し、自分と同じくらい仲間を大切にできる子のことを言う。

6 研究の仮説

仮説1 子ども同士がかかわり合う授業や人間関係づくりの場を意図的に設定すれば、コミュニケーション能力が育ち、よりよい人間関係が形成されるだろう。

仮説2 子どもの意欲を引き出し、互いに高め合い深め合う手だてを工夫しながら適切に支援すれば、子どもたちの主体性（自立）や協調性（共生）は育ち、学力が向上するだろう。

仮説3 学び合いの取り組みや活動において、家庭や地域と共通理解を図りながら互いに連携していくことで、目指す子ども像の実現により迫ることができるだろう。
これらの取組により、確かな学力や豊かな人間性を培うことができるだろう。

7 研究の手だて

(1) コミュニケーション能力の育成・よりよい人間関係づくり

- ① 各学年ごとに「話し方名人」「聞き方名人」の話型の目標を設定し、段階的に聞く力・話す力・かかわる力の基礎を身に付ける。
- ② 学び合いの授業や活動を中心に、エンカウンター、グループワークトレーニング（GWT）楽しい学校生活を送るためのアンケート（Q-U）にも取り組み、人間関係づくりの基礎を築く。

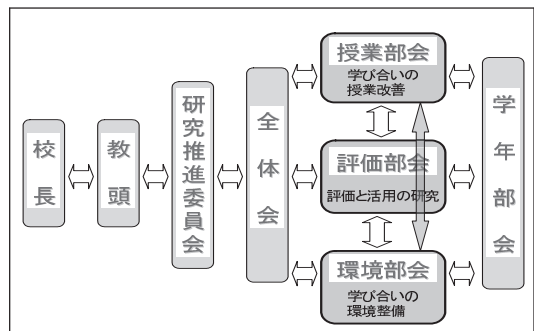
(2) 子ども同士の学び合いの推進

- ◆ 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート（自立を促す支援・仕掛け）

- ① めあての明確化
ゴールが明確な具体的なめあての提示、本時の学習の流れの提示
- ② 教材・教具の工夫
子どもたちの興味・関心を引き出す教材、身近な教材、意外性のある教材等の提示
- ③ 主体的に活動できる場の設定
司会等の役割分担、相互指名、発表の場の設定等
- ④ 指導過程・単元計画の工夫
指導過程の工夫（導入・展開・終末）、単元全体の流れの工夫等
- ⑤ 個に応じた弾力的な指導
教師の支援の工夫、少人数指導、T T指導、支援員・支援者による支援等
- ◆ 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート（共生を促す支援・仕掛け）
- ① 高めの目標設定
子どもたちに達成感や充実感をもたせるために高めに目標を設定
- ② グループ活動の明確化
グループ活動のルールや手順、意義や目的の明確な提示
- ③ 学びの形態の工夫
ペア・グループ・一斉等、机の配置、教師の立ち位置の工夫
- ④ 個の思考を深める工夫
自分の考えをもたせる場の設定、考えを交流させる場（話し合い）の設定、考えと考えをつなぐ支援、教師のゆさぶり 等
- ⑤ 教材の共有
1つの資料や教材を複数で見合い、互いの考えを交流
- ⑥ 学びを振り返る場の設定
学びを振り返ったり互いの良さを認め合ったりして、学びを今後活かしていく場の設定
- (3) 教師同士の学び合いの推進
 - ① 指導力を高めていくための教師相互の授業公開
 - ② 学年部会を中心とした研究授業等による授業改善の取組
 - ③ 評価を指導に活かしていくための研究協議会の工夫
 - ④ 教師の指導力向上と見識を広げるための各種校内研修の開催
 - ⑤ 現職教育通信による共通理解
- (4) 家庭・地域との学び合いの推進
 - ◆ 開かれた学校づくり
 - ① 毎日授業を公開し、家庭や地域の教育活動への参加を促進
 - ② 地域支援ボランティアによる教育活動への支援と個に応じた指導の推進
 - ③ 地域を活かした体験活動の推進
 - ④ 学校行事・地域の行事への積極的な参加
 - ◆ 家庭・地域・学校間の共通理解
 - ① 学校説明会、自主研究発表会の開催
 - ② 学校通信・P T A新聞・ホームページによる情報発信
 - ③ 学級・学年懇談会や子育て勉強会などの情報交換の場の設定
 - ④ 家庭や地域の意見を活かしていくための学びの学校運営委員会の開催

8 研究の組織

- ◆ 授業部会
 - ◇ コミュニケーション能力の育成
 - ◇ 学び合いの授業改善・研究協議会の推進
 - ◇ 自立と共生を促すコーディネートの研究
- ◆ 評価部会
 - ◇ N R Tの分析・評価
 - ◇ Q-Uの分析・評価
 - ◇ 教育アンケートの分析
- ◆ 環境部会
 - ◇ 学び合い活動の環境整備
 - ◇ よりよい人間関係づくりの推進



1 授業部会の取組

(1) 授業部会の役割

本校の学びとは、狭義の学力という認知面の発達をねらうのではなく、学ぶ意欲や思考力、表現力や問題解決能力を高めることを目指している。

校内の現職教育組織の中で、校内の授業実践の充実を図り、コーディネーターとしての教師の力量を高めるための取組を行っているのが授業部会である。子どもたちが主体的に高め合い深め合う授業を、「いかにコーディネートしていくか」を基軸として提案して、子どもの持つ力を引き出すための支援や仕掛けを工夫・改善している。

具体的には学び合いの授業づくりの方法やコーディネートのあり方を提案して、研究授業の事前事後検討会において中心的な役割を果たしている。また、指導案の形式や内容の検討、N R T（全国標準学力検査）等の結果を受けて、授業内容の改善の方策検討についても授業部会が行っている。

(2) 学び合いの授業づくりとコーディネート

コーディネートにはAとBの2つを設定してる。2つは以下のような意味を持つ。

【コーディネートA】

◆Aは「子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート」である。目指す子ども像の「挑戦する子（自立）」にかかわるコーディネートであり、コーディネートAを日々の実践の中で積み上げることで主体的に学び、生涯学びつづける姿勢を育てていく。

【コーディネートB】

◆Bは「子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート」である。同じく目指す子ども像の「思いやりのある子（共生）」にかかわるコーディネートである。これは好ましい人間関係の構築、究極的には教育基本法第一章第一条にある平和で民主的な国家及び社会の形成者の育成という教育の根幹にかかわる大切な手だてである。

この2つのコーディネートを学習指導の中で有効に取り入れていくことで、本校の目指す子ども像に迫れるようにしている。

(3) 学び合いの授業づくりの基本

本校の全学級で共通理解されている学び合いの授業づくりの基本は以下のようなものである。

① 子どもとともにつくる学習規律

本校では、学習の始まりには「これから授業を始めます。お願いします」、終わる場面では、「授業を終わりました。ありがとうございました」と子どもがあいさつを交わしている。これらは教師に向けられた言葉ではなく、子ども相互があいさつを交わしている。

② 授業への全員参加

日々の授業の中で発言者や提案者が固定化することなく、すべての子どもが安心して発言や表現ができるようにする。そのためには発言することの意義、誰のために何のためにということを確認し合うようにしている。

③ 子どもと子どものつながりの強い学習集団づくり

発言するとき、子どもが教師に向かって話をしていると感ずることがある。学習集団において大切なのは教師と子どもの関係のみならず子どもと子どもとの関係である。視線は話し手に、話すときはみんなに、小さなことであっても大きな積み上げとなる。

④ 子ども同士がかかわる意味を明確にした授業の展開

授業が教師の一方的な説明や子ども任せの展開になりすぎないようにして、1時間の授業の中で考えを交流する場面を取り入れることが大切である。特に本時の課題やねらい、学ぶ目的が明確であることが大切になる。

学び合いはペアやグループ学習であるという誤解が見られることがあった。ただ単にグルー



学び合いの様子

ブ学習を取り入れてもその効果は半減する。相談しなさい、交流しなさいと指示を出す前に、必ず個人で考える時間を確保する。そしてグループ学習の際にはねらいや見通し、時間的な予定も示しておくことが大切である。役割を明確にしておくことも有効である。簡単に言えば何のためにグループ学習の時間が確保されたかを、子どもと共有しておくことが子どもの学びを深めるうえで重要である。

(4) 指導案の特色

本校の指導案は短期的な本時や単元を取り上げるのみでなく、一年間を通してどのような学級経営を行い、目指す子ども像に迫るかが分かるように作成されている。

第 学年 組	科学習指導案	年 組教室	指導者
1 単元名			
2 立案の立場			
(1) 子どもの実態と教師の願い		子どもの実態を踏まえ、自立と共生にかかわる教師の願いを述べるようにしている。	
(2) 単元について			
3 単元の目標			
4 単元の計画			
5 本時の展開		本校の学び合いの授業を決定づけるコーディネートを示している。	
(1) 本時の目標			
(2) 本時における学び合いのコーディネートについて			
A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート			
B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート			
この2つの手だてが機能し、子どもの学びを促進できたかが本校の授業づくりのポイントである。			
(3) 本時の流れ			
段階	子どもの学習活動・予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
	子どもたちが高め合い深め合う場面		ねらいの明示(本時のゴールをわかりやすく具体的に提示する)

参観者はこの指導案を参考に、手だてが有効であったかを検証し、具体的な子どもの姿で研究協議会を行っている。

(5) 研究協議会と学び合いの授業づくり

学び合いの授業とは、教師自身が手だてをもち、学ぶことでさらに深まりをみせていく。本校の研究授業の研究協議会では、教師の授業技能が優れていたかを漠然と判断するのではなく、視点を決めて1時間の時間をを共有している。

全員に学びの機会が保証されていたか？ 質の高い教材への取り組みであったか？ 学び合う人間関係が成立していたか？ 誰がどの場面でのように学んでいたか？ 学びはどこで成立してどこで学びが滞ったか？

それらのことを常に意識して協議を行い、それを日々の授業実践にフィードバックしている。



参加型ワークショップの様子

2 実践例

1年 学級活動 グループワークトレーニング「どうぶつファッションショー」

【ねらい】

意欲的に楽しくグループワークトレーニングに取り組めるようにし、自分の持つ情報を友達に伝えたり、友達から情報を正しく聞いたりしながら、自分の担当する色を間違えずに塗ることで、自分の役割に責任をもつことができる。

【コーディネート】

A：子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

情報を正しく伝え合い、責任をもって活動に取り組めるように、一人がもつおはなしカードの枚数や担当する色鉛筆の本数を同じにする。

B：子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

司会者を中心にグループで話し合いを進められるように、具体的な話型を提示する。

【学習の流れ】

① 本時のめあてと学習の流れを確認する。(つかむ)

どうぶつのおはなしカードをぬり、ファッションショーをしよう！

② 学習課題にグループ全員で取り組む。(取り組む)

【A：子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート】



子どもの発達段階に合わせ、情報をわかりやすく示した「おはなしカード」を作成した。

ズボンは、水色です。

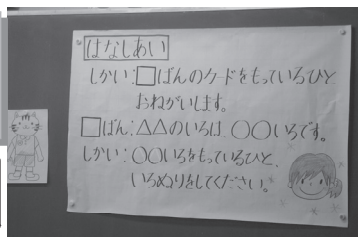


【B：子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート】

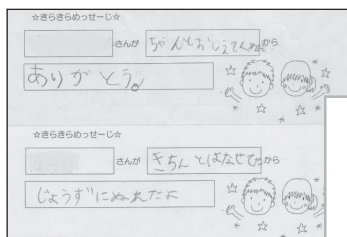


話し合いの進め方を確認することができるように、話型を示した。

2番のカードを持っている人、お願いします。



③ 振り返りをする。(広げる・深める)



上手にカードを読んでもくれたのでよくわかったよ。

自分が頑張ったことと、友達の頑張ったことを振り返りカードに記入し、互いに認め合えるようにした。



【研究協議会から】

- ◇ 話し合いのルールに沿って、話し合い活動がスムーズにできるようになった。
- ◇ 全員が課題意識をもって、意欲的に学習活動に取り組むことができた。
- ◆ 言葉遣いや役割分担について考えることができるように、継続して取り組む必要がある。
- ◆ 活動の約束が曖昧になり、ルールの徹底ができていないことがあった。

2年 国語 読んで わかった ことを まとめよう「たんぼぼの ちえ」

【ねらい】

音読活動を通して、①時を表す言葉、②たんぼぼの様子、③理由という文章構成や、理由を表す言葉・言い回しを理解し、説明的文章を読んだり書いたりする力を育成する。

【コーディネート】

A：子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

「たんぼぼの様子」や「理由」を正しく読み取るために、たんぼぼの動き（様子の読み取り）や台詞（理由の読み取り）を考えさせ、音読とともに発表する場面を設定する。

B：子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

他グループとの交流を通して、文章の読み取りや表現の仕方を改善していくために、自分と同じ役割の子どもにも注目しながら、他グループの発表を聞き合う場面を設定する。

【学習の流れ】

- ① 本時のめあてと学習の流れを確認する。(つかむ)

たんぼぼの ちえが せつめい できるように なるう

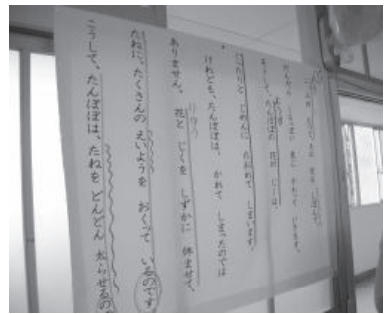
- ② 時を表す言葉、たんぼぼの様子、理由がそれぞれ書かれている部分を見つけ、たんぼぼの台詞を考える。(取り組む)

【A：子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート】



「から」という言葉があるよ。ここに理由が書いてあるんだね。

前時までのあゆみを教室に掲示し、考える手がかりにする。



- ③ 役に分かれて音読の練習をし、他グループの発表を聞き合う。(広げる・深める)

【B：子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート】



「ぐんぐんのびて」をどうやって表そうか相談しようよ。

本当に「たねをとおくまでとばす」ような感じがするな。



- ④ 振り返りをする。(まとめる)

たんぼぼのじくは、ぐんぐんのびていきます。なぜかという、せいを高くするほうが、たねをとおくまでとばせるからということがわかりました。

【研究協議会から】

- ◇ 1度目のグループ発表を見ることで、それが模範となり2度目の練習に変容が見られた。
- ◆ たんぼぼの台詞についての練り直しが不十分だった。教師が模範を示す場面も必要である。
- ◆ 発表を聞くときのポイントをもっと明確に示すために、教師の指示の精選が必要である。

3年 算数 「たし算とひき算の筆算」

【ねらい】

既習の計算をもとにして、繰り上がりのある（3位数）+（3位数）の筆算について説明したり、計算したりすることができる。

【コーディネート】

A：子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

見通しをもって活動ができるように、授業の流れを前時と同じものにする。また、算数の用語を用いて計算方法を説明できるように、教室に話型を掲示する。

B：子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

個人意見を交流しながら計算方法を確認できるようにするために、グループで1つの教具を取り扱い、1つの問題を友達の考えにつなげて解くリレー方式を取り入れる。

【学習の流れ】

- ① 本時のめあてと学習の流れを確認する。（つかむ）

くり上がりが2回あるたし算の筆算ができるようになるう

- ② 数え棒を使いながら筆算の計算の仕方を説明し合う。（取り組む）

【A：子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート】



一の位は $5 + 8 = 13$ になるから十の位に1くり上げるね。

教室の横に話型を掲示して、説明をするときの手がかりにする。

①、一の位は、
 $\square + \square = 1\square$
十の位に1くり上げます。

②、十の位は、
 $1 + \square + \square = 1\square$
百の位に1くり上げます。

③、百の位は、
 $1 + \square + \square = \square\square$
だから答えは〇〇〇です。

④、計算の仕方を説明します。

- ③ グループで1つの問題を役割分担をして解き、その後、個人で練習問題に取り組む。
(広げる・深める)

【B：子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート】



話型に沿って説明をしながら問題を解いていくようにする。

十の位の計算が終わったよ。次は百の位の計算をよろしくね。



- ④ 振り返りをする。（まとめる）

「くり上がりが2回あるときは、百の位にもくり上げればいいことがわかった。」

【研究協議会から】

- ◇ 学習の流れが前時と同じだったため、見通しをもった学習ができた。
- ◇ 計算方法の説明を繰り返すことで、話型が自然に身につく、計算方法の定着が見られた。
- ◆ 少人数授業としての教師と子どものかかわりを考えていく必要がある。
- ◆ 数の量感をしっかりと把握できるような教具の取り扱い方を考えていく必要がある。

4年 道徳 相手の気持ちを考えて 2-(2) 「親切の貯金」

【ねらい】

「親切」とは何かを考え、自分の行動を振り返り、相手の気持ちを考えて親切にしていきたいという心情を育てる。

【コーディネート】

- A：子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート**
 登場人物の気持ちを想像しやすくするために、場面絵を提示する。自分の考えをもつことができるようにするために、ワークシートに書く活動を設定する。
- B：子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート**
 より多くの考えに触れることができるようにするために、男女を問わず多くの友達と意見を交流する場面を設定する。

【活動の流れ】

- ① 本時のめあてと学習の流れを確認する。(つかむ)

「親切」についていろいろな友達の考えを知り、「親切」について考えよう

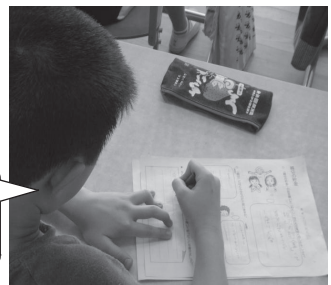
- ② 場面絵を提示して、資料の内容をつかみ登場人物の気持ちをとらえる。(取り組む)

【A：子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート】



「わたし」の気持ちを想像するために、ちづるさんやおばあちゃん「親切の貯金」の話場面絵に描き、提示する。

ちづるさんのおばあちゃんの話「親切の貯金」って楽しそうだな。本当の親切とは、どんなことだろう。



- ③ 多くの友達と意見交流することを通していろいろな考えに触れ、「親切」についての考えを深める。(広げる・深める)

【B：子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート】



ぼくは、困っている人に教えたり優しくしたりすることが親切だと思うよ。私は、人をうれしくさせるものだと思うな。

事前にとった意識調査を活用し、いろいろな「親切」についての価値を深める。

※「親切」についての意識調査※

あなた自身の気持ちに添って数字を○でかいてください。
 0「まったく当てはまらない」 1「少し当てはまる」 2「だいたい当てはまる」 3「よく当てはまる」

1. あなたは、周りの人に親切にするようになっていますか。 0 1 2 3
 ○ 近所の人を手伝う。

2. あなたは、周りの人に親切にしてもらってうれしかったことはありませんか。 0 1 2 3
 ○ 休みの時にいしにやってくれた。

3. あなたは、周りの人に親切にしてもらいたかったです。 0 1 2 3
 ○ 何かあるときに手伝ってほしかった。

この日は 0 1 2 3

- ④ 振り返りをする。(まとめる)
 「友達に合った親切を心がけることが大切だということがあった。」

【研究協議会から】

- ◇ 相手に合った親切を心がけていきたいなど、「親切」についての価値を理解することができた。
- ◇ グループ活動がスムーズに行われ、多くの友達と意見交流をすることができた。
- ◆ 子どもたちがより主体的に学習に取り組むことができるようにするために、ワークシートの内容を精選し「書く」時間を短縮させる必要がある。
- ◆ 道徳は、子どもの心が葛藤する資料選びや、心をゆさぶる教師の補助発問の工夫が大切である。また、事前の意識調査を活用して子どもの本音（価値）を引き出す場にする必要がある。

5年 国語 筆者の考えをとらえ、自分の考えを発表しよう「見立てる」「生き物は円柱形」【ねらい】

書かれていることの要旨をとらえ、それに対して自分の考えをもつ力と、事実と感想、意見を聞きわめ、筆者の書きぶりに注目して読む力を育てる。

【コーディネート】

A：子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

筆者の考えに迫り工夫を見つけるために、学習の足跡や段落構成図を掲示し、これまでの学習を振り返られるようにする。

B：子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

個々の読み取りの質を高めて、読みを深めていくために、グループや全体で意見を互いに交流する。また、話し合いが単調になったり、読みが浅いままに推移したときには、必要に応じて子どもをゆさぶる問い返しをしていく。

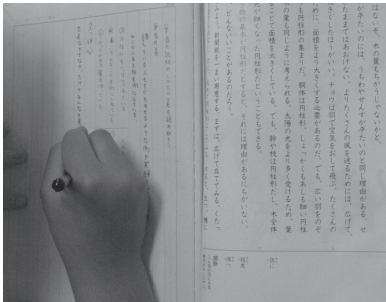
【学習の流れ】

- ① 前時の学習を振り返り、本時のめあてを知る。(つかむ)

筆者の説明の仕方の工夫を読み取ろう

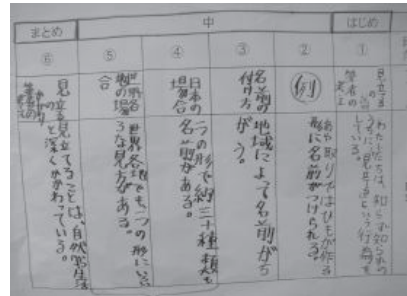
- ② 筆者の説明の仕方の工夫を見つけ、その理由を考えノートに書く。(取り組む)

【A：子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート】



筆者の説明の工夫はどこだろう？

学習の見通しを持って、学習の足跡、段落構成図を掲示する。



- ③ 自分の考えを交流し、筆者の説明の仕方の工夫を話し合う。(広げる・深める)

【B：子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート】



〇〇さんとちょっと似ている・・・

話し合いが停滞した時は、本文にもどしたり、グループで話し合ったりする。



- ④ 振り返りをする。(まとめる)

例を出したり、疑問を読者に投げかけたりなど筆者の書き方にはいろいろ工夫があるんだ。

【研究協議会から】

- ◇ 個人→グループ→全体→個人という流れが子どもに定着しており、他の子どもの考えと自分の考えをすり合わせながら、読みを深めていくことができた。
- ◆ 出てきた意見をシェアリングする時間が短く、時間の使い方が課題である。
- ◆ 子ども主体で学びを進めるときと、教師主導で学びを進めるときの見きわめが大事である。

6年 社会 聖徳太子の国づくり「天皇中心の国づくり」

【ねらい】

聖徳太子の4つの業績を調べ、聖徳太子がどのような国を目指したのか理解する。

【コーディネート】

A：子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

主体的な話し合いをするために、事前に毎時間子ども一人一人の思考に合わせ、ノートに朱書きを入れる。

B：子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

課題に対してより多角的に考えるために、ランキングを取り入れたりと、具体的な資料を理由とした考えをそれぞれが根拠をもったりしたうえで話し合いの場を設定する。

【学習の流れ】

- ① 本時のめあてと学習の流れを確認する。(つかむ)

聖徳太子の業績の中で一番日本のためになったものは何か、具体的な資料を使ってその理由もわかりやすく話すことができるようになる

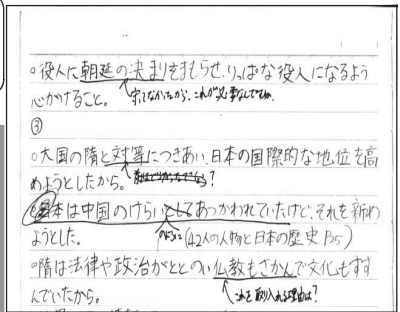
- ② 前時までに考えたランキングやその理由をもとに、全体で話し合う。(取り組む)

【A：子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート】



詳しく調べると新しいことが発見できたよ。

みんなとは違う視点、大事なこと、基本事項など話し合ってもらいたいことにみんなと話し合ってもらいたいことにどんどん朱書きを加えた。



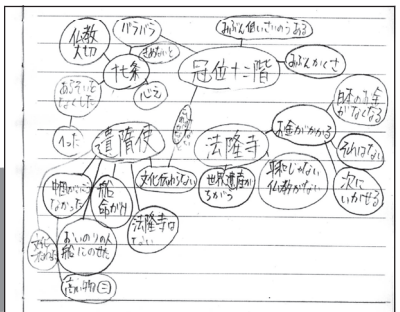
- ③ 課題についてグループで話し合う。(広げる・深める)

【B：子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート】



日本の中だけでなく外国との関係も考えよう。

ウェビングマップというメモ法を活用し、意見のつながりがわかりやすいようにした。



- ④ 振り返りをする。(まとめる)

4つの業績は、実はどれも関係し合っているんだとわかりました。

【研究協議会から】

- ◇ 調べ学習の時間を確保したことで、多くの子どもが意欲的に発言することができた。
- ◇ 資料の提示によって、対外情勢も考慮した上で聖徳太子の願いに迫ることができた。
- ◆ 議論が堂々巡りした場面があり、議論をうまく進めるさらなる手だてが必要である。

外国語活動 5年 Lesson3 「数で遊ぼう」

【ねらい】

毎日の生活の中で繰り返し使われる数を扱う。ただ数を数えるのではなく、歌やゲームを通して、その中で必然的に出てきた数に触れながら少しずつ使える範囲を広げる。言葉だけでなく、指を使った数え方や数の記録の仕方など、国によって異なることを体験させ、日本との相違点や共通点に気付かせる。

【コーディネート】

A：子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

様々な国の言葉に抵抗なく親しみ、積極的に活動に参加する意識を高めるために、子どもだけで進めていける簡単なゲームや日本との相違点や共通点に気づく資料を取り入れる。

B：子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

より難しい活動に挑戦していけるように、ClapやStompを加えたり、順番を変えたり、グループでバージョンを工夫したりしながらオリジナル「Ten Steps」を歌う。

【活動の流れ】

① 本時のめあてと学習の流れを確認する。(つかむ)

世界の様々なジェスチャーを知り、ジェスチャーをつけて1～10の数を言えるようになろう

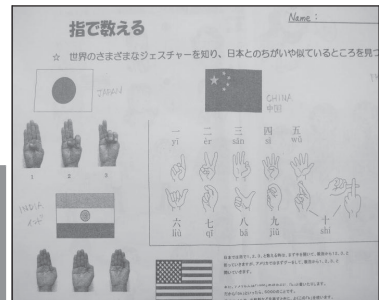
② リーダーを交替しながらのキーナンバーゲームをする。(取り組む)

【A：子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート】



キーナンバーゲーム
Are you ready? Yes!!
Keynumber is seventeen.

他国の指での数の数え方を示した資料を使い、数え方は違うけど、指を使うことは世界共通であることに気付くようにする。



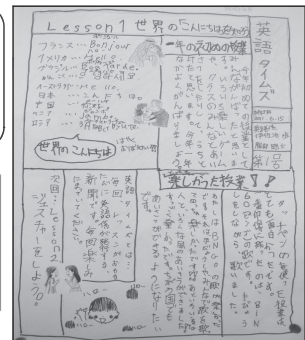
③ グループでバージョンを変えながら歌い、数の言い方に慣れ親しむ。(広げる・深める)

【B：子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート】



歌「オリジナルTen steps」
最初はゆっくりやろう。せーの。
eight, one, seven,・・・あつ、
まちがえた！じゃあもう1回ね。

Lessonのまとめとして、英語係が新聞を作成。掲示や配布をし、学びを広げた。前後期に一人一枚作成し、評価にもつなげた。



④ 振り返りをする。(まとめる)

数を数えるいろいろなジェスチャーがあり、両手や片手でやってみてとてもおもしろかった。

【研究協議会から】

- ◇ 異文化に意欲的に触れ、子どもが意欲的に楽しく活動ができていた。
- ◆ それぞれの国の文化の共通点を理解するさらなる手だてが必要がある。
- ◆ ペアやグループで活動しているが、学級でみんなが伸びようという気持ちをもたせることが必要である。

総合的な学習の時間（白帝ワーク）

【ねらい】

犬山の文化・環境・歴史について、子どもたちの興味・関心に基づいて調べたり体験したりして、各学年が発達段階に応じて、学び方や調べ方を身に付けていく。自ら学び自ら考える力を育てる。

【コーディネート】

A：子どもたちが主体的に活動するコーディネート

一人一人が関心を持ち、主体的に取り組めるようにするために、自分たちの住んでいる身近な地域を取り上げる。

B：子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

よりよい調べ方や発表の仕方を学ぶことができるようにするために、協力して調べたりまとめたりする活動や、それぞれの発表を聞き合う場を設定する。

【各学年のテーマ・活動内容と様子】

《3年：犬山 ふるさと見つけ隊》



「からくり」って書いてあるよ。普段から見かけるけど、一体どんなつくりになっているんだろ

犬山市について、まず校区内を調べ、次に犬山市全体について調べた。町探検では、計画を立て、自分たちで地図を頼りに目的地へ向かい、気づいたことや不思議に思ったことを記録した。その後、グループ交流をして、地域について多くのことを学んだ。

《4年：命の源 木曾川》

地域の方々の協力を得て、鮎の放流や木曾川の生き物探検をした。その後、水質検査をしたり野鳥について調べたりしながら、一人一人が環境を守ることの大切さを考えた。さらに夏休みには、各自テーマを決め、自主研究を実践した。

友達に教えてもらった草のおくの方を探してみよう。あつ、本当だ。エビが3匹いるよ。



《5年：広げよう 守り育てられた犬山の文化》

長く受け継がれている犬山祭の車山の見学をし、それぞれの町内の特徴や守り続けていく苦労などを調べた。その後、クラス毎に情報交換をし、伝統を守ることの大切さを考えた。夏休みには、自主研究で犬山焼についても調べた。

「からくり人形」ははこんな難しい仕組みになっているんだ。これを作った人はすごいなあ。



《6年：歴史探検隊》



遠足や修学旅行を通して、多くの史跡や文化遺産を見学したり、土器づくりを体験したりしてきた。これまで調べてきた学習をもとに興味・関心をさらに広げ、犬山を中心とした歴史に目を向け、もっと知りたいと思うことについて個人探究をした。

あれが法隆寺五重の塔か。調べて想像していたより大きくて作りがしっかりしているな。どんな考えで作ったのか、もっと調べてみたいな。

【活動の振り返り】

- ◇ 地域の文化や環境・歴史を取り上げることで、子どもたちは興味・関心をもって取り組むことができた。また、地域の方々が協力的で、人との触れ合いもたくさんできた。
- ◆ 総合的な学習の時間の削減に伴い、活動の精選をしていきながら、充実した時間となるようにしていきたい。

特別活動

【ねらい】

話し合い活動や集会活動の充実を図り、自分たちで問題を解決していく能力・態度を育て、所属意識・連帯意識をもつことができるようにする。また、特に児童会活動では、子どもの自治的な運営による全校集会を設け、連帯感を育てていく。そのために各委員会の連携を図り、学校生活をより豊かにしていくための活動を推進する。

ここでは特にペア活動について紹介する。ペア活動は、1・6年、2・4年、3・5年の子どもが同じ相手と1年間ペアを組んで行う活動である。高学年が低学年に行う読み聞かせ『ペア読書』や、運動会のペア競技、ペアで遊ぶ集会などがあり、様々な場面で高学年と低学年が協力して活動している。

【コーディネート】

A：子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

子どもたちが集団の中で所属感を感じ、自ら考え行動する力を育てるために、学年の枠を超えてペアを組む活動や委員会活動を中心に子どもたちの自治的な活動の機会を多く設定する。

B：子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

密度の濃いかかわり合いを生み、その中で様々な活動をいかによりよくしていくかを気づき・考え・実行する力を育て、自分の役割を果たす意識や思いやりの心を育てるために、ペアの相手と同じ目的に向かって活動する機会を多く設ける。

【活動の内容と様子】

《ペア集会》代表委員を中心に企画し、ペアと遊んだり名刺やカードを交換したりして楽しむ。



お姉さんの読み方は上手だなあ。わたしもこんな風に読めるようになりたいな。



《ペア読書》 読書週間に合わせて、図書委員会や代表委員会を中心に企画・運営される。

今日は初めてのペア集会です。名刺カードを交換して、早く仲良くなりましょう。

『デカパン』は難しいな。
1年生が転ばないように、気をつけてリードしなくっちゃ。

《ふれあい運動会 ペア競技》

ペア学級で協力して色別に競う競技を行った。練習から高学年がリードし、当日はスタート合図や結果発表も子どもたちで行った。2学年が力を合わせて競うこともあり、本番は大いに盛り上がった。



【活動の振り返り】

- ◇ ペアでの活動を続けてきたことにより、高学年の子どもが低学年の時にしてもらったことを積極的にしてあげたいという気持ちで責任感をもってペア活動に臨む姿が見られた。
- ◇ ペアのかかわりの中で、思いやりや感謝の気持ちをもち、伝え合うことができるようになった。
- ◆ 行事の精選により、ペア活動が従来どおり行えない部分も出てきた。内容の精選と練り直しを行いながら、ねらいをもってペア活動を続けていきたい。

3 環境部会の取組

環境部会では、子どもたちが学び合える環境を整えるために、物的環境と人的環境の2つの面から環境改善に取り組んだ。

(1) 子どもたちが学び合える教室環境等の整備

① ワークシート等の掲示

ア 単元学習のワークシートを連続して掲示

子どもたちは、授業中の「考えたこと」「わかったこと」「感想」などをワークシートに書き込む。これらのワークシートを連続して、背面掲示板等に掲示することにより、一人一人の子どもの考えや思いを互いに共有することができた。また、考えの変遷を確認することもできた。

イ 子どもたちの振り返りや授業の感想を学級全員に共有化

グループワークトレーニングでは、全員の振り返りシートの「考え」や「感想」を抜き出し、印刷することにより、子どもの考えや思いを学級で共有することができた。

② 話し合いのルール等の徹底

ア 「聞き方名人」「話し方名人」の掲示

子どもたちが話し合いの仕方を常に意識できるように、「聞き方名人」「話し方名人」のボードを各教室の前面黒板の上に掲示した。これにより、低学年の段階では、話し合いの基本が、高学年の段階では、話し合いを深めようとする意識が向上してきた。

イ 発言の仕方等の掲示(低学年)

話し合いが苦手な子どもたちも話し合い活動に参加できるように、発表の仕方、意見の付け加え方、司会の仕方などの話型を、低学年の段階では黒板等に掲示し、発言の仕方が少しずつ身に付くように工夫した。

聞き方名人(低学年)	
レベル4	じぶんの意見とくらべながら聞く。
レベル3	しつもんを考えながら聞く。
レベル2	つたえたいことは何かを考えながら聞く。
レベル1	話す人に体をむけてさいごまで聞く。

③ 学級を超えた学び合いを促す学年掲示

学級だけではなく、学年全体でも子どもたちが互いに刺激し合い、学び合えるように、学年掲示板を活用し、学年目標を掲示したり、子どもたちの感想を掲示したりした。

(2) 子どもたちを取り巻く人的環境の改善(人間関係づくり)

① グループワークトレーニングの活用

ア グループワークトレーニングのねらい

子ども同士が学び合い、考えを深め合うためには、互いに十分な話し合い活動ができることが必要である。しかし、話し合うための環境をつくること、そして、その話し合いを深めるということは、なかなか容易ではない。

そこで、話し合いの環境改善を目指して、グループワークトレーニングを実施してきた。まずは、全員で共同作業を行うことから始めた。自分一人で行うのではなく、グループで協力できるように働きかけた。次に、楽しい情報伝達活動を通して「人の話の内容をしっかりと聞くこと」「自分の情報をしっかりと話すこと」を繰り返した。



グループワークの様子

また、活動後の振り返りを通して、かかわり合うときの気持ちやどうしたらよいかについての考えを互いに確認した。さらに、子どもたちの納得した話し合い活動ができるように、合意形成のためのグループワークも行った。

イ 年間学習計画

グループワークトレーニング年間計画

	4～7月	9～12月	1～3月
1年	人間コピー	せんせいのおうちはどこ	むしむし教室の席がえ
2年	お誕生日おめでとう	人間コピー	むしむし学校
3年	色えんぴつわすれちゃった	お祭りに行こう	わたしたちのお店やさん
4年	ぼんぼこ漕	先生ばかりのマンション	ぼくらの先生
5年	ぼくらのクラス	ケーキをかざろう	なぞの宝島
6年	続なぞの宝島	宝島を脱出せよ!	ぼくらの先生

② ソーシャルスキルトレーニングの活用

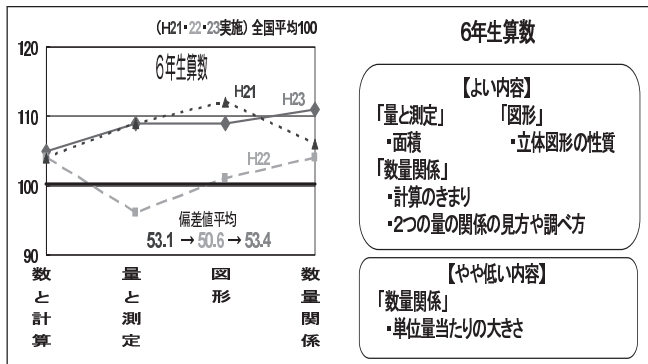
授業中落ち着かなかつたり、人と上手にかかわれなかつたりする子どもたちに対しては、彼らが必要とする社会性を身に付けることができるように、ソーシャルスキルトレーニングも取り入れた。

4 評価部会の取組

評価部会では、日々の実践の成果を検証するために、次の3項目について実態の分析を行い、そこから得られた結果を授業部会や環境部会で課題の改善の取組に活かすようにした。

(1) 全国標準学力検査（NRT）

本校では、主に知的学力の側面を振り返るために、毎年4年生以上の国語と算数においてNRTを実施し、経年変化を分析している。本年度は、2年生以上の学年でNRTを実施し、学年ごとによい内容とやや低い内容をまとめ、結果の分析と改善点について検討した。その内容については、学校通信として各家にも配付した。



(2) 楽しい学校生活を送るためのアンケート（Q-U）

NRTの結果（6年生算数）

「学び合い育ち合う」学級集団づくりのために、昨年度からQ-Uを実施している。Q-Uは、「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」と「いごちのよいクラスにするためのアンケート」から構成され、その結果から、学校生活における児童個々の意欲や満足感、学級集団の状態を把握することができる。よりよい人間関係が形成されたかを検証するために、「いごちのよいクラスにするためのアンケート」のうち「被侵害得点」（不適応感やいじめ・冷やかしなどを受けていると感じている度合いを示す）に着目し、昨年度の前期と後期の結果を比較して、同一年度での学級集団の変化や「学校生活意欲総合点」を検証した。



Q-U研修会の様子

また、本年度も専門の講師を招いて、結果の分析の仕方や活用方法について学習会を行った。そこから得られた学級の実態に応じて、よりよい人間関係づくりに活かすようにした。

(3) 教育アンケート

「学び合い」についての意識調査をするために、本年度も教育アンケートを実施した。児童用と教師用では、項目を一致させ、同じ内容についてそれぞれの意識が分かるようにした。また、保護者対象のアンケートも実施し、学校の教育活動について評価してもらい、今後の成果と課題を明確にした。さらに、研究にかかわる部分で家庭での子どもの様子を振り返ってもらい、家庭と学校が連携して教育活動を進められるようにしている。

児童用アンケートの項目（一部）	教師用アンケートの項目（一部）	保護者用アンケートの項目（一部）
・本を読んだり読んでもらったりすることが好きだ。	・本が好きなような手だてを講じている。	・学校は子どもたちが読書に関心を持つように働きかけていると思いますか。 ・家庭では子どもたちが読書に関心をもつように働きかけていますか。
・自分からすすんで学級や学校のための仕事ができる。	・自分からすすんで学級や学校のための仕事ができるような場面設定を意識している。	・学校は子どもたちが主体的に活動できるように支援していると思いますか。 ・家庭では子どもたちが主体的に活動できるように支援していますか。
・いろいろな学習で協力してグループ活動をしている。	・いろいろな学習で協力してグループ活動できるように働きかけている。	・学校は子どもたちが協力できる活動を取り入れていると思いますか。 ・家庭では子どもたちとコミュニケーションが取れるようにしていますか。

5 家庭・地域との連携

(1) 開かれた学校づくり

① 家庭や地域に毎日授業公開



保護者や地域の方にいつでも授業や行事を公開しています。また、学習支援を中心に、や本の読み聞かせやクラブ活動等でも地域の多くの方に支援をいただいています。

② 地域支援ボランティアによる支援



③ 地域を活かした体験活動



近くに木曽川が流れ、城下町という立地条件や地域の様々な人材を活かした体験活動を多く取り入れています。



④ 学校行事・地域行事への参加



ふれあい運動会をはじめ、様々な行事や活動を保護者や地域の方と共に創り上げています。また、地域の祭りや行事に積極的に参加し、北小の取組を紹介しています。



(2) 家庭・地域・学校間の共通理解

① 学校説明会、自主研究発表会の開催



毎年、保護者や地域向けに学校説明会や自主研究発表会を開催し、北小の学び合いの取組について共通理解を図っています。また、子育てについて話し合う場を設けています。

② 懇談会や学習会をPTAで開催



③ 学校通信やPTA新聞による情宣活動

学校通信 NO. 2
共に学び 共に育つ

みんなとっしょ

4月27日の授業観察・PTA総会は、多くの方々に参加いただき、学校も子どもたちも「生き生き」な学習活動が推進して参ります。そのためには家庭・地域・学校の連携が不可欠です。今後ますます本校の取組について紹介させていただきます。互いに共通理解を図りながらご協力をお願いします。

学び合いで「生きる力」＝「確かな学力」と「豊かな人間性」を育みます

本校では、犬山を小学校に集う子どもたちが空想や時間を共に過ごすだけでなく、自分の個性や特性を理解すると共に、相手や周囲の人々の気持ちも尊重し、集団生活の中で、夢の実現に向けて行動できる人間に育つことを目指しています。また、「自分の幸せは、他人の幸せと共有できている意味がある」という意識を持てるように成長することを願っています。これからの不透明な厳しい社会で生きる力を育てるためには、何事にも勇気を持って臨み、挑戦する強い意志が大切です。あらゆる教育活動に積極的

④ 学びの学校運営委員会

平成23年度

学びの学校づくり

— 共に学び 共に育つ —

犬山市立犬山北小学校

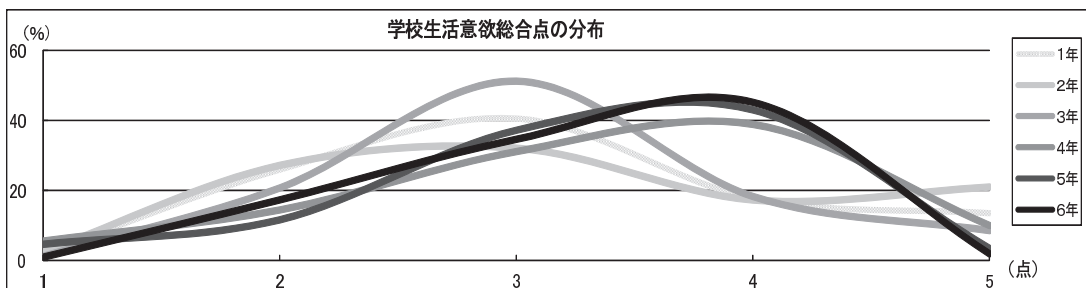
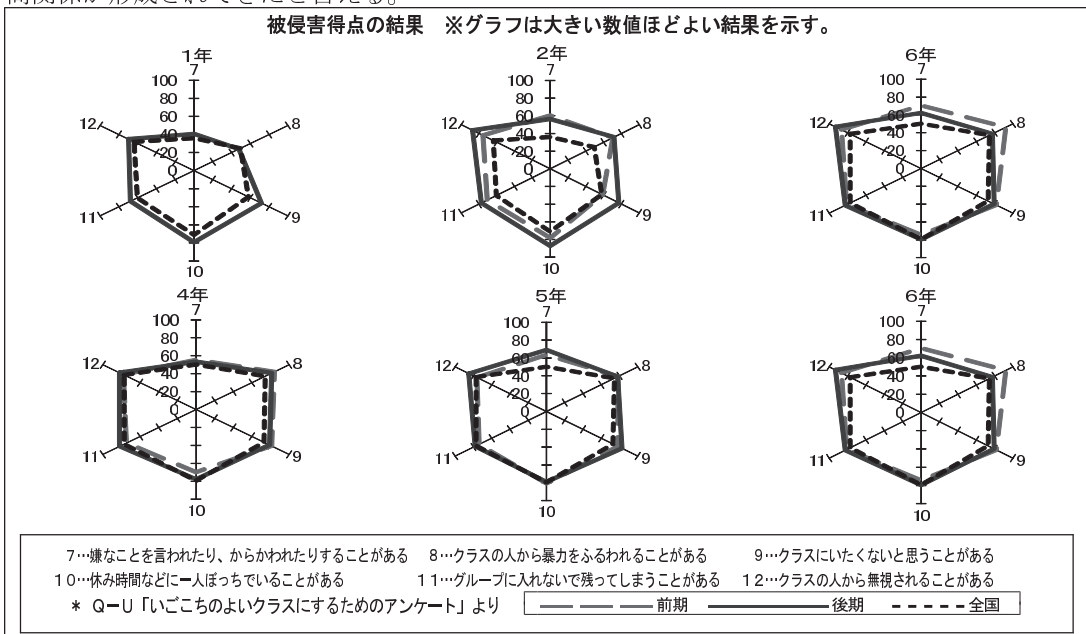
Ⅲ 研究の検証

検証1 子ども同士がかかわり合う授業や人間関係づくりの場を意図的に設定することによりコミュニケーション能力が育ち、よりよい人間関係が形成されたと言えるか。

Q-Uの結果から「被侵害得点」と「学校生活意欲総合点」の2点について検証を行った。「被侵害得点」は、トラブルやいじめなどの不安がなくリラックスできているかの得点を表している。この得点が高ければ、子どもたちにとっていごちのよいクラスであると考えることができる。どの学年も全国平均を上回っており、ほとんどの学年で前期よりも後期の結果がよくなっていることから、概ね望ましい結果が得られたと言える。

また「学校生活意欲総合点」は、全国平均では、高学年になると点数が下がるが、本校では得点の分布が高い方へ移行している。これは、学年が進むにつれてかかわり合う授業や活動を通して学び合いや助け合いが行われ、学級内で仲間の良さに気付いてきたからと言える。

上記の内容や教育アンケートなどから、コミュニケーション能力が育ってきており、良好な人間関係が形成されてきたと言える。



検証2 子どもの意欲を引き出し、互いに高め合い深め合う手だてを工夫しながら適切に支援することにより、子どもたちの主体性（自立）や協調性（共生）は育ち、学力が向上したと言えるか。

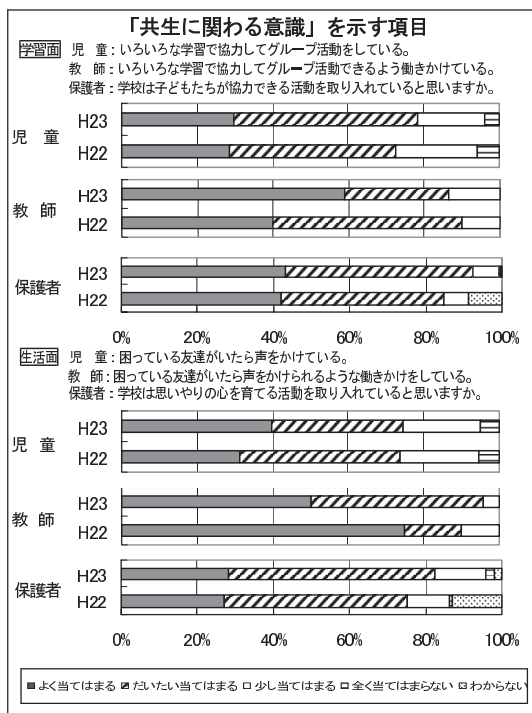
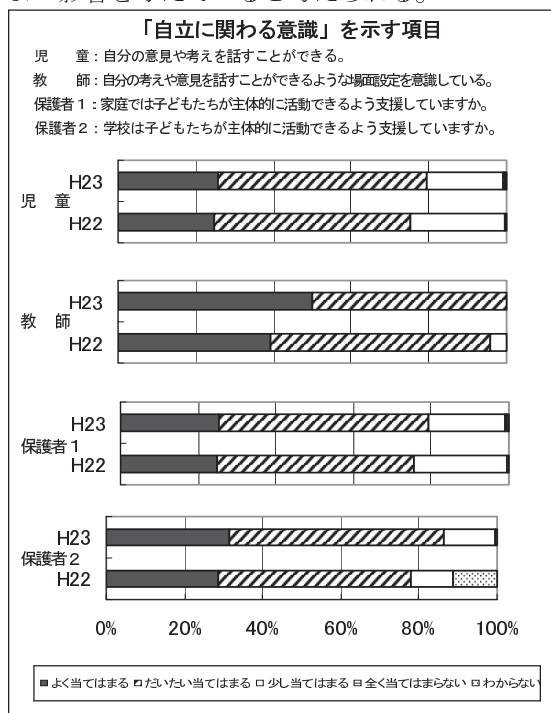
児童・教師・保護者に教育アンケートを行い、子どもたちの主体性（自立）と協調性（共生）について、また学力の向上については知的学力の側面からNRTの結果で検証を行った。

児童用教育アンケートの「自立に関わる意識」を示す項目（自分の意見や考えを話すことができる等）では、昨年度より肯定的な回答の割合が増えている。「共生に関わる意識」を示す項目

(いろいろな学習で協力してグループ活動をしている)(困っている友達がいたら声をかけている等)でも、昨年度より肯定的な回答の割合が増えてきている。

NRTでは、国語と算数4項目ずつ(2年・3年の算数は3項目)2~6学年で38項目の内36項目で全国平均を上回っている。偏差値平均は、51.2~54.6を示し、5年の国語と算数、6年の算数では、昨年よりよい結果となっている。(4年以下は、昨年度までNRTを実施していない。)

これらのことから、教師も子どもの意欲を引き出し、互いに高め合い深め合う手だてを工夫しながら適切に支援することを心掛けており、それにより子どもたちの主体性(自立)や協調性(共生)の意識が深まり、様々な活動における行動に結びついていると同様に、学力面にもよい影響を与えていると考えられる。



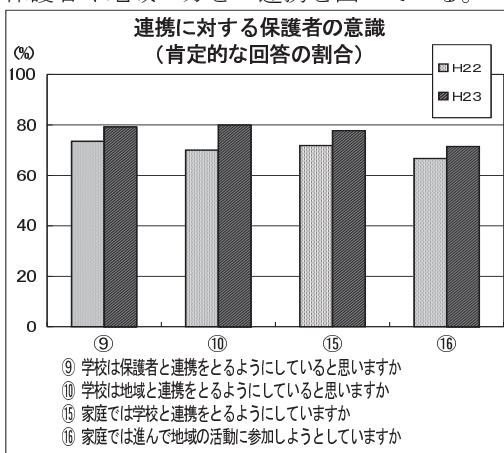
検証3 学び合いの取組や活動において、家庭や地域と共通理解を図りながら互いに連携していくことで、目指す子ども像の実現により迫ることができたと言えるか。

本校では前述のように、様々な取り組みを行い、保護者や地域の方との連携を図っている。

保護者用教育アンケートのうち、学校・家庭・地域との連携について尋ねた4項目において、7割以上の家庭が「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」と答えており、その割合は、どの項目も昨年度より上昇している。

また、自立と共生に関わる項目(検証2のグラフ参照)で昨年度と比較すると、「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」という回答が増え、「わからない」という回答が格段に減っている。これは、学校教育に対する保護者の関心が高まり、理解が深まったことを表している。

これらのことから、家庭や地域と共通理解を図りながら互いに連携することができていると言え、それによって目指す子ども像の実現に迫ることができたのではないかと考える。



以上のことから、研究主題に根ざした取組を行うことで、子どもたちの確かな学力や豊かな人間性を培うことができたのではないかと考えられる。

Ⅳ 研究の成果と課題

1 成果

(1) 学習活動の質的向上

子どもたちの学習に取り組む姿勢は、課題や解決方法を自ら考えたり、グループで活動したり、体験的な活動をしたりすることにより、学習に主体的に取り組んでいると自覚でき、充実感に満ちてきている。また、学習の苦手な子どもたちも、グループ活動などにおいて気軽に友達に聞いたり、話し合ったりすることで、課題解決の方法がわかるようになってきた。わかるようになると、さらに学習に意欲的に取り組むようになるなど、クラス全体での学びが向上してきている。



多のびのびと話し合う子どもたち

このような学習活動の質的向上は、結果としてNRTでは、どの学年も国語と算数のほとんどの項目で全国平均を上回ると同時に、一部の項目を除き昨年よりも向上していること、さらに全国分布に比べ、下位の学力群（5段階評価で2・3）の子どもたちが、上位群（同じく3・4）に移動してきていることから裏付けられる。

(2) 子どもたちの精神的安定

子どもたちは、授業中、ペアで学習したり、グループで学習したり、学級全体で学習したりして互いにかかわり合っている。その中で、子ども同士が互いのよさを見つけ、認め合い、励まし合いながら、学習に取り組んでいる。さらには、学校行事や児童会活動、日常生活といった学校全般の活動においても、互いにかかわり合い、認め合い、励まし合いながら取り組み、満足した学校生活を送っている。そのことで、子どもたちは、孤独感や疎外感をもつこともなく、互いがつながり合っていると感じ、精神的に安定してきている。また、授業に落ち着いて取り組めない、自分本位に行動してしまう、人とかかわり合うことが苦手であるといった子どもたちも、以前と比べて仲良く一緒になって活動できるようになってきた。

このことは、教育アンケートやQ-U結果からも、子ども同士のよりよい人間関係や、よりよい学級集団づくりが、昨年より進歩していることや、学年が進むにつれて向上していること、さらには、長期欠席者の割合が、全国平均に比べてかなり低いこと等からも裏付けられる。

(3) 家庭・地域との連携強化



日曜学級の様子

本校では、授業参観等以外にも、多くの場面で学校を公開したり、積極的に子どもたちが地域で活動したりして、家庭や地域との連携を図ってきている。また、授業では多くの保護者や地域の方々に、地域支援ボランティアとして協力いただいたり、学年の活動でも支援や協力いただいたりしている。このようなことから、学校・家庭・地域みんなで子どもたちを育成していくとする意識が着実に芽生えてきている。

このことは、保護者向けの教育アンケートから、学校や地域との連携や地域活動への参加などの項目で、昨年よりも向上してきていることから裏付けられる。

(4) 教師の授業力向上

教師の行う支援の仕方が、昨年よりも一層鮮明になり、授業力は確実に向上している。これは、度重なる研究授業やその後の研究協議会を通して、教師がコーディネーターであることを十分意識できるようになってきたことと、「子どもたちが授業に主体的にかかわるため」や「子どもたちが高めあい深く合うため」には、どのような手だてで支援したらよいかなど、職場の同僚性を基盤に、幾度となく試行錯誤しながら研究に取り組んできたことの成果である。

2 課題

(1) 教科の専門性をより追究した支援

これまでの研究は、どちらかと言えば教科・領域全般にわたるコーディネートのあり方を中心にしてきた。今後は、さらにそれぞれの教科のもつ専門性をより追究したコーディネートについて研究していきたい。

(2) 「書く」力の向上

子どもたちは、聞き方名人・話し方名人などを意識し、話し合いの中で『聞く力』『話す力』は向上してきた。今後は、自己表現の方法としての『書く力』についても着目し、その力を伸ばすためにどのように支援したらよいか考えていきたい。

研究のあゆみ

◆平成22年度

- 4月 丹波地方教育事務協議会・犬山市教育委員会より研究委嘱
- 5月 現職教育「研究推進のための組織づくり」 研究授業・6年外国語活動
- 6月 学校説明会「北小の研究について、平成21年度研究の成果と課題について」
研究校視察・岐阜市立長良東小学校
- 7月 グループワークトレーニング研修会 Q-U分析講習会
- 8月 現職教育「特別支援教育について」
- 9月 研究授業・3年国語 中京大学教授 杉江 修治先生
学びの学校運営委員会「平成22年度前期の取り組みの成果と課題」
研究校視察・犬山西小学校
- 10月 研究授業・2年国語、5年算数
研究校視察・扶桑町立山名小学校、岩倉市立曾野小学校、江南市立古知野中学校
富山市立奥田小学校
- 11月 研究授業・4年社会
- 12月 研究授業・1年道徳 研究校視察・静岡市立安東小学校
- 1月 自主研究発表会（中間報告）
- 2月 研究授業・2年算数、5年算数、6年算数 中京大学教授 杉江 修治先生
研究授業・仲よし算数 研究紀要（中間報告）作成
- 3月 研究授業・1年道徳、3年算数、4年理科 中京大学教授 杉江 修治先生
現職教育「今年度の振り返りと来年度に向けて」

◆平成23年度

- 4月 現職教育「23年度の現職教育について」
- 5月 研究授業・1年算数、2年算数、3年音楽 中京大学教授 杉江 修治先生
研究授業・2年国語、6年社会 研究校視察・愛知教育大学附属名古屋小学校
- 6月 研究授業・3年算数、5年国語、1年学活 中京大学教授 杉江 修治先生
研究授業・4年道徳 研究校視察・岐阜大学附属小学校
- 7月 研究校視察・岐阜市立加納小学校
Q-U学習会 応用教育研究所 杉村 秀充先生
研究授業・1年国語、2年音楽、6年理科、6年国語 中京大学教授 杉江修治先生
- 8月 グループワークトレーニング学習会 現職教育「紀要原稿、指導案の検討」
- 9月 研究授業・4年学活、5年算数、仲よし生活単元 中京大学教授 杉江 修治先生
- 10月 学習環境整備 プレゼンテーション検討 研究発表会

おわりに

本校では、子どもたちに身に付けてほしい力について語る時、「じぶんでがんばる」「みんなといっしょ」という言葉を使っています。「じぶんでがんばる」とは「自立」の力を育むことであり、基礎・基本を確実に身に付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力などの「確かな学力」を身に付けていくことです。そして、「みんなといっしょ」とは「共生」の力を育むことであり、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの「豊かな人間性」を身に付けていくことです。これらの力を付っていくことが、子どもたちが、将来、個性を發揮し、困難な場面や新たな課題に出会っても、それを解決し乗り越えていくような力へとつながると考えています。

この2年間の研究の中心は、本校がこれまで継続して追究してきた子ども主体の「学び合い」の授業づくりの深化・発展でした。それとともに、学びの基盤となる子どもと教師、子ども同士の人間関係づくりや課題解決集団としての学級づくりをめざし、グループワークトレーニングなども取り入れてきました。

私たちが授業づくりを進めるにあたって大切にしてきたことは、「授業を通して自立と共生を育てる」「子どもたちはどの子も伸びたがっている」「教師は子どもたちの成長を支援するコーディネーターである」という意識を常に持ち、地道に実践研究を積み上げていくことでした。本日の公開授業でその一端を見ていただけたらと考えています。

2年間の研究の区切りにあたり、思うことがあります。それは、「学び合い育ち合う子どもの育成」を研究主題として取り組む中で、私たち自身が学び合い育ち合うことができたということです。私たち一人一人が「自立」と「共生」の力を高めることができたように感じています。課題はまだ多く残されていますが、諸先生方からのご指導・ご助言を賜り、子どもたちに「確かな学力」と「豊かな人間性」を培っていくことができるよう、継続して実践・研究を深めてまいりたいと思っています。

最後となりましたが、この研究を進めるにあたり、ご指導を賜りました方々に対し、ここにあらためて厚くお礼申し上げます。

教頭 杉本 義裕

補足資料

発表会当日はパネル掲示も行われた。その中から選択して次の資料を添付する。

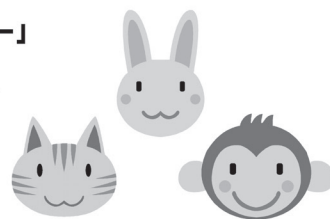
- 1 紀要で報告された各実践の「コーディネートの具体事例」と「子どもたちの活動の様子」
- 2 環境部会の活動に関する写真資料
- 3 評価部会が用いたアンケートの様式

1 年

1 学級活動：グループワークトレーニング「どうぶつファッションショー」

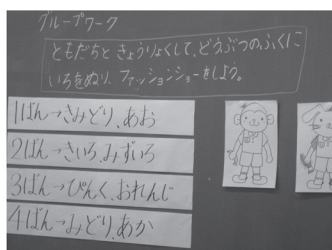
2 ねらい：ともだちときょうりょくして、どうぶつふくにいろをぬり、
どうぶつファッションショーをしよう。

3 コーディネート

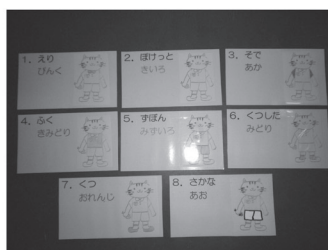


A子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

○一人が2色ずつ担当し、
全員が責任を共有



○子どもの発達段階に合わせた
情報カード

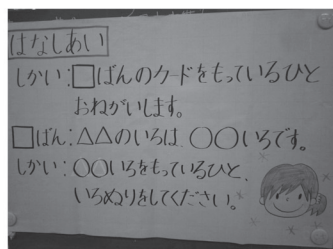


○興味をもてる
課題提示の工夫



B子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

○話型を示す



○司会者を中心にグループで話し合い



4 活動の様子



スポンはみずいろです。

みずいろをもっているひと、
いろぬりをしてください。



じょうずにカードを読んできたから、
よく分かったよ。ありがとう。



みんなできょうりょくして
いろぬりができて、うれしかったよ。

5 成果と課題

成果1 話し合いのルールに沿って、話し合い活動がスムーズにできた。

成果2 全員が課題意識をもって、意欲的に学習活動に取り組むことができた。

課題1 活動の約束が曖昧になり、ルールの徹底ができていないところがある。

課題2 今後は、言葉遣いや役割分担について考えることができるように、継続して学習に取り組む。

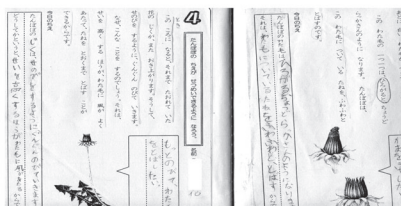
2 年

- 1 国語：読んでわかったことをまとめよう 「たんぽぽのちえ」
- 2 ねらい：たんぽぽのちえがせつめいできるようならう
- 3 コーディネート

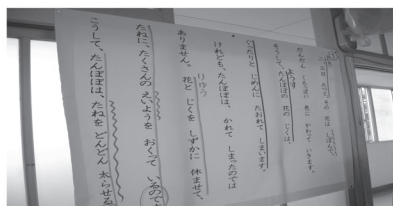


A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

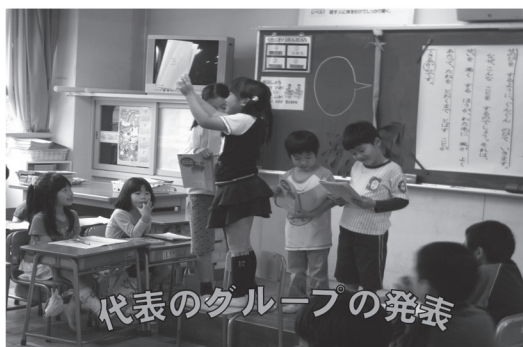
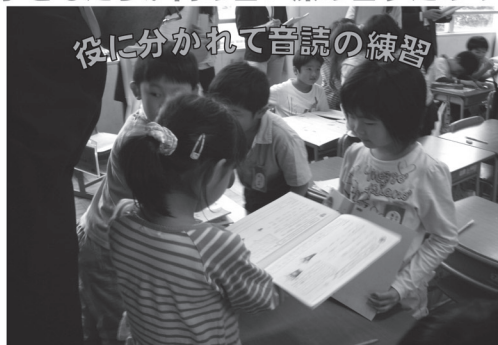
○たんぽぽの台詞を考える



○前時までの学習のあゆみ



B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート



4 活動の様子



「くんぐんのびて」をどうやって あらわそうか、



〇〇さんの読み方は、とってもいいね。

せりふもよく考えたね。

5 成果と課題

成果 1 度目のグループの発表を見ることで、それが模範となり2度目の練習に変容が見られた。

課題1 たんぽぽの台詞についての練り直しが不十分だった。教師が模範を示す場合も必要である。

課題2 発表を聞くときのポイントを明確に示すために、教師の指示の精選が必要である。

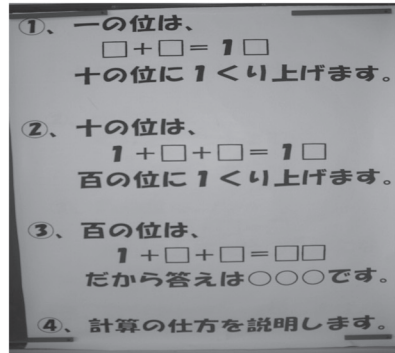
3 年

- 1 算数：たし算とひき算の筆算
- 2 ねらい：くり上がりの2つあるたし算の筆算ができるようになる
- 3 コーディネート

A子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

○見通しのもてる授業づくり

○算数用語を用いた話型の掲示



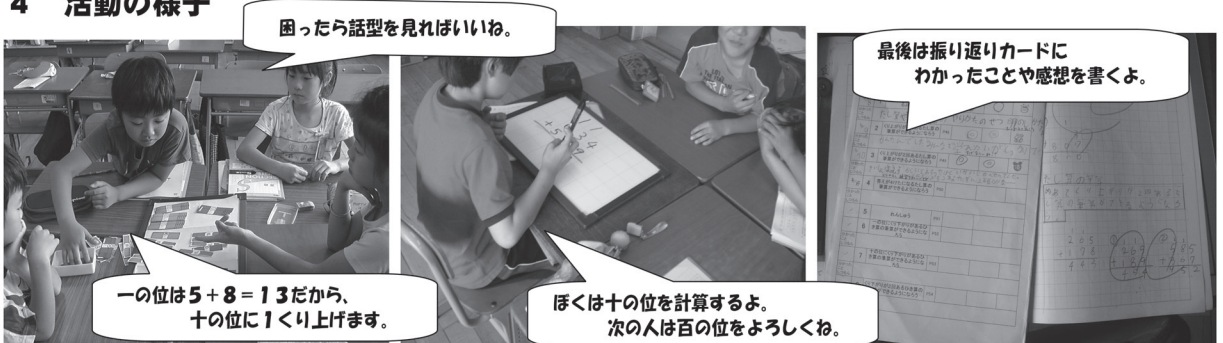
B子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

○仲間とひとつの教具を使って

○リレー方式で、一緒に計算



4 活動の様子



5 成果と課題

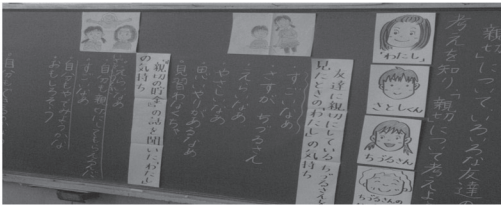
- 成果1 学習の流れが前時と同じだったため、見通しをもった活動ができた。
- 成果2 計算方法の説明をくり返すことで話型が身につく、計算方法の定着が見られた。
- 課題1 少人数授業としての、教師と子どものかかわりを考えていく必要がある。
- 課題2 数の量感をしっかりと把握できる教具の取り扱い方を考えていく必要がある。

4 年

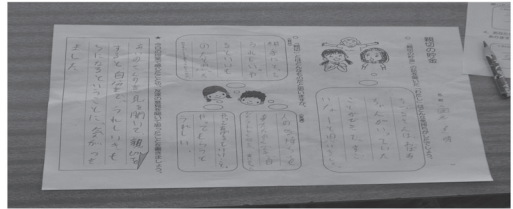
- 1 道徳：相手の気持ちを考えて「親切の貯金」（出典 教育技術）
- 2 ねらい：「親切」についていろいろな友達の考えを知り、「親切」について考えよう
- 3 コーディネート

A子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

○場面絵を提示



○ワークシートを使用

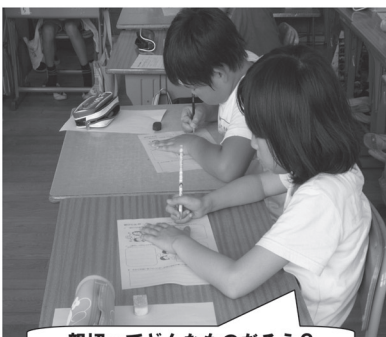


B子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

○より多くの考えに触れるために、男女を問わず多くの友達と意見を交換する



4 活動の様子



親切ってどんなものだろう？



私は人にありがとうって言ってもらえることだと思うよ。



友達の話聞いて、親切はつながるものだと分かりました。

5 成果と課題

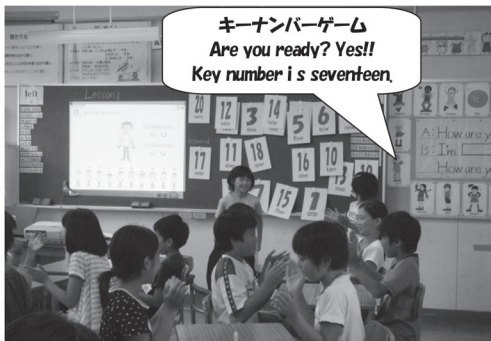
- 成果1 「親切」についての価値を理解することができた。
- 成果2 グループワークがスムーズに行われ、多くの友達と意見交換をすることができた。
- 課題1 ワークシートの内容を精選し「書く」時間を短縮させる必要がある。
- 課題2 道徳の授業は、子どもの本音（価値）をつぶやく場にする必要がある。

外国語活動

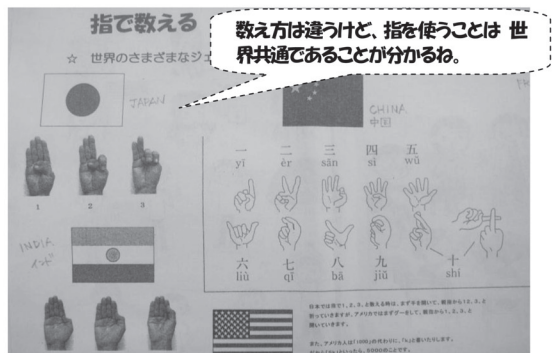
- 1 外国語活動: Lesson 3 「数で遊ぼう」
- 2 ねらい: 世界の様々なジェスチャーを知り、ジェスチャーをつけて1~10までの数を言えるようになろう
- 3 コーディネート

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

○自分たちで進める簡単なゲーム



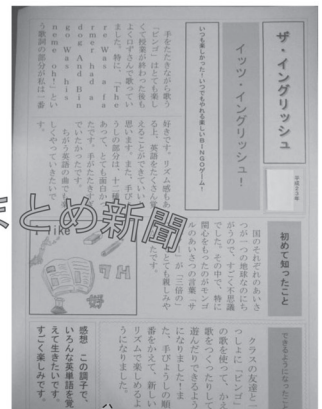
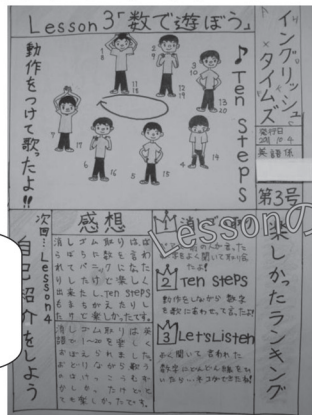
○相違点・共通点に気付く資料提示



B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート



4 活動の様子



○関心・意欲・態度「楽しかったこと」
 ○気付か「初めて知ったこと」
 ○慣れ親しみ
 「できるようになったこと」
 をポイントにしてまとめました。

5 成果と課題

- 成果 1** 異文化に意欲的に触れ、子どもが意欲的に楽しく活動できていた。
- 課題 1** それぞれの国の文化の共通点を理解するさらなる手だてが必要。
- 課題 2** ペアやグループで活動しているが、学級みんなが伸びようという気持ちをもたせることが必要である。

総合的な学習の時間（白帝ワーク）

1 ねらい：犬山の文化・環境・歴史について、子どもたちの興味・関心に基づいて調べたり体験したりして、学び方や調べ方を身に付け、自ら学び自ら考える力を育てる。

2 コーディネート

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

自分の住んでいる身近な地域を取り上げる。



B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

協力して調べ、発表を聞く場を設定する。



3 活動の様子

3年：犬山 ふるさと見つけ隊

4年：命の源 木曾川



5年：広げよう 守り育てられた犬山の文化

6年：歴史探検隊



4 活動の振り返り

- ◇ 子どもたちが興味・関心をもって取り組むことができ、地域の方ともたくさん触れ合えた。
- ◆ 時間数削減に伴い、活動の精選をしていきながら、充実した時間となるようにしていきたい。

特別活動

1 ねらい

委員会活動やペア活動などを通して、問題解決能力や所属意識、連帯意識がもてるようにする。ここでは主にペア活動について紹介する。

2 コーディネート

A子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

○学年の枠を越えたペア組み



○自治的な集会などを企画



B子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

○ペアで取り組む活動の充実



3 活動の様子



4 活動の振り返り

成果1 積極的にかかわりをもち、責任感をもって活動に臨む姿が見られた。

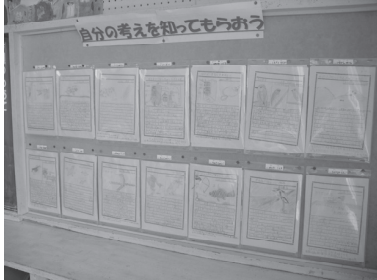
成果2 思いやりや感謝の気持ちをもち伝え合うことができるようになった。

課題 行事の削減にともない、ペア活動の精選と練り直しが必要である。

環境部会の取組

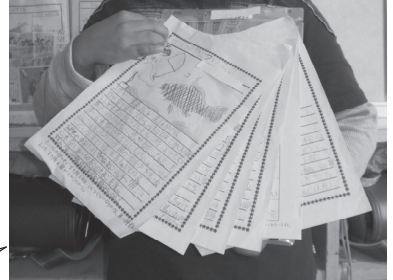
- ◇ 子どもたちが学び合えるように教室環境等を工夫する。
- ◇ 子どもたち同士のよりよい人間関係作りに取り組む。

1 学級掲示等の工夫



ワークシートで自分の考えをみんなに知らせる。

単元を通して考えを積み重ねる。



2 『聞き方名人』『話し方名人』の掲示

聞き方名人

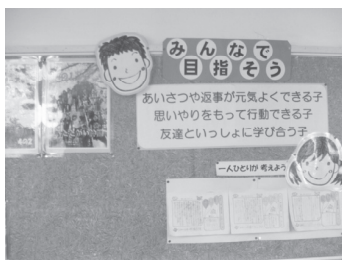
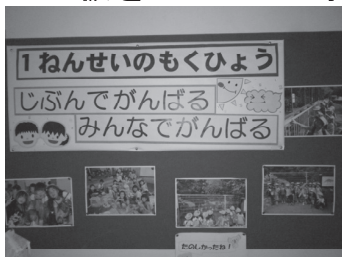
- レベル4 じぶんの意見とくらべながら聞く。
- レベル3 しつもんを考えながら聞く。
- レベル2 つたえたいことは何かを考えながら聞く。
- レベル1 話す人に体をむけてさいごまで聞く。

話し方名人

- レベル4 わたしは、〇〇さんと同じで・・・です。とちがって・・・です。につけたして・・・です。
- レベル3 わたしは・・・と思います。それは・・・だからです。
- レベル2 わたしは・・・と思います。みなさんはどうですか。
- レベル1 はい・・・です。みんなに聞こえるように話そう！



3 学級を超えた学年掲示板



4 グループワークトレーニング『どうぶつファッションショー』の取組

(1) 活動のねらい

GWTを通してよりよい人間関係を構築する。

(2) GWT取組の手順

① 課題と目標を把握する。

子どもたちが、「指示書」等を見て、みんなで何をし、どのように協力するかを認識する。

② グループで協力して活動する。

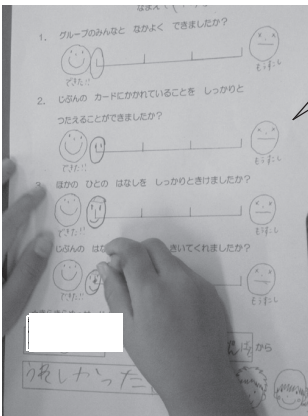


班員みんなで協力して活動する。



できあがった作品。

③ みんなで振り返り互いを認め合う。



振り返りカードの記入。

みんなで発表し合い、お互いの考えを交流し、認め合う。



④ 感想発表する。

GWT「どうぶつファッションショー」の感想

- みんなで楽しく色塗りができたよ。
- 司会の人と話し合いを進めてくれたよ。
- 優しい言葉をつかうことができたよ。
- みんなで協力すると楽しいね。
- みんなに聞こえる声でカードに書いてあることを言うことができたよ。

第二部 学習指導案

学級	教科	単元・題材・主題名等	授業者
1-1	国語	こえにだしてもよう「くじらぐも」	嶋崎 崇大
1-2	算数	たしざん(2)	稲垣 江美
1-3	学活	グループワークトレーニング 「せんせいのおうちはどこ？」	加藤 千智
2-1	生活	もっとまちの人となかよくなるう	坪内 茂雅
2-2	算数 (少人数)	かけ算(1)	藤本 弘子 日比野雄子
2-3	国語	音読劇をしよう 「お手紙」	山田 敦貴
3-1	算数 (少人数)	分数	水津 徹哉 近藤 真美
3-2	音楽	につぼんのうた みんなのうた	大島奈保美
3-3	国語	言葉「修飾語」	武山 綾乃
4-1	学活 (IT)	望ましい食習慣 「おやつについて考えよう」	伊藤 佑斉 斉木伊津子
4-2	国語	説明のしかたについて考えよう「アップとルーズで伝える」	吉田 清美
4-3	道徳	正直な心 「まちがえた服」	加藤 順子
5-1	外国語活動	Lesson6 外来語を知ろう	宇佐見沙里
5-2	算数 (少人数)	面積	間瀬千鶴子 佐光美智子
5-3	国語	作品を自分なりにとらえ、朗読しよう 「大造じいさんとガン」	鬼田 聡
6-1	社会	世界に歩みだした日本	太田 育宏
6-2	理科 (IT)	土地のつくりと変化	中西 俊雄 小川 春海
6-3	国語	作品の世界を深く味わおう 「やまなし」	黒谷あかね
仲良し1 仲良し2	生活単元 (IT)	さつまいもをさいばいしよう	林 栄五郎 吉田 幸子

1 単元名 こえに だして よもう 「くじらぐも」

2 立案の立場

(1) 子どもの実態と教師の願い

本学級は明るく活発な子が多く、授業中には元気に発言したり、放課になると外で走り回って遊んだりする姿が見られる。毎朝の読書にも進んで取り組んでいる。しかし集中して取り組める時間が短く、近くの子と話をしてしまったり、他の事を始めてしまったりする子もいる。

一人一人が、今何をするときか判断し、行動できるようにしていきたい。また、互いに声を掛け合うことができ、みんなが自分のことを見てくれていてと感じられる、あたたかい雰囲気クラスにしていきたい。

(2) 単元について

この教材は、体育の時間のくじらぐもと子どもたちとの交流を通して、子どもたちの「くじらぐもに乗って大空を飛び回りたい」という願いが叶えられていく面白さが描かれている。文章は全体的に簡潔で会話文が多く、歯切れのよい文章となっているので、楽しく音読をすることができる。「みんなが…すると、くじらも…しました。」というような呼応表現の繰り返しは、登場人物の動きを豊かに想像させるために効果的である。さらに、生き生きとした子どもたちの表情が描かれている挿絵なども生かして場面ごとに読み取り、場面の様子を想像しながら音読できるようにしたい。「自分だったら」あるいは「登場人物になったつもりで」という発想で会話を想像させ、子どものさまざまな想像を導き出し、その喜びや楽しさを豊かに表現させたい。

3 単元の目標

(1) 場面の様子を想像し、その様子が表れるように声を出して読むことができる。 (読む)

(2) 書いたものを読み合って、よいところを見つけて感想を伝え合うことができる。 (書く)

(3) かぎ(「 」)の使い方を理解することができる。 (言語についての知識・理解・技能)

4 単元の計画 (10時間完了)

(1) 全文を読んで話の筋をつかみ、学習の見通しをもつ ----- 1時間

(2) 音読や動作化を通して、想像を広げながら場面ごとに読む ----- 7時間 (本時4/7)

(3) くじらぐもに手紙を書き、友達と読み合いながら感想を伝え合う ----- 2時間

5 本時の展開

(1) 本時の目標

① くじらぐもと子どもたちの様子を想像することができる。 (読む・書く)

② 想像したことを生かして、音読をすることができる。 (読む)

(2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

子どもたちの思いを言葉で表し、音読の工夫を生かせるようにするために、吹き出しのついたワークシートに自分の考えを書き、意欲的に取り組む場を設定する。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

会話文の読み方を工夫した音読になるようにするために、それぞれの考えをグループで交流しながら音読に取り組む場を設定する。

(3) 本時の流れ

段階	子どもの学習活動 ・予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点 【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
つかむ	1 挿絵を見て、前時を振り返る。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> くじらぐもとどんなことをしたかを尋ね、前時の学習を想起できるようにする。 学習の流れを確認する。
	2 本時のめあてを知る。		
5	おわかれをする「子どもたち」と「くじらぐも」のきもちがつたわるようにおんどくをしよう		
取り組む	3 p.12～p.13を音読し、登場人物や場面の様子を想像する。 (1) 音読する。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 「子どもたち」や「くじらぐも」になったつもりで、気持ちを考えながら読むように伝える。
	(2) ワークシートを使い、登場人物のことばを考えて書く。		
15			

	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとう。たのしかったよ。 ・せなかがふわふわしていて、きもちよかったよ。 ・そらのうえはおもしろかったね。またあそぼうね。 <ul style="list-style-type: none"> ・またあそびにいくからまってね。 ・またみんなといっしょにたいそうをしたいな。 <p>(3) 書いたことばを発表する。</p>	<p>ペア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の挿絵を見ながら、くじらぐもとどんなことをしたかを振り返るようにする。 ・ワークシートをペアで読み合う。書けない子は参考にして書くように促す。 <p>【評価】「子どもたち」や「くじらぐも」の気持ちになって、言葉を考えて書くことができたか。 (ワークシート)</p>
<p>広げる・深める</p> <p>20</p>	<p>4 グループで音読をする。</p> <p>(1) ワークシートを読み合い、感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そらのうえは、たのしそうだったよね。くもにのってみたいよね。 ・ぼくもそうおもったよ。いっしょだね。 <p>(2) 役割分担をして音読をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>・役割分担</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども ・くじらぐも ・せんせい、地の文 </div>	<p>グループ</p> <p>B登場人物の気持ちを音読で表すことができるようにするために、書いた言葉をグループで聞き合う場を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさや顔の表情を工夫し、気持ちをこめて音読するように促す。 ・よいところや自分と同じようなところを見つけるように伝え、楽しく交流できるようにする。 ・「子ども」と「くじらぐも」の役割になった子は、それぞれの「さようなら。」の後に続けてワークシートの言葉を言うように促す。 ・上手なグループを紹介し、音読の参考になるようにする。 <p>【評価】グループで読み方を工夫した音読ができたか。 (発表・観察)</p>
<p>まとめる</p> <p>5</p>	<p>5 登場人物の気持ちになってp.12～p.13のまとめの音読する。</p>	<p>一斉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話文の読み方を工夫して、「子どもたち」や「くじらぐも」の気持ちになって読む。


(4) 評価

- ① 場面や登場人物の気持ちを想像し、「子どもたち」や「くじらぐも」の言葉をワークシートに書くことができたか。(読む・書く)
- ② 声の大きさや顔の表情を工夫して音読することができたか。(読む)

(5) 板書計画


「さようなら。」


- ・またあそびにいくからね。まってね。
- ・またみんなとたいそうをしたいな。



「さようなら。」

- ・ありがとう。たのしかったよ。
- ・せなかがふわふわしていて、おもしろかったよ。
- ・そらのうえはたのしかったよ。またあそぼうね。





- ・くじらぐもと、そらをおよいだ
- ・くじらぐもと、うみやまちをみた
- ・うたをうたった

めあて

くじらぐも

なかがわりえこ

「おわかれをする「子どもたち」と「くじらぐも」のきもちがつたわるようにおんどくをしよう

1 単元名 たしざん(2)

2 立案の立場

(1) 子どもの実態と教師の願い

子どもたちは、元気があり、いつも楽しそうに活動している。授業中は話をよく聞いて落ち着いて学習に取り組むようになってきた。ペアで問題を出したり答えを確かめたりすることや、はやく終わった子が先生役となって丸付けをすることなど、子ども同士で学習を進めることに慣れてきている。ここでは、学級のみんがができるようになるとういう意志を共有させ、算数の苦手な子ががんばって取り組もうとする気持ちをもたせるようにしていきたい。

(2) 単元について

本単元では、「たしざん(1)」や「20までの数」にもとづいて、繰り上がりのあるたし算について、数図ブロックの具体的な操作によって計算の仕方を理解させ、ことばで唱えながら定着させていく。被加数を一定にし、10の補数をみつけて加数を分解すればよいという計算の仕方のよさを実感させながら、計算練習に取り組ませたい。また、ペアやグループで計算カードを使ったゲームに取り組ませ、楽しく練習させながらたし算の習熟を図っていきたい。活動の中で、同じ答えになる式がいくつかあることや、それらを調べると、たす数が1大きくなるとたされる数が1小さくなっていくこと、たす数とたされる数を入れ替えても答えが変わらないことなどに気付く目を養っていききたい。

3 単元の目標

- (1) 繰り上がりのある計算に興味をもち、「10の補数」という考えのよさに気付き、進んで計算しようとする。 (関心・意欲・態度)
- (2) 10の補数を意識して、加数を分解してたすことを考えることができる。 (数学的な考え方)
- (3) (1位数) + (1位数) の繰り上がりのある計算を手際よく計算することができる。また、適用題を解くことができる。 (技能)
- (4) 繰り上がりのある計算の仕方について理解する。 (知識・理解)

4 単元の計画(11時間完了)

- (1) ふくしゅう・じゅんびうんどう ----- 1時間
- (2) たしざん ----- 4時間
- (3) たしざんのカード ----- 4時間 (本時2/4)
- (4) たしかめどうじょう・まとめ ----- 2時間

5 本時の展開

(1) 本時の目標

- ① たし算のカードを使って、繰り上がりのあるたし算を練習し習熟する。 (技能)
- ② 「たしざんビンゴ」に意欲的に取り組むことができる。 (関心・意欲・態度)

(2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

計算の仕方を説明しやすくするために、計算の唱え方をまとめた「たしざんれっしや」を掲示し、それを見ながら計算の仕方を確かめることができるようにして、たし算をするときの助けとする。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

気付いたことをたし算練習に生かすことができるようにするために、ビンゴゲームをしながら計算カードを並べ、並び方のきまりを話し合う場を設定する。

(3) 本時の流れ

段階	子どもの学習活動 ・ 予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点 【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
つかむ	1 本時のめあてと学習の流れを知る。 きょうのゲームは なにかな。 はやくゲームを やりたいな。	一斉	・「たしざんビンゴゲーム」をすることを知らせ、進んでたし算をしようとする意欲がもてるようにする。 ・学習の流れを確認する。
3	「たしざん名人」をめざそう！ —— 『たしざんビンゴゲーム』 ——		

<p>取り組む</p>	<p>2 「たしざんれっしゃ」を使って、計算の仕方を説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> $8 + 7$ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> 8に□をたして10 7は□と□ 10と□で□ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> $9 + 3$ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> □に□をたして10 □は□と□ □と□で□ </div> <p>3 「たしざんビンゴゲーム」をする。</p> <p>(1) 「たしざんビンゴゲーム」のやり方を知り、マスに11～18の数を書く。</p> <p>(2) 一組のたしざんカードを交代で出し、相手に答えてもらって「たしざんビンゴゲーム」をする。</p> <p>(3) 答えたたしざんカードは、答えが同じになるものを順に並べていく。</p>	<p>ペア</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉に出しながら計算の仕方を説明するようにし、10の補数を利用した計算の仕方を押さえる。 ペアで聞き合い、計算の仕方を確かめることができるようにする。 <p>A 計算の唱え方の途中を□で虫食いにした「たしざんれっしゃ」を掲示し、それを見ながら唱えることで、計算の仕方を説明しやすくする。</p> <p>【評価】 10の補数を利用した計算方法で説明することができるか。 (観察)</p> <p>一斉</p> <ul style="list-style-type: none"> 「たしざんビンゴゲーム」のやり方を掲示し、みんなが理解できるようにする。 同じ数を何個書いてもよいことや、1つの式で色をつけることができるマスは1つであることを確認する。 <p>ペア</p> <ul style="list-style-type: none"> 計算の仕方を唱えながら答えを言い、正しく計算できているかペアで確認できるようにする。 カードを並べる棒をあらかじめ配付し、並べやすくするとともに、後で並び方のきまりが見つけやすいようにする。
<p>広げる・深める</p>	<p>4 並べたたしざんカードを見て、気付いたことを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> たし算で答えが11になると、答えも1大きいと、答えも1大きくなるね。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> たす数が1大きくなると、答えも1大きくなるね。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 7 + 4と4 + 7は、答えが同じだね。 </div> <p>5 もう一度「たしざんビンゴゲーム」をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> 今度は、11をたくさん書こう。 </div>	<p>ペア</p> <p>B 並べたカードを見ながら並び方のきまりを見つけることができるように、話し合う場を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 見つけたきまりがたし算の計算に役立つことを示唆する。 <p>【評価】 友だちと話し合う中で、たしざんカードの並び方のきまりに気付くことができたか。(発表)</p> <p>ペア</p> <ul style="list-style-type: none"> マスに数を書くとき、見つけたきまりをもとにするとよいことをアドバイスする。 前と同じようにペアで交代しながら答えを言うようにする。
<p>まとめる</p>	<p>6 本時を振り返り、「たしざんビンゴゲーム」の感想を発表する。</p>	<p>個人</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽しく取り組めたこと、よかったこと、できるようになったことなどを発表させ次への意欲付けを図る。

- (4) 評価
- ① 繰り上がりのある(1位数) + (1位数)のたし算の答えを、はやく、正確に求めることができたか。(技能)
 - ② 意欲的にたし算練習に取り組むことができたか。(関心・意欲・態度)
- (5) 板書計画

「たしざん名人」をめざそう! — 『たしざんビンゴゲーム』 —

	たしざん ビンゴゲーム																																																																									
こたえ	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">11</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">9+2</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">8+3</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7+4</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">6+5</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">5+6</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4+7</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3+8</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2+9</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">12</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">9+3</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">8+4</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7+5</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">6+6</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">5+7</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4+8</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3+9</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">13</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">9+4</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">8+5</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7+6</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">6+7</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">5+8</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4+9</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">14</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">9+5</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">8+6</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7+7</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">6+8</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">5+9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">15</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">9+6</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">8+7</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7+8</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">6+9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">16</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">9+7</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">8+8</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7+9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">17</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">9+8</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">8+9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">18</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">9+9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	11	9+2	8+3	7+4	6+5	5+6	4+7	3+8	2+9	12	9+3	8+4	7+5	6+6	5+7	4+8	3+9		13	9+4	8+5	7+6	6+7	5+8	4+9			14	9+5	8+6	7+7	6+8	5+9				15	9+6	8+7	7+8	6+9					16	9+7	8+8	7+9						17	9+8	8+9							18	9+9								<p>[みつけたこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> こたえが11になるしきが8つもある。 たすかすが1おおきくなるとこたえも1おおきくなる。 7 + 4と4 + 7は、こたえがおなじ。 こたえが18になるしきは1つしかない。
11	9+2	8+3	7+4	6+5	5+6	4+7	3+8	2+9																																																																		
12	9+3	8+4	7+5	6+6	5+7	4+8	3+9																																																																			
13	9+4	8+5	7+6	6+7	5+8	4+9																																																																				
14	9+5	8+6	7+7	6+8	5+9																																																																					
15	9+6	8+7	7+8	6+9																																																																						
16	9+7	8+8	7+9																																																																							
17	9+8	8+9																																																																								
18	9+9																																																																									

1 題材名 グループワークトレーニング「せんせいのおうちはどこ？」

2 立案の立場

(1) 子どもの実態と教師の願い
 本学級の級訓を「ともだち にここに、えがお きらきら」とした。入学当初から比べると、用具の出し入れや整理整頓に心がけ、自分のことは自分でできる子どもが増えてきている。係や当番活動も自分の仕事に責任をもって取り組めるようになってきた。しかし、自分の思いばかりを優先してしまい、相手のことを考えることができず、トラブルになることもある。そこで、友達のことを思いやり、自分も友達も「ここにこ」になれるような言葉遣いや行動ができるようにしたい。また、一人一人のよさを認め合うことで、「きらきら」の笑顔あふれるクラスにしていきたい。

(2) 題材について
 グループワークトレーニング（以下GWT）とは、人間関係を学ぶ体験学習であり、「楽しく」「ちょっとためになる」をキーワードにした、グループで楽しくリラックスした雰囲気で行う学習である。GWTの目的は、①協力するよさに気付く、②他者のよさに気付く、③自分のよさに気付くことである。

本時の活動では、自分が得た情報を相手に正確に伝え、相手を知っている情報を正しく聞くことで課題が達成される。「聞き方」「話し方」を意識して活動したり、「友達の頑張ったことを見つける」ことを目標に活動したりして、一緒に学ぶ楽しさや面白さを感じられるようにしたい。

3 本時の展開

(1) 本時の目標

- ① 自分の情報を友達に伝え、責任をもって活動に取り組むことができる。
- ② 友達の情報を聞いて、正しく絵カードを操作することができる。

(2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

活動への学習意欲を一層高めるようにするために、子どもたちにとって身近な先生を学習課題に登場させたオリジナルのGWTを作った。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

全員が責任をもって活動できるようにするために、一人一人がもつ情報量を同じ量にし、自分の情報を言うだけでなく、友達の話も聞けるようにする。

(3) 本時の流れ

段階	子どもの学習活動 ・予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点 【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
つかむ 5	1 本時の学習内容を知る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 犬山北小学校の先生ばかりが住んでいる犬北マンションがあります。おはなしカードをもとに、誰がどのおうちに住んでいるかをみんなで見つけましょう。 </div>	一斉	A 学習意欲を高めるために、身近な先生をGWTの課題に登場させる。 ・先生の絵カードを掲示し、どの先生が課題に登場するか紹介する。 【評価】友達と協力して課題に取り組もうとする気持ちを高めることができたか。(活動の様子)
せんせいたちがすんでいるおうちを みんなではなしあってみつけよう			
取り組む 27	2 GWTの約束を確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ①自分がもらったおはなしカードを見てもいいのは自分だけです。友達に見せたり、友達のおはなしカードを見たりしてはいけません。 ②カードに書いてあることは、相手に分かるようにすべて言葉で伝えます。 </div> 3 学習課題にグループ全員で取り組む。 (1) おはなしカードをグループのみんなに配る。 (2) おはなしカードに書かれている情報を伝え合い、それぞれの先生がどこに住んでいるか話し合う。	一斉 グループ	・約束を確認し、グループ全員が課題解決に向けて、約束を守るようにする。 ・目標となる課題解決のためには、どのような活動に取り組めばよいかを考えることができるようにする。 ・話し合いの時は、みんなに伝えるように分かりやすくはっきりとした声で話すことや相手の話をしっかり聞くことが大切であることを押さえる。 B 全員が責任をもって活動に取り組めるようにするために、全員に同じ枚数のおはなしカードを配る。 ・グループで順番におはなしカードを読み、分かるところから絵カードを置くことを押さえる。 ・うまく話し合いができていないグループには、一人ずつおはなしカードに書かれ

	<p>(3) 犬北マンションの部屋割りの答えあわせをする。</p>	<p>ていることを言い、どんな内容が書かれているかを整理できるよう支援する。 ・速く終わったグループには、おはなしカードに書かれていることを見直して、答えの確かめをするよう助言する。 ・おはなしカードの内容を確認しながら、全員で答え合わせをする。 【評価】 おはなしカードの情報を正しく伝えたり、聞いたりして、自分の活動に責任をもって取り組めたか。(活動の様子)</p>
<p>広げる・深める 10</p>	<p>4 課題解決に向けて、グループ活動の様子を振り返る。 (1) 振り返りカードを書く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の情報を相手に伝わるようにゆっくり大きな声で言うことができたか。 ・誰かが話している時に、話をしている人を見て、静かに話がきけたか。 ・みんなの話を聞いて、絵カードを操作することができたか。 </div> <p>(2) 自分が頑張ったこと、活動を通して思ったことをグループで話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>自分のカードに書いてあることを、グループのみんなに言うことができたよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>話し合いのときに、みんなが言っていることをちゃんと聞いていたよ。</p> </div> </div> <p>(3) きらきらメッセージをグループのみんなで読み合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>〇〇ちゃんへ 分からない時に、教えてくれてありがとう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>△△くんへ 司会をしてくれたから、上手に話し合いができたよ。</p> </div> </div>	<p>個人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた雰囲気でも振り返りを行い、きらきらメッセージに友達の頑張りやよさを書くことで、グループ活動の楽しさや協力の必要性に気づき、グループの友達に伝えられるようにする。 <p>グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの中で、友達や自分自身を見つめ、それぞれがどんな参加の仕方だったかを気付くことができるようにする。 ・課題解決に向けて、子どもたちがどんな点で頑張ったかを認め合えるようにする。 ・きらきらメッセージを読み合うことで、相手のよさを認め、伝えられるようにする。 ・子ども同士で気付かなかった点については、教師が補足し、紹介する。
<p>まとめる 3</p>	<p>5 振り返り活動をまとめ、感想を発表する。</p>	<p>一斉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで協力して楽しく活動できたかを確認し、さまざまな活動に生かす意欲を高められるようにする。

(4) 評価

- ① 自分のおはなしカードの情報を伝えたり、グループの友達の情報を聞いたりして、自分の役割に責任をもって活動に取り組むことができたか。
- ② 落ち着いて活動の振り返りをして、自分の活動だけでなく、友達のよさや頑張りを見つけることができたか。

(5) 板書計画

せんせいたちがすんでいるおうちを みんなではなしあってみつけよう

やくそく

- ・じぶんがもらったカードをみてもいいのは、じぶんだけです。
- ・カードにかいてあることは、すべてことばでつたえます。

けんぼくマンション

201	202	かいだん	203	204
101	102		103	104

せんせいカード

1 単元名 もっとまちの人となかよくなるう

2 立案の立場

(1) 子どもの実態と教師の願い

学習指導要領に示される生活科の5つの教科目標に、「具体的な活動や体験を通して」「自立への基礎を養う」とある。本校の目指す子ども像である自立と共生に迫るためには低学年で学ぶ生活科の学習は重要である。

2年生となつてから半年が経った。学校生活に慣れた子どもたちは、子ども同士の人間関係にも広がりを見せており、学び方とかかわり方の基礎が段階的に育ってきている。具体的な活動や体験を通して、身近な対象と自分とのかかわりに関心をもたせ、自分自身や自分の生活の理解を深めることで、生活上必要な習慣や技能、自立への基礎を身に付けさせていきたい。

(2) 単元について

春に町探検をした子どもたちは、地域の人とふれあったり生き物を見つけたりして、「町のひみつ」をたくさん見つけ共有することができた。ラジオ番組に出していただいたりパンの焼き方を教えていただいたりと地域の人たちとのふれあいも深めることができた。

夏休みには地域行事に参加したり、児童館や図書館などの公共施設を利用したりしていっそう町と深くかかわっている。この単元では、春の町探検を発展させ、地域社会とのかかわりをさらに深めることをねらいとする。

まずは夏休み中の地域とのかかわりを発表しながら、町にもう一度飛び出したいという意欲を喚起した。春の町並みや人々の生活が秋になってどうかわったかのかに気付き、「まちのひみつ」から一歩進んだ「まちのすてき」に気付かせたい。

3 単元の目標

- (1) 自分とさまざまな人や場所とのかかわりに関心をもち、適切に接しようとしている。
(関心・意欲・態度)
- (2) 見学する場での行動の仕方や見学でふれあう人との接し方を、活動を通しながら学び工夫することができる。
(思考・表現)
- (3) 見学して発見したことを、言葉、絵、動作などで表現することができる。
(思考・表現)
- (4) 自分の生活は地域の人々やさまざまな場所とかかわっていることに気付いている。
(気付き)
- (5) 好きになった場所が増えたり、人とうまく接したりできるようになったことに気付いている。
(気付き)

4 単元の計画（15時間完了）

- (1) なつのまちでしたことをおしえあおう ----- 3時間
- (2) まちに行くけいかくを立てよう ----- 3時間
- (3) まちの人となかよくなるう ----- 2時間
- (4) まちのげんき・やさしさをさがしにいこう ----- 4時間(本時1/4)
- (5) まちのすてきをおしえあおう ----- 3時間

5 本時の展開

(1) 本時の目標

- ① 町の公共物や公共施設に関心をもち、町の「げんき」や「やさしさ」の存在に気が付くことができる。
(気付き)
- ② 自分たちで探検してもっと知りたいという願いをもとうとしている。
(関心・意欲・態度)

(2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

視点を明確にして主体的に探検を行い、「まちのげんき」「まちのやさしさ」ということばを自分なりに理解できるようにするために、これまでの生活体験や日常生活を大切にしながら意見交換を重ねる場を設定する。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

全員が視点を明確にして探検を行うことができるように、グループごとに交流をしたり、話し合いの後に全体交流をしたりして、自分の考えを紹介し合う場面を設定する。

(3) 本時の流れ

段階	子どもの学習活動 ・予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点 【評価】 コーディネートを中心場面(A・B)
つかむ 5	1 前時の学習を振り返り、本時の学習のめあてと見通しをもつ。 ・探検でいるんなものを見つけたな。 「まちのげんき・やさしさ」が見つかるけいかくを立てよう	一斉	・春みつけや通学路のようすを思い出し、ワークシートも参考にすることを伝える。 ・話し方・聞き方も意識するよう伝える。
取り組む 15	2 「まちのげんき・やさしさ」とは何かを考えて視点付けを行う。 「からたがふじゆうな人のためのくふうはやさしさかな？」 「こうえんであそぶとげんきになるよ。」 げんき：人とかわかれる場所、気に入った場所 やさしさ：公共施設、福祉対策 ※この分け方は目安として、根拠が明確である発言であれば認めていく。	個人↓グループ	A主体的に町のげんき・やさしさについて知ろうという意欲を喚起するために、生活体験を振り返りながら意見交換を行う。 ・例を示し最初にくつか仲間分けを行う。 ・みんなが学べる探検にすることが大切であると伝える。 ・交流活動に備えて、げんき班とやさしさ班と視点を分けて探検するよう伝える。 ・「自分はこう思う」という捉えを大切にする。 ・話題が広範囲に及ぶ場合は教師が見通しをもたせていく。 【評価】自らの視点を持つことができたか。(ワークシート)
広げる・深める 20	3 げんき・やさしさがしに出かけるために、決めなければいけないことを考え、発表する。 子どもから引き出したい事柄 ・訪問する場所、行き先 ・なにを探してくるか ・聞きたいこと ・約束事 ・必要な道具、持ち物 「どこに行けばやさしさがあるかな。」	個人↓グループ	Bみんなで見学の視点を共有するために、少人数でのグループ学習で手順を確認しながら学習を進める。 ・個人で思考する時間を確保してから、グループで話し合うようにする。 ・思いつきの発想に流れないように子どものやりとりの観察を継続する。 【評価】自らの考えをもって交流に参加できたか。(観察)
まとめる 5	4 本時のねらいが達成されたかを意識して本時の活動を振り返る。 「計画ができたよ。早く行きたいな。」	個人一斉	・学習内容の習得に留まらず学習に取り組めたこと自体に価値を認めていく。 【評価】本時のめあてに沿った振り返りを行い探検への願いをもてたか。(ワークシート)

(4) 評価

- ① 「まちのげんき・やさしさ」の存在に気が付くことができたか。(気付き)
② 探検に向けて意欲を高めることができたか。(関心・意欲・態度)

(5) 板書計画

10/26 「まちのげんき・やさしさ」が見つかるけいかくを立てよう

まえのじ間を おもいだして

町たんけんに行くためにきめること

.....	1はん	2はん	
.....				

つぎのじ間にきめること

①.....				
②.....				
③.....				

1 単元名 かけ算(1)

2 立案の立場

(1) 子どもの実態と教師の願い
 本学級は4月当初、全体的に幼く、自分のことをするのが精一杯で周囲を見る余裕のある子は少なかった。個別に声をかけないと課題に取り組みなかつたり、教えてもらうのを待っていたりする子どもも多くいた。そこで、4月当初より何事においても自力で解決し、最後までやり遂げる力を付けるように指導してきたところ、少しずつ成長を感じることができるようになっている。さらに、今後は、子どもたち同士が自分の考えを交流する機会を多く設定して、視野を広げたり、深めたりするようにしていきたい。

(2) 単元について

かけ算は2年生の子どもたちが楽しみにしている学習であるので、意欲的に取り組むと思われる。子どもたちはかけ算というとすぐに暗唱と結びつけがちであるが、初めに、数図ブロックの操作を通して、「基準量のいくつ分」というかけ算の意味をしっかりとつかませたい。次に各段の構成を理解した後に、暗唱へと進めたい。その後、適用題を解き、さらに、問題作りをすることでかけ算の意味を理解させたい。また、自作や友達の問題を解くことで生活と結びつけながら各段をしっかりと身に付けさせたい。

3 単元の目標

- (1) かけ算に関心を持ち、身の回りからかけ算で表せる数量の場面を進んで見つけようとする。
(関心・意欲・態度)
- (2) かける数が1ふえると積はかけられる数だけふえることを使って、九九を構成することができる。
(数学的な考え方)
- (3) かけ算の式に表したり、九九を唱えたり、それを適用して問題を解くことができる。
(技能)
- (4) 記号(×)や用語「かけ算」「～ばい」の意味、単位とする大きさのいくつ分かを求めるときにかけ算を用いればよいことがわかる。
(知識・理解)

4 単元の計画(19時間完了)

(1) かけ算のしき	4時間
(2) かけ算の九九	12時間(本時5/12)
(3) たしかめ道場・まとめ・ふくしゅう	3時間

5 本時の展開

- (1) 本時の目標
 - ① 2の段の九九を唱えることができる。
(技能)
 - ② 2の段の九九の適用題を作り、解くことができる。
(数学的な考え方)
- (2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

主体的に学習に取り組めるようにするために、自分で問題を作る場を設定する。また、誰もが取り組みやすいようにするために、作問プリントは、穴埋め式にする。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

いろいろな問題にふれたり、かけ算の意味をしっかりとつかませたりするために、ペアで自作の問題を解き合う場を設定する。

(3) 本時の流れ

段階	子どもの学習活動 ・予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点 【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
つかむ 5	1 2の段の九九を覚える。 (1) 全体で唱える。 順に、逆に、とびとびに (2) ペアで唱える。 2 本時のめあてと流れを知る。	一斉 ペア	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめは、全員で唱えさせ、次にペアで交互に唱えるようにする。 ・2の段の唱え方を掲示しておき、見て唱えたり、答えの部分をかくして唱えたりして、変化をつけるようにする。 ・5の段の学習の流れを想起させ、本時も同じような流れで学習することを伝える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 2のだんの文しょうもんだいをたくさんといて、2のだんの名人になろう </div>			
取り組む 15	3 p.12の③④の問題を解く。 ----- (1) はこにケーキが2こずつはいつています。7はこでは何こになりますか。 ----- ① 数図ブロックで考える。 2この7倍(7つ分) ② 式と答えを教科書に書き込む。	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を読み、数字や大事な言葉に印をつけるように指示をする。 ・ケーキのさし絵を提示し、問題場面をつかみやすくする。 ・数図ブロックで、基準量は1つの箱に入っているケーキの2個であることをおさえておく。

	$2 \times 7 = 14$ <u>14こ</u> (2) 2 cmの6ばいは何cmですか ① 図を見て考える。 2 cmの6倍 ② 式と答えをノートに書く。 $2 \times 6 = 12$ <u>12cm</u>	<ul style="list-style-type: none"> 「2この7つ分」であることをおさえて立式させるようにする。 図を参考にして「2 cmの6つ分」の長さを求めることができるようにする。 九九を唱えながら答えを見つけるようにする。 答えは、2の段の九九を使って出すと簡単に求められることに気付くようにする。
広げる・深める 22	4 2の段の九九を使った適用題を作り、ペアで解き合う。 (1) 2の段を使った適用題を作る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ① 1 _____ が _____ ずつ _____。 _____ では _____。 </div> ② 図 ③ 式と答え (2) 友達と問題を解き合う。 ① となり同士で解き合う。穴埋めかチャレンジ問題かは出題する人が決める。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <問題を解く人> ① 問題を読む。 ② 図を参考にする。 ③ 式と答えをプリントに書く。 ④ 答え合わせをしてもらう。 </div> ② いろいろな友達と交流する。 (3) 友達の問題でよかった問題を紹介する。	個人 A かけ算の意味をしっかりとつかませるために問題を図で表すようにする。また、だれもが取り組みやすくするために、穴埋め式で適用題をつくらせるようにする。 一人ずつ、適用題が適切か机間指導で確認しておく。 できた子は穴埋め式ではなく、自分の言葉で作るチャレンジ問題を作るように促す。 【評価】 2の段の問題を作ることができたか。(プリント) ペア B できる子が一方的に進めるのではなく、それぞれが確実に自分の役割を果たせるような交流にするために、問題の出し方や答え方の手順をしっかりとつかませるようにする。 問題を読んで分からないときは図を見せてヒントを与えるように促す。 答え合わせをするときに相手に九九を唱えてもらうようにする。 一斉 ・あらかじめ子どもたちの問題を把握しておき、教師からも紹介して、問題作りを広がりをもつようにする。 【評価】 友達との交流を通して問題作りや問題を解くことに意欲的に取り組むことができたか。(観察・プリント)
まとめる 3	5 本時のまとめをする。 (1) 九九を全員で唱える。 (2) 振り返りをする。	一斉 ・九九の唱え方の図を見ないで唱えるように促す。 ・今日の授業で分かったことや、よかったことなどを発表するように助言する。

- (4) 評価
① 九九を使うよさに気付き、2の段の九九を唱えることができるようになったか。(技能)
② 「～のいくつ分」という意味を理解して、問題を作ることができたか。(数学的な考え方)
(5) 板書計画

かけ算(1)めあて

2のだんの文しょうもんだいをたくさんといて、2のだんの名人になろう

2の段の表	(1) はこにケーキが2こずつはっています。7はこでは何個になりますか。 $2 \times 7 = 14$ <u>14こ</u>	2のだんのもんだいを作ろう。 1 _____ が _____ ずつ _____。 _____ では _____。
	ケーキの図・ブロック図	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 図 _____ 式と 答え _____ </div>
	(2) 2 cmの6ばいは何cmですか。 $2 \times 6 = 12$ <u>12 cm</u>	

1 単元名 かけ算(1)

2 立案の立場

(1) 子どもの実態と教師の願い
 本学級は4月当初、全体的に幼く、自分のことをするのが精一杯で周囲を見る余裕のある子は少なかった。個別に声をかけないと課題に取り組みなかつたり、教えてもらうのを待っていたりする子も多くいた。そこで、4月当初より何事においても自力で解決し、最後までやり遂げる力を付けるように指導してきたところ、少しずつ成長を感じることができるようになっている。少人数授業では、気軽に意見が言える機会を多く設定し、自分たちで解決したり深めたりしていきたい。

(2) 単元について

かけ算は2年生の子どもたちが楽しみにしている学習であるので、意欲的に取り組むと思われる。子どもたちはかけ算というとすぐに暗唱と結びつけがちであるが、初めに、数図ブロックの操作を通して、「基準量のいくつ分」というかけ算の意味をしっかりとつかませたい。次に各段の構成を理解した後に、暗唱へと進めたい。その後、適用題を解き、さらに、問題作りをすることでかけ算の意味を理解させたい。また、自作や友達の問題を解くことで生活と結びつけながら各段をしっかりと身に付けさせたい。

3 単元の目標

- (1) かけ算に関心を持ち、身の回りからかけ算で表せる数量の場面を進んで見つけようとする。
(関心・意欲・態度)
- (2) かける数が1ふえると積はかけられる数だけふえることを使って、九九を構成することができる。
(数学的な考え方)
- (3) かけ算の式に表したり、九九を唱えたり、それを適用して問題を解くことができる。
(技能)
- (4) 記号(×)や用語「かけ算」「～ばい」の意味、単位とする大きさのいくつ分かを求めるときにかけ算を用いればよいことがわかる。
(知識・理解)

4 単元の計画(19時間完了)

(1) かけ算のしき	4時間
(2) かけ算の九九	1 2時間(本時5 / 1 2)
(3) たしかめ道場・まとめ・ふくしゅう	3時間

5 本時の展開

- (1) 本時の目標
 - ① 2の段の九九を唱えることができる。
(技能)
 - ② 2の段の九九の適用題を作り、解くことができる。
(数学的な考え方)
- (2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

主体的に学習に取り組めるようにするために、自分で問題を作る場を設定する。また、誰もが取り組みやすいようにするために、作問プリントは、穴埋め式にする。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

いろいろな問題にふれたり、かけ算の意味をしっかりとつかませたりするために、ペアで自作の問題を解き合う場を設定する。

(3) 本時の流れ

段階	子どもの学習活動 ・予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点 【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
つかむ 5	1 2の段の九九を覚える。 (1) 全体で唱える。 順に、逆に、とびとびに (2) ペアで唱える。 2 本時のめあてと流れを知る。	一斉 ペア	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめは、全員で唱えさせ、次にペアで交互に唱えるようにする。 ・2の段の唱え方を掲示しておき、見て唱えたり、答えの部分をかくして唱えたりして、変化をつけるようにする。 ・5の段の学習の流れを想起させ、本時も同じような流れで学習することを伝える。
2のだんの文しょうもんだいをたくさんといて、2のだんの名人になろう			
取り組む 15	3 p.12の③④の問題を解く。 ----- (1) はこにケーキが2こずつはいっています。7はこでは何こになりますか。 ----- ① 数図ブロックで考える。 2この7倍(7つ分) ② 式と答えを教科書に書き込む。	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・ケーキのさし絵を提示し問題文を読み、数字や大事な言葉に印をつけるように指示をして問題場面をつかみやすくする。 ・数図ブロックで、基準量は1つの箱に入っているケーキの2個であることをおさえておく。 ・「2この7つ分」であることをおさえて

	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> $2 \times 7 = 14$ <u>14こ</u> </div> <p>(2) 2 cmの6ばいはい何cmですか</p> <p>① 図を見て考える。 2 cmの6倍</p> <p>② 式と答えをノートに書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> $2 \times 6 = 12$ <u>12cm</u> </div>	<p>立式させるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 図を参考にして「2 cmの6つ分」の長さを求めることができるようにする。 九九を唱えながら答えを見つけるようにする。 答えは、2の段の九九を使って出すと簡単に求められることに気付くようにする。
<p style="writing-mode: vertical-rl;">広げる・深める</p> <p style="text-align: center;">22</p>	<p>4 2の段の九九を使った適用題を作り、ペアで解き合う。</p> <p>(1) 2の段を使った適用題を作る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>① 1 _____ が _____ ずつ _____。</p> <p>_____ では _____。</p> <p>② 図</p> <p>③ 式と答え</p> </div> <p>(2) 友達と問題を解き合う。</p> <p>① となり同士で解き合う。穴埋めかチャレンジ問題かは出題する人が決める。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>〈問題を解く人〉</p> <p>① 問題を読む。</p> <p>② 図を参考にする。</p> <p>③ 式と答えをプリントに書く。</p> <p>④ 答え合わせをしよう。</p> </div> <p>② いろいろな友達と交流する。</p> <p>(3) 友達の問題でよかった問題を紹介する。</p>	<p>個人</p> <p>A かけ算の意味をしっかりとつかませるために問題を図で表すようにする。また、だれもが取り組みやすくするために、穴埋め式で適用題をつくらせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ずつ、適用題が適切か机間指導で確認しておく。 できた子は穴埋め式ではなく、自分の言葉で作るチャレンジ問題を作るように促す。 <p>【評価】 2の段の問題を作ることができたか。(プリント)</p> <p>ペア</p> <p>B できる子が一方的に進めるのではなく、それぞれが確実に自分の役割を果たせるような交流にするために、問題の出し方や答え方の手順をしっかりとつかませるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題を読んで分からないときは図を見せてヒントを与えるように促す。 答え合わせをするときに相手に九九を唱えてもらうようにする。 <p>一斉</p> <ul style="list-style-type: none"> あらかじめ子どもたちの問題を把握しておき、教師からも紹介して、問題作りを広がりをもつようにする。 <p>【評価】 友達との交流を通して問題作りや問題を解くことに意欲的に取り組むことができたか。(観察・プリント)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">まとめる</p> <p style="text-align: center;">3</p>	<p>5 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 九九を全員で唱える。</p> <p>(2) 振り返りをする。</p>	<p>一斉</p> <ul style="list-style-type: none"> 九九の唱え方の図を見ないで唱えるように促す。 今日の授業のめあてが達成できたか自己評価し感想などを発表するように助言する。

- (4) 評価
- ① 九九を使うよさに気付き、2の段の九九を唱えることができるようになったか。(技能)
- ② 「～のいくつ分」という意味を理解して、問題を作ることができたか。(数学的な考え方)
- (5) 板書計画

かけ算 (1) めあて

2のだんの文しょうもんだいをたくさんといて、2のだんの名人になろう

2の段の表	<p>(1) はこにケーキが2こずつはっています。7はこでは何個になりますか。 $2 \times 7 = 14$ <u>14こ</u></p>	<p>2のだんのもんだいを作ろう。</p> <p>1 _____ が _____ ずつ _____。</p> <p>_____ では _____。</p>
	<p>ケーキの図・ブロック図</p>	<p>図 _____</p> <p>式と 答え _____</p>
	<p>(2) 2 cmの6ばいはい何cmですか。 $2 \times 6 = 12$ <u>12 cm</u></p>	

1 単元名 音読劇をしよう「お手紙」

2 立案の立場

(1) 子どもの実態と教師の願い

授業の初めはやや消極的な様子も見られるが、教師や仲間から賞賛されて自信を得ると、どんどん積極的に発言も増えてくる。しかし、自分の考えていることを紹介するような場面では、なかなか自信をもって発表することができない。また、友達の意見のよいところを見つける力も十分ではないので、楽しく取り組める活動を通して、進んで自分の意見を伝えたり、友達のよい意見を見つけたりできるようにしたい。

(2) 単元について

本単元「お手紙」は、音読劇に表すことを目的に読み取る物語文である。これまでの単元でも動作をつけて音読する活動を多く取り入れており、子どもたちの音読劇に対する意欲は高い。しかし一方で、場面の様子や心情を読み取る際に、自分の意見を友達や全体に伝えられる子どもは少ない。本単元では、音読劇のような対話形式によって意見交換をしていく。劇を楽しみながら自分の意見を気軽に言えるような雰囲気作りをすることによって、言語能力を高め、意欲的に表現できるようにしていきたい。

3 単元の目標

- (1) 場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇をすることができる。(読む)
- (2) 「お手紙」を読んで自分の経験と結び付けて、感想を発表し合うことができる。(読む)
- (3) 経験したことから書くことを決め、もらった人がうれしくなるような手紙を書くことができる。(書く)

4 単元の計画(12時間完了)

- (1) 「お手紙」の範読を聞き、学習計画を立てる ----- 2時間
- (2) 場面の様子を読み取り、グループで工夫して音読劇に表す ----- 7時間(本時4/7)
- (3) 受け取った人がうれしくなるような手紙を書く ----- 3時間

5 本時の展開

(1) 本時の目標

- ① 登場人物の心情を読み取ることができる。(読む)
- ② 読み取ったことを生かして音読することができる。(読む)

(2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

登場人物の心情を読み取る意欲を高めるために、実際には物語に登場しない架空の「かえる」になりきってがまくんと会話する場面を設定する。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

友達の意見に目を向け、それを音読に表現できるようにするために、よいと思った友達の意見を紹介する場面を設定する。

(3) 本時の流れ

段階	子どもの学習活動 ・予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点 【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
つかむ	1 本時に取り組む場面の音読をする。	一斉	・登場人物の心情を考えながら読むように声をかける。
5	がまくんは何がうれしかったのかを考えて、気持ちをこめて音読できるようになる		
取り組む	2 主語と分かる言葉を見つけ、本時の場面に出てくる会話文の主語を確かめて、役割読みをする。 (1) 地の文を教師が読む (2) 地の文を省略する	一斉	・登場人物によって色分けをして会話文に印を付け、視覚的に捉えやすくする。 ・主語のない会話文は、前後を読んで誰の言葉か考えるように助言する。 ・「来やしないよ。」「きみが。」「ああ。」のがまくんの台詞に注目させ、がまくんの気持が変化していることに気付かせる。
10	3 がまくんがどうして「ああ。」と言ったのかについて、自分の考えを確認する。	個人	

<p>広 げ る ・ 深 め る</p> <p>22</p>	<p>4 友達と意見交換をする。</p> <p>(1) 二人で会話をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>がま ああ。</p> <p>かえる どうしたんだい、がまがえるくん。きみ、うれしそうだね。</p> <p>がま ・じつはもうすぐ手紙がとどくんだ。それがたのしみなんだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの親友のかえるくんが、ぼくに手紙を書いてくれたんだ。 ・もうすぐ手紙がきて、そこにとてもうれしいことが書いてあるんだ。 <p>かえる それはよかったね。</p> </div> <p>(2) ワークシートに友達の意見を書く。</p> <p>(3) 役割を交代して、同様に会話をする。</p> <p>(4) 友達のよかった意見を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介したいペアが前に出て、(1)と同様の会話をする。 ・がまくんの嬉しい気持ちを確認する。 	<p>ペ ア</p>	<p>A 劇化して楽しく意見交換ができるようにするために、実際には物語に登場しない架空の「かえる」になりきってがまくんと会話する場面を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由にペアを作って交流するようにし、早く交流ができた場合は、相手を変えて交流を続けてもよいことを伝える。 ・会話の仕方を黒板に提示して、スムーズに交流できるようにする。 <p>【評価】 役になりきって友達と楽しく意見交換をし、友達の意見の中からよいものを見つけることができたか。 (ワークシート)</p>
<p>ま と め る</p> <p>8</p>	<p>5 本時のまとめの音読をする。</p> <p>(1) がまくんは何が嬉しかったのかを書く。</p> <p>(2) 「ああ。」の言い方を考えて、嬉しい気持ちが表された音読を聞き合う。</p>	<p>一 斉</p> <p>ペ ア</p>	<p>B 友達の意見に目を向け、互いの意見を認め合えるようにするために、よいと思った友達の意見を紹介する場面を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙の内容を伝えるかえるくんの台詞に注目させ、自分が親友で嬉しいと書いてくれたことが、がまくんの大きな喜びになっていることを押さえる。 ・登場人物になりきって、表情や動きも工夫して音読するように促す。 ・時間があれば上手に読めているペアを指名して発表させ、模範として紹介する。 <p>【評価】 がまくんの嬉しい気持ちについて考えを深め、それを音読に表すことができたか。 (音読)</p>
	<p>6 本時の感想を書く。</p>	<p>個 人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音読劇の楽しさや、意見を紹介してもらった喜びなどについて振り返るように声をかける。

(4) 評 価

- ① がまくんは何が嬉しかったのかについて、自分の言葉で表すことができたか。(読む)
- ② がまくんの嬉しい気持ちが伝わるように、読み方や動きを工夫して音読することができたか。(読む)

(5) 板書計画

「きみが親友でうれしいよ。」

かえるくんのやさしさ

はじめて手紙がとどく

がまくんがうれしいこと

「どうしたんだい、がまがえるくん。きみ、うれしそうだね。」

ああ。

教科書の本文

お手紙

かえるイラスト

がまくん挿絵

がまくんは何がうれしかったのかを考えて、気持ちよくこめて音読できるようにしよう。

1 単元名 分数

2 立案の立場

(1) 子どもの実態と教師の願い

本学級の子どもたちは、落ち着いた生活しており、一人一人の学ぼうとする姿勢がよく見られる。特に計算のような課題では、班長を中心に声をかけ合い、みんなで学んでいこうとする意欲も見られる。しかし、考え方を説明する活動になると、自分の意見がうまく言えず、話し合いが活発にならない。

そこで、一人一人がしっかりと自分の意見を持ち、それを話し合いの材料として、友達の考えを聞きながら自分の考えを深めていけるようにしたいと願っている。

(2) 単元について

2年生では、 $\frac{1}{2}$ や $\frac{1}{4}$ などの簡単な分数について学習した。本単元では、1mや1ℓに満たないはしたの量を処理することから分数の理解を図っていく。また、具体的な量としての分数から、1のいくつ分という抽象数としての分数の理解へと展開させていく。

子どもたちのつまずきとして、大小比較では分母を比べてしまったり、加法・減法では分母同士を計算してしまったりすることが考えられる。そのため、具体物を操作したり、ゲームを取り入れたりすることで、分数の数量をしっかりと捉えられるようにして学習をすすめたい。

3 単元の目標

(1) はした部分を表すのに分数を用いることに興味を持ち、進んで学習しようとする。

(関心・意欲・態度)

(2) 単位分数の何個分の考え方をもとにして分数の大きさの表し方を考えることができる。

(数学的な考え方)

(3) 分数の大小の判断や、同分母分数の加減計算をすることができる。

(技能)

(4) 分数の表記、数としての分数、連続量としての分数などの意味を理解する。 (知識・理解)

4 単元の計画(10時間完了)

(1) はしたの大きさの表し方 ----- 3時間

(2) 分数の大きさ ----- 2時間

(3) 分数の大小 ----- 1時間

(4) 分数のたし算・ひき算 ----- 1時間(本時)

(5) やってみよう・練習・たしかめ道場 ----- 3時間

5 本時の展開

(1) 本時の目標

① 簡単な同分母分数の加減の計算の仕方を考え、それらの計算ができる。

(数学的な思考)(技能)

(2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

分数の計算方法について全員が考えをもつことができるように、ビーカーの絵や数直線の具体物を用意して操作できるようにする。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

子どもたちが友達と意欲的に取り組むことで、分数の加法・減法の仕方が定着できるようにするために、グループでカードゲームをしながら計算をする場面を設定する。

(3) 本時の流れ

段階	子どもの学習活動 ・ 予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点 【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
つかむ	1 前時の学習である分数の大小関係について想起する。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 分数を書いたカードを見せ、大小関係を比較し、意欲付けをする。 黒板に学習の流れを掲示して、視覚的に捉えることができるようにする。
	2 めあてをつかみ、学習の流れを確認する。		
3	分数のたし算・ひき算の仕方を考え、計算ができるようになるう		
	3 問題を解く。 (1) $\frac{2}{5}$ ℓ と $\frac{1}{5}$ ℓ をあわせると何ℓになるか考える。 ・立式する。 ・計算の仕方を考える。 ・計算の仕方を説明し合う。	個人 ↓ 一斉	<ul style="list-style-type: none"> A計算の仕方を説明できるようにするために、ビーカーの絵や数直線の具体物を用意して操作できるようにする。 実際にビーカーを使って答えを確認する。 正答である $\frac{3}{5}$ と、予想される誤答の

<p>取り組む</p> <p>17</p>	<p>$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ が2こ、$\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ が1こ、合わせて $\frac{3}{5}$ が3こ。だから答えは、$\frac{3}{5}$ です。</p> <p>(2) $\frac{3}{5}$ lから $\frac{1}{5}$ lを飲むとのこりは何lになるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立式する。 ・計算の仕方を考える。 ・計算の仕方を説明し合う。 <p>$\frac{3}{5}$ は $\frac{1}{5}$ が3こ、$\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ が1こ、引くと $\frac{2}{5}$ が2こ。だから答えは $\frac{2}{5}$ です。</p>	<p>$\frac{3}{10}$ の図を用意し、数量の違いを視覚的に捉えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加法と同様に具体物を用意し、計算の仕方の説明ができるようにする。 ・加法と同様に実際にビーカーを使って答えを確認する。 <p>【評価】 分数の加減の仕方を考え、説明することができたか。(ノート・観察)</p>
<p>広げる・深める</p> <p>20</p>	<p>4 分数のたし算・ひき算について神経衰弱型のカードゲームをする。</p> <p>(1) 式のカードを引く。</p> <p>$\frac{1}{4} + \frac{2}{4}$ だから答えが $\frac{3}{4}$ になるな。</p> <p>$\frac{2}{3} - \frac{1}{3}$ だから、$\frac{1}{3}$ のカードを探せばいいんだな。</p> <p>(2) 答えのカードを引く。</p> <p>$\frac{1}{4}$ と $\frac{2}{4}$ を足すと $\frac{3}{4}$ になるから式と答えが合うな。</p> <p>$\frac{5}{6}$ から $\frac{2}{6}$ を引くと $\frac{3}{6}$ だから、式と答えのカードが合わないな。</p> <p>$\frac{1}{3}$ と $\frac{2}{3}$ は分母は違うから計算できないよ。</p> <p>(3) 式と答えのカードを見て確認し合う。</p> <p>5 練習問題に取り組む。</p>	<p>グループ</p> <p>B 分数の加法・減法の練習と、答えの求め方を定着できるようにするために、グループで楽しくカードゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通分・約分をすると答えが同じになる場合があるが、通分・約分については未習のため、本時では同分母分数の加減のみを計算することを条件とする。 ・計算の仕方を正しく説明できるようにするために、話型を掲示し、グループで確認できるようにする。 ・式のカードを引いたら、計算の仕方をグループの子に説明し、答えのカードを引く。グループで式と答えと説明が当たっているか確かめて、次の子に交代するように促す。 ・時間を決めてグループでどれだけの問題を解けたかを競争し、分数への学習意欲を高めるようにする。 <p>【評価】 グループでカードゲームに取り組み、正しく計算ができるようになったか。(観察・ノート)</p> <p>個人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題が終わった子からペア答え合わせをするように声をかける。
<p>まとめる</p> <p>5</p>	<p>6 振り返りカードを書き、次時の見通しをもつ。</p>	<p>個人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時間の自分の変容に気付かせるために、本時の学習で学んだことと授業の感想を言葉と記号で振り返るようにする。

- (4) 評価
- ① 同分母分数の加減の仕方を説明し、正しく計算することができたか。(数学的な思考)(技能)
- (5) 板書計画

分数のたし算・ひき算

分数のたし算・ひき算の仕方を考え、計算ができるようになるろう

1 ジュース $\frac{2}{5}$ l と $\frac{1}{5}$ l を合わせると何lですか。

式) $\frac{2}{5} + \frac{1}{5} = \frac{3}{5}$ $\frac{3}{5}$ l

2 ジュース $\frac{3}{5}$ l のうち $\frac{1}{5}$ l をのみました。のこりは何lでしょう。

式) $\frac{3}{5} - \frac{1}{5} = \frac{2}{5}$ $\frac{2}{5}$ l

学習の流れ

1 単元名 分数

2 立案の立場

(1) 子どもの実態と教師の願い

本学級の子どもたちは、落ち着いて生活しており、授業に意欲的に取り組んでいる。特に、グループ活動では、班長を中心に声をかけ合い、みんなで学んでいこうとする雰囲気が見られる。しかし、全体の場での発言者は偏りがある。また、友達の意見を聞いても、その考えを基に自分の考えを再構築するまでには至っていない。

そこで、一人一人が自分の意見を全体に発信し、さらに友達の考えを聞いた上で自分の考えを深めていけるようにしたいと願っている。

(2) 単元について

2年生では、 $\frac{1}{2}$ や $\frac{1}{4}$ などの簡単な分数について学習した。本単元では、1mや10に満たないはしたの量を処理することから分数の理解を図っていく。また、具体的な量としての分数から、1のいくつ分という抽象数としての分数の理解へと展開させていく。

子どもたちのまずきとして、大小比較では分母を比べてしまったり、加法・減法では分母同士を計算してしまったりすることが考えられる。そのため、具体物を操作したり、ゲームを取り入れたりすることで、分数の数量をしっかりと捉えられるようにして学習をすすめたい。

3 単元の目標

(1) はした部分を表すのに分数を用いることに興味をもち、進んで学習しようとする。

(関心・意欲・態度)

(2) 単位分数の何個分の考え方をもとにして分数の大きさの表し方を考えることができる。

(数学的な考え方)

(3) 分数の大小の判断や、同分母分数の加減計算をすることができる。

(技能)

(4) 分数の表記、数としての分数、連続量としての分数などの意味を理解する。 (知識・理解)

4 単元の計画(10時間完了)

(1) はしたの大きさの表し方 ----- 3時間

(2) 分数の大きさ ----- 2時間

(3) 分数の大小 ----- 1時間

(4) 分数のたし算・ひき算 ----- 1時間(本時)

(5) やってみよう・練習・たしかめ道場 ----- 3時間

5 本時の展開

(1) 本時の目標

① 簡単な同分母分数の加減の計算の仕方を考え、それらの計算ができる。

(数学的な思考)(技能)

(2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

分数の計算方法について全員が考えをもつことができるように、ビーカーの絵や数直線の具体物を用意して操作できるようにする。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

子どもたちが友達と意欲的に取り組むことで、分数の加法・減法の仕方が定着できるようにするために、グループでカードゲームをしながら計算をする場面を設定する。

(3) 本時の流れ

段階	子どもの学習活動 ・ 予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点 【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
つかむ	1 前時の学習である分数の大小関係について想起する。	一斉	・分数を書いたカードを見せ、大小関係を比較し、意欲付けをする。 ・黒板に学習の流れを掲示して、視覚的に捉えることができるようにする。
	2 めあてをつかみ、学習の流れを確認する。		
3	分数のたし算・ひき算の仕方を考え、計算ができるようになるう		
	3 問題を解く。 (1) $\frac{2}{5}$ 0 と $\frac{1}{5}$ 0 をあわせると何Lになるか考える。 ・立式する。 ・計算の仕方を考える。 ・計算の仕方を説明し合う。	個人 ↓ 一斉	A 計算の仕方を説明できるようにするために、ビーカーの絵や数直線の具体物を用意して操作できるようにする。 ・実際にビーカーを使って答えを確認する。 ・正答であると $\frac{3}{5}$ 予想される誤答の $\frac{3}{10}$

<p>取り組む</p> <p>17</p>	<p>・ $\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ が2こ、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ が1こ、合わせて $\frac{3}{5}$ が3こ。だから答えは、$\frac{3}{5}$ です。</p> <p>(2) $\frac{3}{5}$ 0 $\frac{1}{5}$ から 0 を飲むとのこりは何 0 になるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立式する。 ・ 計算の仕方を考える。 ・ 計算の仕方を説明し合う。 <p>・ $\frac{3}{5}$ は $\frac{1}{5}$ が3こ、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ が1こ、引くと $\frac{2}{5}$ が2こ。だから答えは $\frac{2}{5}$ です。</p>	<p>の図を用意し、数量の違いを視覚的に捉えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 加法と同様に具体物を用意し、計算の仕方の説明ができるようにする。 ・ 加法と同様に実際にビーカーを使って答えを確認する。 <p>【評価】 分数の加減の仕方を考え、説明することができたか。 (ノート・観察)</p>
<p>広げる・深める</p> <p>20</p>	<p>4 分数のたし算・ひき算について神経衰弱型のカードゲームをする。</p> <p>(1) 式のカードを引く。</p> <p>・ $\frac{1}{4} + \frac{2}{4}$ だから答えが $\frac{3}{4}$ になるな。</p> <p>・ $\frac{2}{3} - \frac{1}{3}$ だから、$\frac{1}{3}$ のカードを探せばいいんだな。</p> <p>(2) 答えのカードを引く。</p> <p>・ $\frac{1}{4}$ と $\frac{2}{4}$ を足すと $\frac{3}{4}$ になるから式と答えが合うな。</p> <p>・ $\frac{5}{6}$ から $\frac{2}{6}$ を引くと $\frac{3}{6}$ だから、式と答えのカードが合わないな。</p> <p>・ $\frac{1}{3}$ と $\frac{3}{3}$ は分母は違うから計算できないよ。</p> <p>(3) 式と答えのカードを見て確認し合う。</p> <p>5 練習問題に取り組む。</p>	<p>グループ</p> <p>B 分数の加法・減法の練習と、答えの求め方を定着できるようにするために、グループで楽しくカードゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通分・約分をすると答えが同じになる場合があるが、通分・約分については未習のため、本時では同分母分数の加減のみを計算することを条件とする。 ・ 計算の仕方をグループで説明し、その説明が正しいか全員で確認できるようにする。 ・ 計算方法を正しく覚えるために、話型を見て発表できるように声をかける。 ・ 式のカードを引いたら、計算の仕方をグループの子に説明し、答えのカードを引く。グループで式と答えが合っているか確かめて、次の子に交代するように促す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間を決めてグループでどれだけの問題を解けたかを競争し、分数への学習意欲を高めるようにする。 <p>【評価】 グループでカードゲームに取り組み、正しく計算ができるようになったか。 (観察・ノート)</p> <p>個人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題が終わった子から答え合わせするように声をかける。
<p>まとめる</p> <p>5</p>	<p>6 振り返りカードを書き、次時の見通しをもつ。</p>	<p>個人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1時間の自分の変容に気付かせるために、本時の学習で学んだことと授業の感想を言葉と記号で振り返るようにする。

- (4) 評価
- ① 同分母分数の加減の仕方を説明し、正しく計算することができたか。(数学的な思考)(技能)
- (5) 板書計画

分数のたし算・ひき算

分数のたし算・ひき算の仕方を考え、計算ができるようになるろう

1 ジュース $\frac{2}{5}$ 0 と $\frac{1}{5}$ 0 を合わせると何 0 ですか。

式) $\frac{2}{5} + \frac{1}{5} = \frac{3}{5}$ $\frac{3}{5}$ 0

2 ジュース $\frac{3}{5}$ 0 のうち $\frac{1}{5}$ 0 をのみました。のこりは何 0 でしょう。

式) $\frac{3}{5} - \frac{1}{5} = \frac{2}{5}$ $\frac{2}{5}$ 0

学習の流れ

1 題材名 につぼんのうた みんなのうた

2 立案の立場

(1) 子どもの実態と教師の願い
 本学級の子どもたちは、どの子も素直で明るく、男女問わず仲良くすることができる。どんな活動を与えても前向きに受け止め、意欲的に取り組むことができる。しかし、行動を共にするのは、決まった友達に偏りがちで、学級の和をつくりあげていくのはこれからだと感じている。授業中に楽しい時間を共有することによって、多くの友達と交流を深めて認め合い、やがては自分たちから主体的に活動を創造していく姿が見られることを願っている。

(2) 題材について
 本題材で扱う「ふじ山」は、小学校学習指導要領で歌唱共通教材として示されている文部省唱歌である。そして、日本一の山をたたえる歌として、昔から広く歌い継がれ親しまれてきた楽曲である。友達と一緒に話し合いながら「ふじ山」の大きさをイメージして、歌う姿勢や歌い方を工夫させたいと思う。さらに、歌詞の意味や楽曲の情景を楽譜から読み取り、曲想を感じながら声や歌で表現する「音楽の表現活動における読解力」を追究することができればと考える。

3 題材の目標

- (1) 情景を思い浮かべ、気持ちを込めて表現する。(音楽への関心・意欲・態度) (音楽表現の技能)
- (2) 曲想を感じて歌い方を工夫する。(音楽表現の創意工夫)

4 題材の計画 (2時間完了)

- (1) 情景を思い浮かべ、気持ちを込めて歌う ----- 1時間
- (2) 旋律をなめらかに歌う工夫をしたり、楽曲のやまを見つけて情景が伝わるように表現の工夫をしたりする ----- 1時間(本時)

5 本時の展開

- (1) 本時の目標
 - ① 「ふじ山」の曲の雰囲気をとらえ、情景を思い浮かべて歌うことができる。(音楽への関心・意欲・態度)
 - ② 楽曲のやまを見つけ、歌う姿勢や表現の仕方を工夫して歌うことができる。(音楽表現の創意工夫) (音楽表現の技能)

(2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

歌詞や楽曲から音楽性を積極的に読み取る力を育てるために、楽譜に気付いたことを書き込み、ペアやグループで聴き合いながら、自由に体を動かしたり歌ったりして表現方法を工夫する場を設定する。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

みんなと楽しく歌いながら、学級としてひとつのよりよい表現方法を見つけることができるようにするために、曲想に合う表現を考え、工夫を重ねて歌い方を試し、自分たちが工夫したことを全体に発表したり、他のグループが考えた方法を比べたりする場を設定する。

(3) 本時の流れ

段階	子どもの学習活動 ・ 予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点 【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
つかむ 10	1 既習曲を歌う。 (1)「ドレミのかいだん」を階名に注意して歌う。 (2)「もしもコックさんだったなら」を身体表現を交えて歌う。 2 本時のめあてと流れを知る。	ペア 一斉	・毎時間歌っている「ドレミのかいだん」を歌い、音楽に対する意欲を喚起する。 ・ペアで向かい合って、互いに歌を聴き合ったり身体表現を見合ったりしながら楽しく歌えるようにする。 ・本時のめあてと学習内容や進め方を示すことにより1時間の見通しがもてるようにする。
「ふじ山」の様子が目にうかんでくるように歌おう			
取り組む 8	3 「ふじ山」の範唱を聴き、どのように歌うと曲の感じが表れるかを考える。 ・ゆったりと歌うといいね。 ・元気よく歌うとあわないかなあ。 ・きれいな声で歌うといいね。 ・教科書に、「高い山によびかけるような気持ちで歌おう」と書いてあるよ。	個人 一斉	・富士山の写真を示したり、前時に話し合ったことを想起させたりして、情景を思い浮かべられるようにする。 ・校舎などから高さを感じさせ、目を閉じて日本一の山「富士山」への思いを馳せながらCDの範唱を聴くように促す。 ・つぶやきや思い思いに話し合っていることを採り上げて板書する。

広げる・深める 20	4 曲想に合う歌い方や歌うときの姿勢を工夫する。 (歌い方) <ul style="list-style-type: none"> 音の上がり下がりに気をつけて歌おう。 休符を意識しよう。 はずんで歌うと合わないから、なめらかに歌おうよ。 顔を見合わせながら歌おう。 (姿勢) <ul style="list-style-type: none"> せすじをのぼそう。 足は少し開くといいいね。 下の方を向いてちゃいけないよ。 	ペア A 楽譜に気付いたことを書き込むようにし、ペアやグループで自由に体を動かしたり歌ったりして表現方法を工夫する場を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> ペアになって、歌詞を一つの文章を読むように読み合い、「何を歌おうとしている曲なのか」を考えるようにする。 歌い方の工夫とはどのようなことなのかを、既習の具体例を挙げて示す。 音の高低や旋律の流れについて見つけたことを楽譜に書き込ませ、曲想について考える視点を与える。 教科書の「一番力強く歌いたところはどこだろう」という言葉に着目させ、歌い方の工夫として参考にするように促す。 スケールの大きさを表すことができるように「腕を回す」などのヒントを出す。 友達の様子を互いに見合いながら歌を聴き、認め合うことができるように声を掛ける。 【評価】 歌の情景を思い浮かべ、音程やリズムに注意しながら歌い方を工夫しているか。(歌唱、観察)
	5 工夫した歌い方や姿勢を発表し、その意見を参考に自分たちの歌い方を決めて歌う。 <ul style="list-style-type: none"> 遠くに声をとどけるつもりで歌おう。 一番大きく歌うのはどこの部分かな？ ぼくたちも、うでを回して歌ってみようか。 このグループは上手だね。まねしてみよう。 	グループ B 学級としてひとつのよりよい表現方法を見つけるために、自分たちが工夫したことを発表したり他のグループが考えた歌い方を試したりする場を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> 他のグループの発表を聴きながら、自然に口ずさんだり体を動かしたりしている子を見つけ、紹介する。 フォルテの場所を変えて聞き比べ、この曲のやまが「ふーじは」の部分であることの根拠をみんなで考えて、富士山のすばらしさを意識して歌うようにする。 【評価】 友達と一緒に、いろいろな歌い方をして工夫を重ね、楽しく歌うことができたか。(歌唱、身体表現)
まとめる 7	6 本時を振り返り、楽しかったことを話し合って発表する。	一人 一斉 <ul style="list-style-type: none"> 自分の活動を振り返るとともに、上手に活動できた友達と、よかったところも考えてカードに記入できるようにする。 楽しく活動できたことを発表することによって満足感を味わうとともに、次時への意欲へとつなげるようにする。

(4) 評価

- ① 曲想を感じ取り、情景を思い浮かべながら歌うことができたか。(音楽への関心・意欲・態度)
- ② 歌う姿勢や表現の仕方を工夫して、楽しく歌うことができたか。(音楽表現の創意工夫)(音楽表現の技能)

(5) 板書計画

ふじ山

めあて 「ふじ山」のようすが目にかんできるように歌おう

「ふじ山」の楽譜

富士山の写真

学習のながれ

1 聴く	みんな
2 考える	一人
3 工夫する	ペア
4 発表する	グループ
5 歌う	みんな
6 ふり返る	みんな

〈どのように歌うとよいか〉

- 様子を思いうかべて
- ていねいに、ゆったりと
- きれいな声で など

〈どんな姿勢で歌うとよいか〉

- 足をかたはばに
- せすじをのぼして
- 視線を上

1 単元名 言葉「修飾語」

2 立案の立場

(1) 子どもの実態と教師の願い

普段から明るくて元気な子どもの多い学級であるが、学習面では小さな失敗によって学習意欲が下がってしまい、途中から積極的に学習に取り組めなくなる子どももいる。学習を進めていく中で、失敗を気にせず前向きに学習に取り組むことができるように支援していきたいと考えている。また、男子の中には友達と力を合わせて学習を進めることが難しい子どももいるため、みんなで力を合わせて取り組む活動を取り入れ楽しい授業を行う中で、互いのよさを見つけ、協力して学習することの大切さを学ばせたい。

(2) 単元について

3年生はこれまでに主語と述語の学習を行ってきた。本単元では、今までの学習を振り返りながら、さらに修飾語を使った文の構成について理解することができるよう学習を行う。この単元の学習を通して、文の意味を正しくとらえたり、言いたいことをより正確に、詳しく相手に伝えたりすることができる力を育てていきたい。

3 単元の目標

修飾と被修飾との関係など、文の構成について理解することができる。

(言語についての知識・理解・技能)

4 単元の計画（2時間完了）

(1) 修飾語の役割を理解する ----- 1時間

(2) 修飾語を使って、短い文を作る ----- 1時間（本時）

5 本時の展開

(1) 本時の目標

① 修飾語に関心を持ち、進んで探そうとすることができる。 (関心・意欲・態度)

② 言葉が文中でそれぞれ役割をもっていることや、文を詳しくしたり意味を定めたりする修飾語の働きを理解することができる。 (言語についての知識・理解・技能)

(2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

創作意欲をもって楽しく活動に取り組めるようにするために、ゲームを取り入れた活動場面を設定する。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

協力する楽しさを感じることができるようするために、グループで役割分担をしながら文を作りあげる場面を設定する。

(3) 本時の流れ

段階	子どもの学習活動 ・ 予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ ・ 留意点 【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
つかむ 5	1 前時の学習内容を振り返り、主語、述語、修飾語について確認をする。 ・「～が(は)」の部分が主語、「～をした」の部分が述語だよ。 ・文をくわしくするのが修飾語だよ。 ・「だれに」「何を」「いつ」「どこで」「どの」「どんな」「どのくらい」「どのように」などが修飾語だよ。 2 本時の学習のめあてと流れを知る。	一斉	・主語、述語、修飾語の役割について確認し、文を作る活動に生かすようにする。 ・ゲームを取り入れた活動を行うことを伝え、学習意欲がもてるようにする。
修飾語をつかって、くわしい文を書くことができるようになるう			
取り組む 12	3 連想ゲームを行い、短い文を作る。 (1) 教師の手の中に入っているものがボタンであることを確認し、どんな色や形のボタンなのかを連想する。 「赤い」「まるい」「大きい」「平べったい」「花形の」「白い」など	一斉	A 楽しく創作意欲を持って活動に取り組めるようにするために、ゲームを取り入れた活動場面を設定する。 ・主語と述語を板書し、その文にあてはまる修飾語について考えるようにすることで、文を作る活動であることも意識しながらゲームを行うことができるようになる。

1 題材名 望ましい食習慣「おやつを食べ方を考えよう」

2 立案の立場

- (1) 子どもの実態と教師の願い
 本学級の子どもは、友達と教え合いかかわり合いながら学習できている。しかし、意欲的に上手く人前で発言できる子とそうでない子との差が大きい。朝のスピーチやグループでの話し合い、学級での発表の場面などを意図的に取り入れることで、一人一人の話す力や聞く力の向上を目指し、互いのよさを認め高め合う心を育てていきたい。
- (2) 題材について
 おやつを食べることは、子どもたちにとって楽しい時間である。しかし、子どもたちが、比較的自由に選択することができるため不規則な時間や過度な量の摂取により食事への影響が出やすい。また、不足する栄養素を補うという目的よりも嗜好性の高いものであるため砂糖、脂肪、食塩等を過剰に摂取してしまう結果になる。このことが、肥満や生活習慣病への要因につながっていく。そこで自分のおやつを振り返り、健康によいおやつを食べ方や家で簡単にできる砂糖や脂肪の少ないおやつを考えることによって、おやつを食べ方と健康について関心をもたせたい。

3 本時の展開

- (1) 本時の目標
- ① おやつに含まれる成分について知り、望ましいおやつのとり方を考える
 - ② 健康によい手作りおやつを考え、実際に作ってみようとする意欲をもつ。
- (2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

自分のおやつのとり方について改善しようという気持ちをもたせるために、おやつに含まれる油や砂糖の量を実物で提示し、おやつの内容やとり方が健康に及ぼす影響について話をする。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

自分の健康を考え、健康おやつを家で作ってみようという意欲を高めるために、おやつの内容や量について話し合い、グループで健康おやつを考える場面を設定する。

(3) 本時の流れ

段階	子どもの学習活動 ・予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点 【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
つかむ	1 家で普段食べているおやつを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・スナック菓子 ・チョコレート ・手作りおやつ </div>	一斉	T1・家で普段食べているおやつについて思い出すよう促す。 ・市販のおやつが多く、手軽に食べられていることに気付くよう促す ・手作りのおやつを食べている実態にもふれる。
3	2 本時の課題を知る。		T1・めあてを提示する。
健康によいおやつを考え、自分の生活に取り入れる方法をまとめよう			
取り組む	3 おやつについて話し合う (1) よく食べるおやつとそこに含まれる成分について知る。また、そこからつながる生活習慣病について知る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・肥満 <li style="width: 50%;">・高血圧 <li style="width: 50%;">・心臓病 <li style="width: 50%;">・生活習慣病 </div> (2) おやつによりよい食べ方について考えグループで話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・手作りのおやつを食べる。 ・毎日のおやつを食べる時間を決めておく ・食べる量を決めておく。 ・体によいおやつを食べるようにする。 </div>	一斉	A自分のおやつのとり方について改善しようという気持ちをもたせるために、おやつに含まれる油や砂糖の量を実物で提示し、おやつの内容やとり方が健康に及ぼす影響について話をする。 T2・スナック菓子から油を分離させた物やチョコレートに含まれる砂糖を示し、実物を目で見て確認できるようにする。 ・砂糖や油の取りすぎが生活習慣病への要因となり、食べる時間が夕食や翌日の朝食に影響を与えることを伝える。 T1・個人の考えをワークシートにまとめ、それをもとにグループで話し合い、考えを深めるよう促す 【評価】自分の生活を振り返りおやつのとりが健康に影響を与えることが理解できたか。(ワークシート)
12		個人 グループ	

広げる・深める 23	4 健康により手作りおやつについて話し合う。 (1) 健康により手作りおやつのよさについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・砂糖の量が調節できる。 ・油を使わないで作ることができる。 ・作る楽しさがある。 ・家にある野菜を使うことができる。 </div> (2) グループで、家でどんな健康により手作りおやつを作ったか、または作れそうか話し合う。そして、グループでひとつおすすめの健康おやつを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・砂糖少なめクッキー ・鬼まんじゅう ・砂糖なしミックスジュース ・白玉だんご ・げんこつ ・揚げないレンコンチップス </div> (3) グループで考えたおやつをホワイトボードを使って発表する。	一斉 B健康により材料やそこからできる健康おやつを考える場面を設定する。 T1T2・市販のスナック菓子などと比較させて考えるよう促す。 <ul style="list-style-type: none"> ・手作りのおやつを食べた経験を発表し、身近にある材料を使っていることに気付くようにする。 ・調理クラブや2年生で作ったお菓子を思い出すよう促す。 ・家で作ってみたいおやつをワークシートに書くよう促す。 ・個人で考えたおやつをもとにグループで話し合う。 グループ 一斉 <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナリティのあるおやつを考えられたグループを賞賛する。 【評価】 健康を考えたおやつを考えることができたか。 (話し合い・発表の様子)
	まとめる 7	5 本時の学習を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・おやつにあれだけの油が含まれていることが初めてわかった。 ・体によりおやつを家で作ってみようと思った。 ・家でのおやつのとり方を気をつけようと思った </div>

(4) 評価

- ① 望ましいおやつのとり方を理解することができたか。
- ② 健康によりおやつを考え、自分の生活に取り入れる意欲が持てたか。

(5) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> めあて 健康によりおやつを考え、自分の生活に取り入れる方法をまとめよう </div>															
<ul style="list-style-type: none"> ○よく食べるおやつ <ul style="list-style-type: none"> ・ポテトチップス ・チョコレート ・ケーキ ・まんじゅう ○おやつが体に与えるえいきょう <ul style="list-style-type: none"> ・夕食、朝食が食べられなくなる ・ひまんになる ・高血圧になる ・心ぞう病になる ○おやつのよりよい食べ方 <ul style="list-style-type: none"> ・手作りおやつを食べる ・おやつを食べる時間を決めておく ・食べる量を決めてから食べる ・体によりおやつを食べるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ○手作りおやつのよさ <ul style="list-style-type: none"> ・砂糖の量を調節できる ・油を使わないで作ることができる ・作る楽しさがある ○健康おやつ 	<table border="1" style="width: 100%; height: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">ホワイトボード</td> <td style="text-align: center;">ホワイトボード</td> <td style="text-align: center;">ホワイトボード</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ホワイトボード</td> <td style="text-align: center;">ホワイトボード</td> <td style="text-align: center;">ホワイトボード</td> </tr> </table>	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード	<table border="1" style="width: 100%; height: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">ホワイトボード</td> <td style="text-align: center;">ホワイトボード</td> <td style="text-align: center;">ホワイトボード</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ホワイトボード</td> <td style="text-align: center;">ホワイトボード</td> <td style="text-align: center;">ホワイトボード</td> </tr> </table>	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード
ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード													
ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード													
ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード													
ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード													

1 単元名 説明のしかたについて考えよう「アップとルーズで伝える」

2 立案の立場

(1) 子どもの実態と教師の願い
 本学級の子どもは、朝のスピーチや話し合い活動などいろいろな場面で友だちとかかわり合っ
 て学習してきている。しかし、自分の考えに自信がもてず友達の意見に依存してしまうことが多
 く、聞く人のことを意識して、「伝える」というところまではたどりついていない。
 自分の考えをしっかりとって交流する中で、互いの思いやよさを認め合うとともに周囲の励
 ましに感謝し、自らを高めるために何事にも挑戦しようとする子どもに育てていきたい。

(2) 単元について

本単元は、段落ごとの要点を正しくとらえ段落どうしの関係を考えることをねらいとしてい
 る。子どもたちの大好きなサッカーの放送で使われた「アップ」と「ルーズ」の映像から、送り
 手が伝えたいことは何かを文章と対応して説明しているため、興味をもって学習することができ
 る。また、子どもたちが持ち寄った新聞・雑誌などの写真がどのような意図で用いられているか
 を考え説明する学習を設定することで、さらに興味・関心をもって説明する力を伸ばしていきた
 い。

3 単元の目標

- (1) それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読むことができ
 る。(読む)
 (2) 写真と文章を対応させて読み、「アップ」や「ルーズ」の特徴をまとめることができる。(表現)

4 単元の計画（8時間完了）

- (1) 筆者の説明の工夫に関心をもち学習計画を立てる ----- 1時間
 (2) 文章全体の構成をつかみ、段落相互の関係をとらえる ----- 5時間
 (3) 本文の説明のよさを調べまとめる ----- 1時間
 (4) 新聞や雑誌などの「アップ」や「ルーズ」の特徴をまとめる ----- 1時間（本時）

5 本時の展開

- (1) 本時の目標
 ① 新聞や雑誌などの「アップ」や「ルーズ」の写真から伝わることをまとめ、説明文を書くこ
 とができる。(関心・意欲・態度・書く)
 ② 写真から伝わることや伝わらないことをはっきりさせて友達と意見を交流することができ
 る。(話す・聞く)
 (2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

アップやルーズの写真の特徴を説明する力を高めるために、新聞・雑誌等の写真を各自で準
 備する。また、自分の考えをしっかりとるようになるために、ワークシートを活用する。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

友達からの学びをもとに自分の考えをより深めることができるようになるために、友達と意
 見を交流する場面を設定する。

(3) 本時の流れ

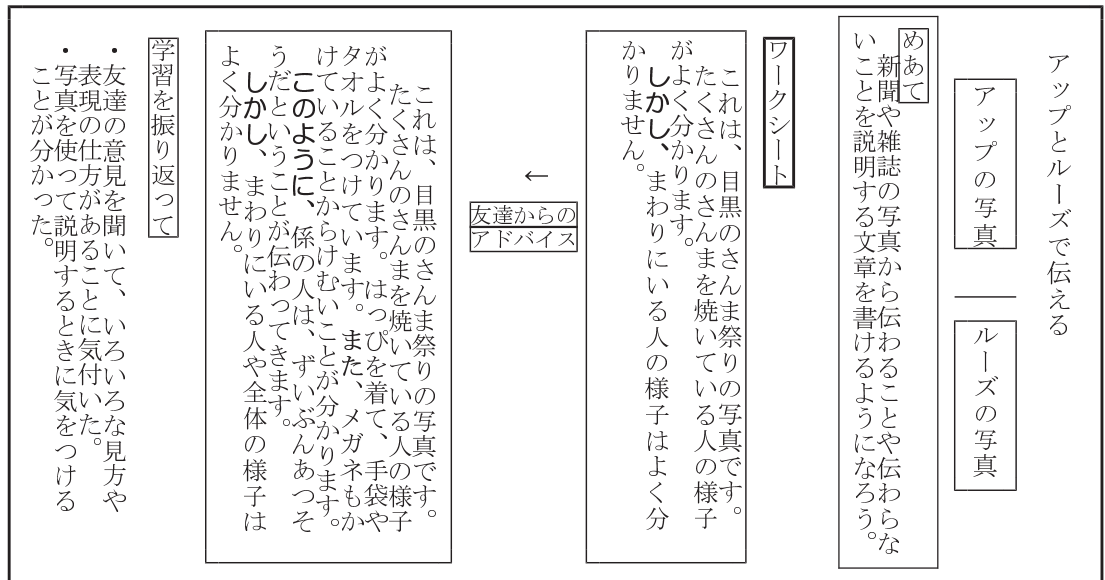
段階	子どもの学習活動 ・予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
つかむ 5	1 集めてきた新聞や雑誌、パンフレットな どを紹介する。 2 本時の学習のめあてと流れを確認する。	一斉	・積極的に資料を集めてきた子どもを賞賛 し、本時の活動への意欲付けにする。 ・アップやルーズの写真を見て、伝わるこ とや伝わらないことを説明することがで きるようにすることを知らせる。
	新聞や雑誌の写真から、伝わることや伝わらないことを説明する文章を書ける ようになろう		
取り 組む 10	3 自分で選んだ写真から伝わることや伝わ らないことを考え、ワークシートにまとめ る。 これは、目黒のさんま祭りの写真です。 たくさんさんまを焼いている人の様子 がよく分かります。 しかし、まわりにいる人の様子はよく分 かりません。	個人	A新聞・雑誌等に使われているアップやル ーズの写真から、伝わることや伝わら ないことをはっきりさせるために、自分の 考えをワークシートに整理する。 【評価】自分が選んだ写真の特徴について 考え、ワークシートにまとめるこ とができたか。 (ワークシート・観察)

<p>広げる・深める 25</p>	<p>4 ワークシートをもとに、友達と意見を交流し、自分の考えを深める。 (1) ペアの友達と写真を提示しながら、互いの考えを伝える。 (2) 友達のアドバイスをワークシートに記録する。 (3) ワークシートを見直し、説明文を完成させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>これは、目黒のさんま祭りの写真です。たくさんさんまを焼いている人の様子がよく分かります。はっぴを着て、手袋やタオルをつけています。また、メガネもかけていることからけむいことが分かります。このように、係の人は、ずいぶんあつそうだということが伝わってきます。しかし、まわりにいる人や全体の様子はよく分かりません。</p> </div> <p>(4) グループで発表する。</p>	<p>ペア</p> <p>B 自分の考えをより深めることができるようにするために、友達の考えと交流する場面を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ペアの友達と交流し、さらにグループの別の友達と交流するように促す。 • 写真をよく見て、伝わることと伝わらないことをはっきりさせてアドバイスするように促す。 • 友達のアドバイスをワークシートに記録し、後の自分の説明に生かすようにする。 • 本文の「しかし」「このように」「対比すると」などのキーワードに注目し、説明文を完成させるように促す。 <p>【評価】 はっきりとした声で自分の考えを話したり、真剣に友達の考えを聞いたりしながら、説明文を書くことができたか。 (観察・ワークシート)</p> <p>グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> • ペアグループで写真を見せながら発表し合うようにする。 • 進行役は、発表会がスムーズにすすむような役割を果たせるように支援する。 • 友達の話をよく聞き、互いに賞賛するように声をかける。
<p>まとめる 5</p>	<p>5 学習を振り返り、まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> • 友達の意見を聞いて、いろいろな見方や表現の仕方があることに気付いた。 • 写真を使って説明するとき気をつけることが分かった。 </div>	<p>一斉</p> <ul style="list-style-type: none"> • これからの学習や生活の中で考えたり生かしたりするとよいことを確認する。 • 前半と後半の文章の変化を確認し、友達や自分のよいところを中心に感想を発表するように促す。

(4) 評価

- ① 新聞や雑誌などの「アップ」や「ルーズ」の特徴について考え、ワークシートに書くことができたか。(関心・意欲・態度・書く)
- ② 友達と互いに意見を交流させ、自分の説明に生かすことができたか。(話す・聞く)

(5) 板書計画



1 主題名 正直な心 (1-(4) 正直・誠実、明朗、反省)
 資料名 「まちがえた服」 (出典「どうとく 明るい心 4年」愛知県教育振興会)

2 立案の立場

(1) 子どもの実態と教師の願い

本学級は4月にクラスで話し合いを行い、学級の目標を「たんぼぼ～一人一人を大切に、みんなの心をついに～」とした。子どもたちは素直で明るく、学習に対しても意欲的な子が多い。4月当初と比べ、困っている子がいると自然と誰かが声をかけて助け合おうとする姿が見られるようになった。しかしその一方で、自分のしてしまった失敗については、黙って過ごそうとしたり、人のせいをしたり、あるいは自分一人のせいではないと責任を回避しようとするところがある。集団の中で明るく楽しく生活を送るためには、自分の良心に正直に行動することが大切である。自分の行動を振り返り、正直に行動しようとする気持ちを育てたい。

(2) 資料について

本資料は、主人公のよし夫君があるときに間違えて友達の前で服を持ち帰ってしまうが、正直に言い出せず悩んでしまう話である。「悪かったなあ」「あやまろう」と思う反面、相手は強くて乱暴な子なので「なぐられるかもしれない」と思い、どうしようかと考える。結局次の日の朝、早くに学校へ行って服を元の場所に戻し、自分が間違えて持ち帰ったことは黙って過ごしてしまう。よし夫君の葛藤を通し、正直に言わないと後ろめたい気持ちが残ってしまうことや、正直に言うことには勇気があること、正直・誠実な行動をとることは気持ちがよいということに気付かせたい。また自分だけでなく相手の気持ちにも気付かせたい。授業の最後には自分について振り返りを行い、自分の利害にとらわれることなく正直に行動しようとする気持ちを育てていきたい。

3 関連

道徳 「百点を十回とれば」 1-(4) 正直・誠実、明朗、反省
 「わすれ物」 1-(4) 正直・誠実、明朗、反省
 心のノート 「自分に正直になれば、心はとてども軽くなる」

4 本時の展開

(1) 本時の目標

自己の利害にとらわれず、正直に行動しようとする気持ちを育てる。

(2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

話し合いに主体的に参加する気持ちをもてるようにするために、自分の考えを表現する2色のカラーカードやワークシートを活用して、自分の立場を明確にする。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

全体の話し合いをより深めることができるようにするために、根拠を明確にして多くの友達と考えを交流する場を設定する。

(3) 本時の流れ

段階	子どもの学習活動 ・予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点 【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
つかむ	1 本時の価値(正直)についてこれまでの経験を発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・物を壊してしまったときに正直に言った。 ・弟を泣かせたのは自分なのに、自分ではないとうそをついた。 ・忘れ物をしたとき、怒られるのが怖くて黙っていた。 </div>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験談を発表し合うことで、正直に言ってスッキリした経験や、うそをついてごまかしたりしてしまったときの経験を思い出し、本時の価値への方向付けをする。
	5 2 話に出てくる登場人物を紹介し、めあてを確認する。		
取り組む	3 資料の前半を読み、よし夫君の気持ちについて話し合う。 ○ まちがえて服を持ち帰ってしまったことに気がついたよし夫君は、どんな気持ちだったでしょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・しまった! どうしよう。 ・悪かったなあ。正直に謝ろう。 </div>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の様子や登場人物の気持ちが始まりやすくするために場面絵を使用する。 ・全員が聞くことできるように教室の中心に集まって資料を読む。 ・よし夫君とすずき君の性格や立場についておさえるようにする。 ・よし夫君の立場に立って考えるようにする。

よし夫君の気持ちを通して、正直について考えよう

5	<ul style="list-style-type: none"> 怒られるかもしれない。黙って返そう。 	る。
広げる・深める 27	<p>4 このあとのよし夫君の行動について考え、話し合う。</p> <p>○ このあとよし夫君はどうしたのでしょうか。</p> <p>(1) 第一次判断をワークシートに記入する。カラーカードに自分の考えを表す。</p> <p>(2) 席を離れ、周囲の人と考えを交流する。考えが変容した場合は色を変える。</p> <p>(3) 第二次判断をワークシートに記入する。カラーカードに自分の考えを表す。</p> <p>(4) 全体で話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><赤：正直に言う></p> <ul style="list-style-type: none"> 正直に言わないと後が怖い。 正直に言った方がスッキリする。 黙ったままではすずき君に悪い。 <p><青：黙っておく></p> <ul style="list-style-type: none"> 怖いから黙っておいた方がいい。 元の場所に戻しておけば分らない。 殴られるかもしれない。 </div>	個人 A 自分の立場や考えを明確にするために、ワークシートやカラーカードを活用する。 (赤：正直に言う、青：黙っておく) ・カラーカードを利用して4人以上の友達と意見を交流するように促す。 B 多くの友達と考えを交流する場を設定することで、自分の考えをより深める。 ・自分と同じ考えの子と理由を述べ合うことで、同じ行動を選択しても、その理由が人によって違うことに気付くようにする。 ・根拠を明確にして発表するように働きかける。 ・カラーカードに示された反対の意見についての発表も促し、それぞれの葛藤を取り上げる。 【評価】友達と考えを伝え合うことで、自分の考えをより深めることができたか。(観察・ワークシート)
27	<p>5 資料の後半を読み、よし夫君の気持ちについて話し合う。</p> <p>○ すずき君に本当のことを言ったとき、どんな気持ちだったでしょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> きちんと言えてよかった。 やっと本当のことが言えた。 胸のつかえがとれたよ。 </div>	ペア 一斉 ・よし夫君がどんな気持ちで過ごしたのかを考えるようにする。
まとめる 8	<p>6 授業で感じたことや、友達の意見から気が付いたことをまとめ、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 正直に行動するには、勇気が必要なときもあるんだな。 ごまかしてしまうことがあったけど、正直に行動したいと思った。 </div>	個人・一斉 ・前向きな気持ちで終わることができるように留意する。

- (4) 評価
自己の利害にとらわれず、正直に行動しようとする前向きな気持ちをもつことができたか。(発表・ワークシート)
- (5) 板書計画

絵

○ 本当のことを伝えたときのよし夫君の気持ち

- きちんと言えてよかった。
- やっと本当のことが言えた。
- むねのつかえがとれたよ。

正直に言う

黙っておく

- 正直に言わないと後が怖い。
- 正直に言った方がスッキリする。
- 黙ったままではすずき君に悪い。
- 正直に言つたほうがいい。
- 元に戻せば分らない。
- 元に戻せれば分らない。
- 元に戻せれば分らない。

◎ 次の日、よし夫君はどうしたでしょう。

絵

○ まちがえて服を持ち帰ってしまったことに気がついたときのよし夫君の気持ち

- しまった！どうしよう。
- 悪かったなあ。正直にあらまろう。
- 怒られるかもしれない。
- だまっして返そう。

絵

まちがえた服

よし夫の気持ちを通して、正直について考えよう

絵

絵

- 69 -

1 単元名 Lesson6 外来語を知ろう

2 立案の立場

- (1) 子どもの実態と教師の願い
 明るく活発で、自分の考えをクラスに広げようとする子どもが多い。しかし、広げたい気持ちばかりが先走り、相手に分かるように伝えたり、相手の気持ちを汲み取りながら聞いたりすることは十分とは言えない。そこで、ペアやグループ活動を通して、コミュニケーションを図りながらはっきりと自分の考えを伝え、みんなで認め合えるような集団にしていきたい。
- (2) 単元について
 子どもたちが普段使っている日本語の中には、多くの外来語が存在する。そのほとんどは、もととなる言語での発音と違ったり、意味の違う使い方をしているもの（和製英語）があったりする。本単元では、外来語とそのもとになる言葉の発音を聞かせて、その違いに気付かせたい。外来語を実際に使う場面として、レストランで好きな物を注文する場面をとりあげる。最後には、注文した物をクイズ形式で発表させ、まとめの活動としたい。こうした体験をすることで、自分の思いを正しく伝えるためには、発音に気を配ることが大事であることを実感させたい。

3 単元の目標

- (1) 身近な外来語に興味をもつ。 (関心・意欲・態度)
 (2) 積極的に好きな物を尋ねたり、注文したりする。 (慣れ親しみ)
 (3) 日本語と英語の発音の違いに気付く。 (気付き)

4 単元の計画(4時間完了)

- (1) 身近な外来語に興味をもつ ----- 1時間(本時)
 (2) 欲しい物は何ですか ----- 1時間
 (3) フルーツパフェをつくろう ----- 2時間

5 本時の展開

- (1) 本時の目標
 ① 外来語とそのもととなる語とでは、音が違うことに気付くことができる。 (興味・関心・態度)(気付き)
 ② 英語の音に気をつけて発音しようすることができる。 (慣れ親しみ)
- (2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

自分の考えをもって活動に参加できるようにするために、事前に外来語について調べさせておく。また、失敗を恐れずに楽しく活動に取り組むことができるように、子どもたちが取り組みやすいゲームを取り入れる。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

互いにコミュニケーションを図りながら、英語の音に慣れ親しむことができるようにするために、グループで練習したり作戦を立てたりする場面を設定する。

(3) 本時の流れ

段階	子どもの学習活動 ・ 予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点 【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
つかむ	1 あいさつをする。 Hello, how are you? I'm happy, how are you? I'm ok, thank you. (1) 全体であいさつをする。 (2) 席を立ち3人とあいさつをする。	一斉	・英語で元気よくあいさつを交わし、授業の始まりが意識できるようにする。 ・表情絵カードを見て、自分の今の気持ちに合ったあいさつができるようにする。 ・ジェスチャーを交えてあいさつができるようにする。
10	2 バナナチャンツをして、本時のめあてを知る。		・リズムに乗ってしっかり声が出せるように促す。
外来語ともとの語の音のちがいに気付き、英語の音に気をつけて発音できるようになろう			
取り組む	3 調べて来た外来語を発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> トマト・テレビ・ケーキ・ミルク ボール・ピアノ・カメラ・コアラ ゴリラ・ノート・ペン... </div>	一斉	A 考えをもって活動に参加できるようにするために、事前に外来語について調べておく。楽しく活動できるようにするために、子どもたちが親しみやすいゲームを取り入れる。 ・言語は地域や国独特のものであるが、人や物と同じように国を越えて行き来しな

	<p>4 CDを聞いて、英語ノートp.36、37の絵を指さす。 (1) ペアで確認しながら指さす。 (2) ゲーム形式で指さす。 ①指さしゲーム ②指のこしゲーム</p>	<p>ペア</p> <ul style="list-style-type: none"> • ながら作られていくことを知らせ、言葉のおもしろさを感じ取ることができるようにする。 • 子どもが指をさし終わったのを確かめてから黒板に絵カードをはり、単語を確認できるようにする。 • 英語が苦手な子どももポイントを取ることができるように配慮する。 <p>【評価】 調べてきたことを進んで発表したり、ゲームに楽しく参加したりすることができたか。(行動観察)</p>
<p>広げる・深める 20</p>	<p>5 ドン・ジャンケンゲームのやり方やルールの説明を聞く。 ①カードを1列に並べ、その両端で待つ。 ②合図とともに先頭の子どもが中央に向かってスタートする。その時、絵カードを発音しながらタッチして進む。 ③2人が出会ったらジャンケンをする。勝ったらさらに進み、負けた方は同じチームの次の人が出発する。 ④先に相手チームまで進んだら勝ち。</p> <p>6 グループで発音の確認や作戦を立てながら次回のゲームに向けて練習をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> • まず、全部きちんと発音できるかやってみよう。 • 出場する順番がポイントだね。 • カードをタッチして、瞬時に発音するのが難しいなあ。 </div>	<p>一斉</p> <ul style="list-style-type: none"> • ゲームのやり方を理解できるように、数人の子どもと前で実際にやって見せる。 • カードに触った時に、しっかりと単語を言うことを徹底する。 • 勝敗にこだわらず、音に気をつけるように助言する。 <p>グループ</p> <p>B互いにコミュニケーションを図りながら、英語の音に慣れ親しむことができるように、練習や作戦タイムを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本番では、1ゲームの間にチーム全員が出場できたらボーナスポイントになるなどの特別ルールを伝える。 <p>【評価】 コミュニケーションを図りながら英語の音に慣れ親しむことができたか。(行動観察)</p>
<p>まとめ 5</p>	<p>7 振り返りをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> • ○○さんが発音を教えてくれたから、わかってうれしかった。 • たくさん英語で言えるようになった。 • 日本語の発音だと外国で通じないと初めて知った。 </div>	<p>個人</p> <ul style="list-style-type: none"> • 何をどんなふうにかんがったか、何がどのように楽しかったかを詳しく振り返りカードに書くように声かけをする。 • 子どもたちの態度や英語面についてよかったところを具体的に挙げることで、次時への意欲を高めるようにする。

(4) 評価

- ① 活動している様子や振り返りカードの中で、外来語とそのもととなる語とでは、音が違うことに気付くことができたか。(関心・意欲・態度)(気付き)
- ② 友達とコミュニケーションを図りながら、英語の音に慣れ親しむことができたか。(慣れ親しみ)

(5) 板書計画

Lesson 6

めあて 外来語と、もとの語の音のちがいに気付き、英語の音に気をつけて発音できるようになるう

電子黒板




















1 単元名 面積

2 立案の立場

- (1) 子どもの実態と教師の願い
 全体的に明るく活発な子が多く、揉め事があると、自分たちで解決していこうとする姿も見られる。また、男女間の仲がよく、ペアになっても何の抵抗もなく協力し合うことができ、思いやりの心が育ってきている。一人一人が自分の考えを全体場で自信をもって発表でき、それを確認し合ったり深めたりすることにより、みんなで力を伸ばしていける子どもを育ててきたい。
- (2) 単元について
 本単元では、三角形・四角形の面積の求め方を考えながら、面積の概念の理解を深めることがねらいである。4年生で学習した長方形や正方形の面積の求め方をもとに、三角形、四角形、行四辺形、台形、ひし形の面積の求め方を考えていく。4年生の算数のNRTの結果から、図形について苦手意識をもっている子どもが多いので、初めの面積の求め方を考える場面では、図形の切り抜きやプリントなど、実際に操作活動を取り入れて、問題に向き合わせていきたい。また、面積を求める公式では、「底辺」や「高さ」などの用語をしっかりと覚えていきたい。

3 単元の目標

- (1) 三角形や四角形の面積の求め方をいろいろ考えようとする。 (関心・意欲・態度)
 (2) 長方形の面積をもとにして、三角形や四角形の面積の公式を導くことができる。 (数学的な考え方)
 (3) 公式を適用して、三角形や四角形の面積を求めることができる。 (技能)
 (4) 三角形や四角形の面積の意味とその求め方を理解できる。 (知識・理解)

4 単元の計画(14時間完了)

- (1) 課題設定・三角形の面積 ----- 4時間(本時2/4)
 (2) 平行四辺形の面積 ----- 2時間
 (3) いろいろな三角形・四角形 ----- 4時間
 (4) 面積の問題 ----- 2時間
 (5) たしかめ道場・まとめ ----- 2時間

5 本時の展開

- (1) 本時の目標
 ① 一般の三角形の面積の求め方をいろいろに考えることができる。 (関心・意欲・態度)(数学的な考え方)
 ② 一般の三角形の面積は長方形の半分になることが理解できる。 (知識・理解)
- (2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

三角形の面積の求め方を考えやすくするために、三角形の学習プリントを用意し、切ったり動かしたりする具体的な操作活動を通して、子ども一人一人の考えを進める手助けとする。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

一人一人の考えを発表しやすくするために、グループで説明し合ってから、全体場で発表する。グループや全体で話し合うことで、いろいろな考え方や説明の仕方があることに気づき、自分の考えが深められるように、みんなで教え合っって学習を進めるようにする。

(3) 本時の流れ

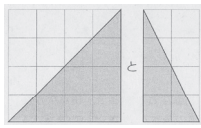
段階	子どもの学習活動 ・予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点 【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
つかむ 5	1 直角三角形の面積の求め方を、想起する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> ・長方形の面積を半分にして求めた。 ・長方形に変形して求めた。 </div>	一斉	・前時の掲示物を使って、求め方を振り返ることができるようにする。 ・めあてと学習の流れを提示し、学習の見通しがもてるようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 三角形の面積の求め方を考え、図を使って説明できるようになろう </div>		
	3 三角形の図を活用して、三角形の面積をいろいろに考えて求める。	個人	A 三角形の面積が考えやすいように、学習プリントを用意し、考える手助けとする。プリントは自由に切ったり、動かして考えることよいことを伝える。 ・知っている面積の公式を使うことができないかを考えるとよいことを押さえ、工夫し

取り組む	<p>• 2つの直角三角形に分けてみよう。</p>  $4 \times 4 \div 2 = 8$ $4 \times 2 \div 2 = 4$ $8 + 4 = 12$ <p style="text-align: right;"><u>12cm²</u></p>	て面積を求めることができるようにする。
15	<p>• 長方形を半分にしてみよう。</p>  $4 \times 6 = 24$ $24 \div 2 = 12$ <p style="text-align: right;"><u>12cm²</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> • 自分が考えた方法をプリントにまとめ、友達に分かりやすく説明できるように促す。
	<p>• まわして長方形に置きかえてみよう。</p>  $4 \div 2 = 2$ $2 \times 6 = 12$ <p style="text-align: right;"><u>12cm²</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> • 1つ考えたら、他の方法はないか考え、いろいろな解き方に挑戦するように促す。
広げる・深める	<p>4 三角形の面積の求め方をグループで発表し、全体で話し合う。</p> <p>(1) グループで順番に説明する。</p> <p>• ぼくは、こんな考え方でやったよ。 • わたしも同じ考えだよ。 • ぼくは2人と違ってこうやったよ。</p> <p>(2) 他のグループから出された求め方に、意見や質問があればする。</p> <p>• みんな長方形にして求めているね。 • 長方形の半分になっているよ。</p> <p>5 三角形の面積の求め方をまとめる。</p> <p>• 三角形の面積は、長方形の半分になっている。</p>	<p>B 自分の考えを図を使って説明したり、友達の考えを自分と比べながら聞いたりして、考えが深められるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • グループで出された考えをホワイトボードに記録し、掲示するように促す。 • 質問が出たら、誰でも答えることができるように促す。 • 共通点を導き出し、長方形の面積の半分となることをおさえる。 • いろいろな考えの中から、簡単に計算できる方法はどれかを考えるようにする。 <p>【評価】 三角形の面積の求め方を説明し合う中で、考えを深めていくことができたか。(観察・発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 三角形の面積は、長方形の面積の半分になることをおさえる。
まとめる	<p>6 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 振り返りカードに記入し、次時の予告を聞く。 	<p>個人</p> <ul style="list-style-type: none"> • 三角形の面積の求め方が言えるか、ペアで確かめ合い、振り返りカードに本時の振り返りを書くように促す。

- (4) 評価
- ① 一般の三角形の面積を、三角形の図を操作して考え、図を使って友達に説明することができたか。(関心・意欲・態度)(数学的な考え方)
- ② 一般の三角形の面積は、どのような求め方でも長方形の半分になることが分かったか。(知識・理解)
- (5) 板書計画

めあて 三角形の面積の求め方を考え、図を使って説明できるようになる

• 2つの三角形に分ける • 長方形を半分にする • 長方形に置きかえる

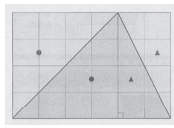


$$4 \times 4 \div 2 = 8$$

$$4 \times 2 \div 2 = 4$$

$$8 + 4 = 12$$

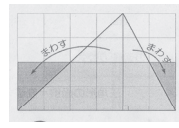
12cm²



$$4 \times 6 = 24$$

$$24 \div 2 = 12$$

12cm²



$$4 \div 2 = 2$$

$$2 \times 6 = 12$$

12cm²

まとめ 三角形の面積は、長方形の半分になる

1 単元名 面積

2 立案の立場

(1) 子どもの実態と教師の願い

少人数授業のため、教師が個々の理解度に応じてより丁寧に支援したりノートチェックをしたりすることができ、一人一人に目が行き届く。そのため、グループの話し合い活動では、自信をもって自分の考えを述べたり発表したりして活躍する機会も多い。しかし、自分の考えを分かりやすく相手に伝えたり、発言できる子に任せてしまったりする課題がある。理解の差があっても、それぞれの考えをグループで確認したり深めたりする活動を通して、さらに意欲的に学習に取り組むようにしたい。

(2) 単元について

本単元では、三角形や平行四辺形の面積の求め方を考えながら、面積の概念の理解を深めることがねらいである。第4学年で学習した長方形の面積の求め方をもとに、三角形、四角形、平行四辺形、台形、ひし形の面積の求め方を考えていく。図形について苦手意識をもっている子どもが多いので、図形の切り抜きやプリントなどで、実際に操作しながら考えさせたい。また「底辺」や「高さ」などの用語を正しく理解させるために、色を付けるなどして理解を深めていきたい。

3 単元の目標

- (1) 三角形や四角形の面積の求め方をいろいろ考えようとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 長方形の面積をもとにして、三角形や四角形の面積の公式を導くことができる。(数学的な考え方)
- (3) 公式を適用して、三角形や四角形の面積を求めることができる。(技能)
- (4) 三角形や四角形の面積の意味とその求め方を理解できる。(知識・理解)

4 単元の計画(14時間完了)

- (1) 課題設定・三角形の面積 ----- 4時間(本時2/4)
- (2) 平行四辺形の面積 ----- 2時間
- (3) いろいろな三角形・四角形 ----- 4時間
- (4) 面積の問題 ----- 2時間
- (5) たしかめ道場・まとめ ----- 2時間

5 本時の展開

(1) 本時の目標

- ① 一般の三角形の面積をいろいろな考え方で求めることができる。(関心・意欲・態度)(数学的な考え方)
- ② 一般の三角形の面積は長方形の半分になることが理解できる。(知識・理解)

(2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

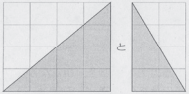
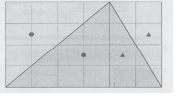
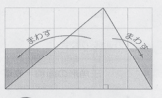
三角形の面積の求め方を考えるために、三角形の学習プリントを用意し、切ったり動かしたりする具体的な操作活動を通して、子ども一人一人が考える手助けとする。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

自分の考えを分かりやすく発表するために、グループで考え方を説明しあってから全体に発表する。また、グループや全体で話し合うことにより、いろいろな考え方があることに気付いたり自分の考え方を深めたり、伝える難しさや楽しさを味わったりできるようにする。


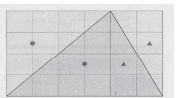
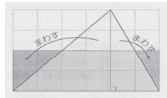
(3) 本時の流れ

段階	子どもの学習活動・予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
つかむ 5	1 前時の直角三角形の面積の求め方を、想起する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・長方形の面積を半分にした。 ・長方形に変形して考えた。 </div>	一斉	・ 前時の掲示物をはり、求め方を思い出すことができるようにする。 ・ 三角形の面積を求める学習ということをつかむことができるようにする。
	2 本時のめあてと学習の流れをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> 三角形の面積の求め方を考え、図を使って説明できるようになろう </div>		
	3 三角形の学習プリントを使って面積をいろいろな考え方で求める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・ 2つの直角三角形に分ける。 </div>	個人	A 三角形の面積を考える手助けとするために、三角形の学習プリントを用意する。考えやすいように切ったり、形を変えたりしてもよいことを伝える。

<p>取り組む 15</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> $\begin{aligned} 4 \times 4 \div 2 &= 8 \\ 4 \times 2 \div 2 &= 4 \\ 8 + 4 &= 12 \\ &\underline{12\text{cm}^2} \end{aligned}$  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>• 長方形の面積をもとにする。</p>  $\begin{aligned} 4 \times 6 &= 24 \\ 24 \div 2 &= 12 \\ &\underline{12\text{cm}^2} \end{aligned}$ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>• まわして長方形に変える。</p>  $\begin{aligned} 4 \div 2 &= 2 \\ 2 \times 6 &= 12 \\ &\underline{12\text{cm}^2} \end{aligned}$ </div>	<ul style="list-style-type: none"> • 直角三角形の面積を、習った面積の公式を使って求めることができないか助言する。 • 1つの考え方ができたら、他の解き方を考えるように促す。 • 自分の考えを学習プリントにまとめ、友達に分かりやすく説明する練習をするように促す。 <p>【評価】学習プリントの操作活動を通して、考えをまとめることができたか。 (プリント)</p>
<p>広げる・深める 20</p>	<p>4 三角形の面積の求め方をグループで話し合い、ホワイトボードに書き、発表する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) グループ内で順番に説明をし合う。 (2) 役割分担(書く・発表・指示棒)をし、発表の練習をする。 (3) 全体場で発表する。 (4) 他の班の説明を聞いて、意見や質問があればする。 <p>5 三角形の面積の求め方をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>• 長方形にして求めている。 • 長方形の面積の半分になっているよ。</p> </div>	<p>グループ 一斉 一斉</p> <p>B 友達とかかわりながら役割分担したり、図を使って自分の考え方を説明し合ったりして考えが深められるようにする。</p> <p>【評価】自分の考えを図を使いながら友達に分かりやすく説明することができたか。 (観察・発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 共通点を導き出し、三角形は、長方形の面積の半分になることを押さえる。 • それぞれの考え方のよさを認め、簡単に求められる考え方を確認する。
<p>まとめる 5</p>	<p>6 本時のまとめをする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 振り返りカードに記入し、次時の予告を聞く。 	<p>個人</p> <ul style="list-style-type: none"> • 三角形の面積は、長方形の半分になる求め方が言えるか、ペアで確かめ合い、考え方や学び合いについて振り返りをする。

- (4) 評価
- ① 一般の三角形の面積を、操作活動を通して、いろいろな考え方で求め、図を使って友達に説明することができたか。
(関心・意欲・態度) (数学的な考え方)
 - ② 一般の三角形の面積は、どのような求め方でも長方形の半分になることが分かったか。
(知識・理解)
- (5) 板書計画

めあて 三角形の面積の求め方を考え、図を使って説明できるようになろう

<p style="text-align: center;">2つの直角三角形に分ける</p>  $\begin{aligned} 4 \times 4 \div 2 &= 8 \\ 4 \times 2 \div 2 &= 4 \\ 8 + 4 &= 12 \\ &\underline{12\text{cm}^2} \end{aligned}$	<p style="text-align: center;">長方形の面積をもとにする</p>  $\begin{aligned} 4 \times 6 &= 24 \\ 24 \div 2 &= 12 \\ &\underline{12\text{cm}^2} \end{aligned}$	<p style="text-align: center;">まわして長方形に変える</p>  $\begin{aligned} 4 \div 2 &= 2 \\ 2 \times 6 &= 12 \\ &\underline{12\text{cm}^2} \end{aligned}$
<p>まとめ 三角形の面積は、長方形の半分になる</p>		

1 単元名 物語を読み味わおう「大造じいさんとガン」

2 立案の立場

(1) 子どもの実態と教師の願い

本学級の子どもは高学年として、学習面・生活面ともに成長しようとする意欲がある。授業中、自分の思いや、意見を人に伝えるように話すことができる子どもは、どの教科でもしっかり意見を言うことができる。その一方で自信のない子どもは、自分の思いを友達に上手く伝えることができない。自分の思いを表現することに抵抗がある子には、友達の見解を聞いて参考にしながら、自分の意見をもつことから始めている。

うまく表現できない子どももいるが、安心して発言ができるような場づくりに心掛け、みんなで学び合っていく学級にしていきたい。

(2) 単元について

教材文「大造じいさんとガン」は、起承転結の場面構成が分かりやすく、会話文や地の文の中に大造じいさんの気持ちを直接表現している言葉が多く見られる。また、情景描写を通して大造じいさんの気持ちを暗示している表現もある。このような作者の表現の工夫は、中心人物の気持ちの変化を読む取力をつけたり、直接文章に表現されていない内面にある深い心情を、想像を広げながら読み取る力をつけたりするために適した教材文である。個の読み取りを生かしながら、大造じいさんの心情に迫っていききたい。

3 単元の目標

- (1) 話の中心を読み取ったり、自分の考えを発表したりしようとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 叙述に基づいて、登場人物の心情や考えなどを多面的に読むことができる。(読む)
- (3) 擬態語、擬音語などの効果を確認したり、語感や言葉の響きを感じ取ったりすることができる。(言語についての知識・理解・技能)

4 単元の計画(11時間完了)

- (1) 通読し、初発の感想を交流して、学習課題をつかむ ----- 1時間
- (2) 各場面を読み深める ----- 8時間(本時6/8)
- (3) 好きな場面の朗読をし、感想を伝え合う ----- 1時間
- (4) 短文が続く書き方について話し合い、練習する ----- 1時間

5 本時の展開

(1) 本時の目標

- ① 大造じいさんの心の変化を文中の叙述を基に読み取ることができる。(読む・書く)
- ② 自分の考えを意思表示し、友達の見解や考えを聞いて、自分の考えを深めることができる。(話す・聞く)

(2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

本時の場面だけでなく、これまで学習した内容も振り返らせながら、子どもの考えの根拠となる部分を出し合い、自分の考えに自信がもてるようするために、物語全体のわかるワークシートを活用する。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

グループや全体で互いに意見を交流することにより、個々の読み取りの質を高めるために必要に応じて子どもをゆさぶる問い返しをしていく。

(3) 本時の流れ

段階	子どもの学習活動 ・予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ ・留意点 【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
つかむ	1 本時の学習範囲を音読する。	一斉	・大造じいさんの心情を意識しながら本時の学習部分を読むように指示する。
	2 本時のめあてを知る。		
3	大造じいさんの心情の変化を読み取り、まとめよう		
取り組む	3 三年目の大造じいさんの意気込みについて話し合う。 (1)個人で考える。 (2)全体で意見交流をする。	個人	A学習の足跡、ワークシートなどを用い、大造じいさんの言葉や情景描写に着目することを促す。 ・一つ一つの語句や表現にも注目できるように、適時文章へ戻して考えることができ

10	<ul style="list-style-type: none"> ・準備は万全だ。 ・これから戦うぞ！ ・今度こそ逃がさないぞ。 ・一、二年目と積み重ねてきた苦労を残雪にぶつけてやる！ 	一斉	<p>るようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの読み取りで、行動を表す言葉や気持ちを表す言葉を探したことを想起させる。 <p>【評価】 友達の思いを聞いたり、自分の思いや感じたことを話したりすることができたか。</p> <p>(観察・ワークシート)</p>
広げる・める 27	<p>4 大造じいさんの一番大きな心の変容について話し合う。</p> <p>(1)個人で考える。 (2)グループで対話する。 (3)全体で意見交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おとりのがンを助けてくれた。 ・残雪の頭領らしいすがたに圧倒された。 ・残雪の行動に心を打たれた。 ・残雪のすがたを見て、感動した。正々堂々と戦いたい。 ・にくらしいと思っていたが、気持ちが変わってきた。 ・残雪がおとりのがンを命がけで助けているのに対し、自分はそれをねらうという行為が恥ずかしい。残雪に負けたと思った。 	個人 ↓ グループ ↓ 一斉	<p>B 残雪への気持ちの変化について、話し合いを深めるために、本文に戻って読ませたり、グループで話し合わせたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人の考えを座席表に整理しておき、子どもの読みが関連付けられるよう、意図的指名をする。 ・どこで変容したのかと同時に、何によって変容したかを話し合わせる。 ・自分の考えの拠り所とした文を発表させるように促す。 ・ハヤブサが逃げた後の残雪の描写を順番に押さえることで、大造じいさんが見た様子を想像し、大造じいさんの心情を読み取らせるようにする。 <p>【評価】 大造じいさんの心がどうして変わっていったのか考えを深めることができたか。</p> <p>(観察・ワークシート)</p>
まとめる 5	<p>5 大造じいさんの残雪への思いはどのように変わったのか自分の考えをまとめる。</p> <p>6 本時の学習を振り返る。</p>	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・本文に基づき、重要語句に着目しながら大造じいさんの心情の変容をまとめるように促す ・振り返りを数人に発表させる。

(4) 評価

- ① 残雪の行動とそれに対する大造じいさんの言動から、大造じいさんの心の変化を考え、まとめることができたか。(読む・書く)
- ② 自分の考えを伝え、友だちの思いや考えを聞いて、大造じいさんの心の変化について自分の考えを深めることができたか。(話す・聞く)

(5) 板書計画

大造じいさんとガン
めあて

大造じいさんの心情の変化を読み取り、まとめよう

椋 鳩十 作

東の空が真っ赤に燃えて…
あの残雪めにひとあわふかせる

二年間のうらみをはらす！
一、二年目と積み重ねてきた苦労を残雪にぶつけてやる！

が、なんと思っただか再びじゆうをおろしてしまいました。

おや、様子が変だぞ。
じいさんのがんを助けた。

残雪の目には人間もはやぶさもありませんでした。ただ救わねばならぬ仲間の姿があるだけでした。

残雪は命をかけている。
自分を犠牲にしてまで…

頭領らしいすがたに圧倒された。
残雪がおとりのがんを打たれた。
残雪が行ったおとりのがんを命がけで助ける行為が恥ずかしい。自分はそれをねらうと

残雪に負けたと思っただか。

1 単元名 世界に歩み出した日本

2 立案の立場

(1) 子どもの実態と教師の願い

6年1組29人の子どものほとんどはとも明るく、互いのことを考え、また先を見通して行動できる子どもが多い。しかし、学習のことはになると受動的な面もみられ、自分ができればよいと考える子どもも多い。資料を調べたりその結果を周囲に積極的に発信したりする学習活動を通して、みんなが高め合っていく喜びを感じさせたい。

(2) 単元について

本単元では、特に日清・日露の戦争によって日本の国力が充実し、国際的地位が向上したことをはじめ、戦争によるその後の日本の変化について多面的に理解させたい。

そのために、本単元の基本的学習内容である条約改正や2つの戦争、朝鮮併合や科学の発展などについて学習した後に、2つの戦争の意義について、習得したことを活用しながら具体的な根拠をもとにした話し合いの場を設定する。また、ディベート風の話し合いにすることで、子どもたちがより主体的に話し合い、意義について多面的にとらえられるようにするとともに、多くのことを知る喜びや話し合いによって自他の意見が深まっていく喜びを感じさせたい。

3 単元の目標

(1) 日清戦争と日露戦争によって日本の国力が充実し、国際的地位が向上したことを理解することができる。
(社会的な思考・判断・表現) (観察・資料活用)の技能)

(2) 当時の国内外の情勢を理解し、条約改正や科学の発展などに貢献した人々の気持ちをとらえることができる。
(社会的事象への関心・意欲・態度) (社会的事象についての知識・理解)

4 単元の計画(8時間完了)

- (1) 条約改正を目指して ----- 1時間
 (2) 中国やロシアと戦う ----- 2時間
 (3) 朝鮮を植民地にする ----- 1時間
 (4) 国際社会で日本人が活躍する ----- 1時間
 (5) 生活や社会の変化 ----- 1時間
 (6) 2つの戦争(日清・日露戦争)の意義を考える ----- 2時間(本時2/2)

5 本時の展開

(1) 本時の目標

根拠をもとにした話し合いを通して、2つの戦争の意義について多面的に理解することができる。
(社会的な思考・判断・表現) (観察・資料活用)の技能)

(2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

2つの戦争の意義について活発な議論にするために、前時に根拠をもとにした自分の考えをまとめる時間を設定し、ディベート風の話し合いを取り入れる。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

日清戦争と日露戦争の歴史的意義に迫るために、2つの戦争によって日本がどんな国になったか多面的に考え、まとめる時間を設定する。

(3) 本時の流れ

段階	子どもの学習活動 ・予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点 【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
つかむ	1 前時までの学習を想起する。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 教室に掲示された資料を基に、前時までに学習した内容を想起させる。 前時までに「一等国」の説明しておく。
	2 本時の課題の確認をする。		
5	2つの戦争で日本は世界の一等国になったと言えるか、自分の意見を多面的に書けるようになるう		
取り組む	3 2つの戦争で日本が世界の一等国になったと言えるかどうか、根拠をもとに話し合う。 〈考える〉 ・国際的地位が上がり不平等条約の改正につながった。 ・戦争の賠償金をもとに様々な産業が発展した。 ・日本の領土が広くなり、国が豊かになった。	一斉	A 前時にまとめた自分の意見について根拠を明確にしてディベート風の話し合いの場を設定する。 ・意見の人数分布を確認し、少ない方の意見から話し合いをスタートする。 ・自分が発言するときには、つながりを意識するためなるべく人の名前を言うことを確認する。 ・人の意見に対しての付け足し・反論・質問・疑問などつなげる発言をすることを

	<ul style="list-style-type: none"> • 医学や化学など日本人の活躍が世界で認められるようになった。 • 産業の発展によって生活が豊かになり、権利の拡大につながった。 • 日本だけでなくアジアの国々を勇気付け日本に対する尊敬が生まれた。 	<p>確認する。もし自分の意見を言い続けるような状況になった場合、つなげる発言を言うように促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 議論が停滞した場合は話題を変えてもいいことを言ったり教師がゆさぶりをかけたり議論に役立つと思われる資料を紹介したりする。 • 産業の発達による様々な問題の発生や朝鮮・中国における差別的な政策等戦争におけるマイナス面にも触れる。 • 必要に応じてメモをとるよう確認する。 • メモをするときは、大事なものだけにし、なるべく発言が終わるまでにメモを書き上げるように注意することを確認する。 <p>【評価】 根拠を明確にして自分の意見を発表できたか。(発表の様子)</p>
<p>広げる・深める 15</p>	<p>4 最終的に2つの戦争によって日本はどんな国になったと言えるか考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 領土の拡大や様々な産業の発展により豊かな国になったが、公害や労働問題など様々な問題が生まれた国になった。 • 戦争の勝利や条約改正により、国際的地位が向上し、アジアの国々の尊敬を集める国になったが、朝鮮や中国への差別意識が高まった国になった。 • 選挙権や女性の地位の向上など、より国民中心の国になってきたが、欧米諸国に比べればまだまだ遅れている。 • 医学や科学が発展し、世界に通用する人材が育つ国になったが、戦争により税金が増えるなど国民の生活は安定してるとは言えない。 • 軍事力が拡大し、強い国になったが、欧米諸国を敵に回し、新たな戦争への危険が高まった国になった。 	<p>個人↓一斉</p> <p>B 多面的な視野で2つの戦争の意義について考える場を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 戦争によるマイナス面にも目を向けた(広い視野の)意見や新たな視点からの意見について取り上げ、指名する。 • 共感的態度で聞く。 • 重要な点やわかりにくい点は教師が資料の位置を確認するなどして補足する。 <p>【評価】 広い視野で最終的な自分の意見をまとめることができたか。(ノート)</p>
<p>まとめる 3</p>	<p>5 振り返りをする。</p>	<p>個人</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最終的な子どもたちの意見を踏まえ、不十分な点や大切な点を教師が押さえる。 • 次時の予告をする。

(4) 評価

- ① 当時の東アジアの情勢を踏まえながら、2つの戦争の意義について多面的な視点から最終的なまとめに書くことができたか。(社会的な思考・判断・表現)(観察・資料活用)の技能)

(5) 板書計画

<p>2つの戦争で日本は世界の一等国になったと言えるか、自分の意見を多面的に書けるようになるろう</p>		
<p>言える</p> <ul style="list-style-type: none"> • 不平等条約の改正 • 産業の発展 • 領土の拡大 • 医学や化学の進歩 • 豊か生活 • 選挙権の拡大 • アジア諸国からの尊敬 	<p>言えない</p> <ul style="list-style-type: none"> • 朝鮮や中国への差別意識 • 産業の発展による様々な問題 公害、労働問題 • 欧米諸国との関係悪化 • 戦争への危機 • 欧米に比べ、諸制度の遅れ 	<p>最終的に日本はどんな国になったと言えるか</p> <ul style="list-style-type: none"> • 豊かな国 • 強い国 • 国民中心の国 • 尊敬される国 • 医学・科学が発達した国 • 安全な国 <ul style="list-style-type: none"> • 戦争への危険がある国 • 差別意識が強い国 • 公害など安全でない国

1 単元名 土地のつくりと変化

2 立案の立場

(1) 子どもの実態と教師の願い

本学級には素直で活発な子どもが多く、学習に限らず様々な活動にしっかり取り組むことのできる雰囲気がある。しかし、自分が不得意なことには安易に仲間を頼ったり、消極的な態度を示したりする姿もしばしば見られる。そこで、学級目標を「考える自分・感じる自分」とした。自分で考えて行動できる子どもを育てるとともに、仲間が考えていることを感じ、認め合いながら、互いに高め合うことができる学級集団を目指していきたい。

(2) 単元について

本単元では、地層やボーリング試料などを観察したり、土地をつくっているものの特徴や土地のでき方を、流れる水のはたらきや火山活動、大きな地震などによる自然災害と関係付けながら調べたりする。その中から、土地が長い時間をかけて生成・変化しているということを推論できるようにしていきたい。さらに、土地のつくりや変化に関する空間的な広がりや時間的な長さについての見方や考え方を養うとともに、自然のスケールの大きさを感じ取ることができるようにし、その不思議さを実感させたい。また、様々な能力や個性の子どもたちが在籍しているので、教師が具体的で分かりやすい言葉かけをするとともに、子ども同士の助け合いや学び合いの学習活動を通して理科の力を高めていきたい。

3 単元の目標

- (1) 土地のつくりや土地のでき方について興味関心をもって追究し、土地のつくりと変化について理解することができる。 (関心・意欲・態度) (技能) (知識・理解)
- (2) 土地のつくりや土地のでき方について推論する能力を育てるとともに、それらについての見方や考え方もつことができる。 (思考・表現)

4 単元の計画 (15時間完了)

- (1) 土地をつくっているもの ----- 5時間
- (2) 地層のでき方 (流れる水のはたらき) ----- 3時間
- (3) 地層のでき方 (火山のはたらき) ----- 3時間(本時 2/3)
- (4) 火山活動や地震による土地の変化 ----- 4時間

5 本時の展開

(1) 本時の目標

- ① 火山灰の中に含まれる、多様な鉱物を見つけることができる。 (技能)
- ② 火山灰から取り出した鉱物の標本をつくり、種類や特徴を調べることができる。 (思考・表現)

(2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子ども主体のコーディネート

火山灰の中からのいろいろな鉱物を見つけようとする意欲を高めるために、火山灰の実物を観察したり、自分たちでオリジナルの標本を作成したりする。また、双眼実体顕微鏡や解剖顕微鏡を準備し、より観察がしやすくなるように配慮する。

B 高め合い深め合うコーディネート

より多くの鉱物を見つけたり、特徴を調べたりすることができるようにするために、仲間と協力して観察し、気付いたことを声に出して伝え合うようにする。

(3) 本時の流れ

段階	子どもの学習活動 ・ 予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点 【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
つかむ	1 前時の学習を振り返り、本時の学習のめあてと学習の流れを知る。	一斉	T1・前時には火山のはたらきによってできる地層について学習したことを確認し、本時は、火山灰に含まれる鉱物を見つける学習をすることを知らせる。
3	火山灰の中の宝石を見つけ、オリジナルの標本作りをしよう		
	2 火山灰を洗う手順を知る。 (1) 碗かけ法で洗う (2) キッチンペーパーで水分を取る	一斉	T2・使用する器具を確認し、演示しながら手順を説明する。
	3 火山灰を洗い、乾燥させる。		T1T2・碗かけ法では、上澄だけを流すよう

取り 組 む	<p>4 ペトリ皿に移し、解剖顕微鏡で観察する。</p> <p>透明な石や黒い石が見つかったよ。</p> <p>5 きれいな石（鉱物）が見つかったペアは、双眼実体顕微鏡で観察する。</p> <p>緑色のきれいな石を標本にしたいな。 どんな名前の石かな。</p>	<p>助言する。 T1・乾燥させている合間に標本の作り方を説明する。</p> <p>A 観察する意欲を高めるために、双眼実体顕微鏡や解剖顕微鏡を準備して観察がしやすくなるように配慮したり、見つけた宝石（鉱物）の標本を作成したりする。 T1T2・顕微鏡を正しく使っているか確認しながら机間指導する。</p> <p>【評価】 観察の結果、火山灰の中には多くの鉱物が含まれていることが分かったか。（活動の様子）</p>
深 め る	<p>6 オリジナルの標本を作る (1) つまようじを使って鉱石を取り出す。 (2) 穴を開けた厚紙にセロテープで両面から貼る。</p> <p>7 鉱物の種類や特徴を資料などで調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かんらん石（無色～褐色、丸い） ・かくせん石（濃緑色、柱状） ・シソ輝石（褐色、柱状） ・普通輝石（淡緑色、柱状） ・黒雲母（黒色、板状） ・長石（透明～白色、ガラス状） ・石英（無色透明、丸い） ・磁鉄鉱（黒色、丸い） 	<p>B 見つけた鉱物の種類や特徴を調べるために、気付いたことや発見したことを声に出して伝え合い、仲間と協力して作業するように促す。</p> <p>T1T2・鉱物を特定することは難しいので、見つけた鉱物の主に色から判断し、複数の候補を標本に記入するよう助言する。また、見つけた鉱物の特徴も付け加えるよう促す。</p> <p>【評価】 見つけた鉱物の種類や特徴を調べ、標本に書き込むことができたか。（標本、活動の様子）</p>
ま と め る	<p>8 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を知る。</p>	<p>T1・本時の様子を評価し、次時は、「地層の でき方（火山のはたらき）」のまとめ することを知らせる。</p>

(4) 評価

- ① 洗った火山灰を顕微鏡を使って観察し、様々な色や形状をした鉱物を見つけることができたか。（技能）
- ② 見つけた鉱物のオリジナルの標本を作り、資料などを使って種類や特徴を調べることができたか。（思考・表現）

(5) 板書計画

めあて 火山灰の中の宝石を見つけ、オリジナルの標本作りをしよう

<p>○火山灰を洗って石（鉱物）を取り出す</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100%;">碗かけ法</div>	<p>○標本を作る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100%;">標本の作り方</div>	<p>○調べる</p> <p style="text-align: center;">火山灰に含まれる石（鉱物）</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; width: 50%; height: 30px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 50%; height: 30px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; width: 50%; height: 30px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 50%; height: 30px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; width: 50%; height: 30px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 50%; height: 30px;"></td> </tr> </table>						

1 単元名 作品の世界を深く味わおう 「やまなし」

2 立案の立場

(1) 子どもの実態と教師の願い

本学級は、明るく素直で楽しいことが大好きな子どもが多い。体験的な学習などには積極的に取り組み、よい雰囲気になるが、自分の思いや考えたことを語るような場面になると、とたんに他人事の様になってしまうところがある。面白いことや笑える事柄での交流がすべてではなく、自分の思いをつくらわず表現し、それぞれの思いを認め合うことができるような学級にしていきたいと考えている。

(2) 単元について

本単元の「やまなし」は、「カレーライス」に続く物語文の単元である。子どもたちは「カレーライス」で、登場人物の言動や心情、人物関係を捉えながらクラス全体で話し合い（クラストーク）をして思いを深めてきた。本単元でも、「やまなし」と、宮沢賢治の伝記である「イーハトーブの夢」、また他の賢治作品を合わせて読みながら、クラストークで学習を進めていきたい。まずは個人読みで表現や言葉の使い方、また擬音語などに注目して情景を想像したり作者の思いを推測したりして、書き込み式のワークシートを利用しながらまとめ、その後クラストークで深め合いながら宮沢賢治の世界を味わっていききたい。

また、本単元では、絵と文による感想画をかくことを最終課題としたいと考えている。作品をクラストークで存分に味わい、感じることで賢治の世界観を感想画にすることで、相互に学び合ったことをまとめることができるようにしたいと考えている。

3 単元の目標

- (1) 場面についての描写をとらえ、作品の中で使われている表現を味わいながら、自分の考えをまとめることができる。(読む・書く)
- (2) 目的に応じて複数の本や文章を比べて読み、効果的な読み方を工夫することができる。(読む)
- (3) 作品の中で使われている表現を味わい、語感や言葉の使い方に関心をもつことができる。(関心・意欲・態度)

4 単元の計画（8時間完了）

- (1) 宮沢賢治の世界に関心をもち、「イーハトーブの夢」を読む ----- 2時間
- (2) 「やまなし」を読み、場面ごとに考えを交流する ----- 4時間（本時3／4）
- (3) 感想画（絵と文章）を描き、交流する ----- 2時間

5 本時の展開

(1) 本時の目標

- ① 谷川やかにの様子に注目して「五月」と「十二月」を比べ、考えを書くことができる。(読む・書く)
- ② 個人で読み取ったことをもとに、感じたことを交流することができる。(話す・聞く)

(2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

使われている表現を味わいながら、二つの季節の違いについて自分の考えをまとめるために、複数の場面や文章を比べて読む視点が示してあるワークシートや掛図を活用する。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

情景の描写や言葉による表現などに注目しながら話し合い、効果的な読み取りができるようにするために、それぞれの場面に違う題名をつける課題に向けてクラストークする場面を設定する。

(3) 本時の流れ

段階	子どもの学習活動 ・予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点 【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
つかむ	1 前時までの学習と本時のめあてを確認する。	一斉	・ワークシートを使って、前時までの学習内容と本時のめあてを確認する。
	五月と十二月のちがいについて感じたことを話し合い、それぞれに題名を付けよう		
取り組む	2 「五月」と「十二月」について、読み味わってきたことを振り返る。	個人	・これまで読み味わってきたことをワークシートで振り返るように指示する。
	3 「五月」と「十二月」の違いについて自分が考えたことをまとめる。		A使われている表現を味わいながら、二つの季節の違いについて自分の考えをまとめるために、複数の場面や文章を比べて読む視点が示してあるワークシートや掛図を活用する。

・「五月」はかわせみが飛び込んでくるけど、「十二月」はやまなしが落ちてくる。それぞれ何を表しているのかな。

1 単元名 サツマイモをさいばいしよう

2 立案の立場

(1) 子どもの実態と教師の願い
仲よし学級の子どもたちは、年齢が異なり、学力や生活経験の違いも非常に大きい。子どもたち一人一人の実態にあった学習を展開するために、本時では、仲よし学級 1組・2組合同で生活単元学習を計画した。

学習面においては、学習内容を理解・習得するために、複数の方法で学んだり、繰り返し学んだりすることが必要であり、非常に時間を必要とする。また、行動面においては、根気に欠ける子ども、面倒なことを嫌う子どもが多い。さらに、人とかかわろうとすることが苦手な子や、人とかかわりたくてもコミュニケーションを上手にできない子どももいる。

しかし、どの子ども、「学びたい」「自分を伸ばしたい」「みんなとかかわりたい」「そのためにがんばりたい」という思いをもっているし、教師の願いも、また同じである。

そこで、これらの願いをかなえるために、子ども一人一人の実態を考慮し、身近にある具体的なものを使用した活動、より体験的な活動、6人がかかわり合える活動を取り入れた授業を計画していきたい。

(2) 単元について

本単元は、子どもたちが日頃食べているサツマイモを栽培する学習である。栽培活動では、体験活動を中心とするので学習能力にそれほど左右されず、学力差の大きい本学級の子どもたちが、一緒に取り組むことのできる学習である。また、苦勞しながら栽培したサツマイモができたときの満足感、そしてその芋を調理して食べるという期待感があり、どの子ども興味をもって取り組むことができると考える。さらに、栽培活動を通して、理科や家庭科の知識的な内容を体得し、活動していく中で、計算技能や作文技能などを養うことができると考える。

3 単元の目標

- (1) 収穫することを楽しみにして、サツマイモの栽培活動に意欲的に取り組むことができる。
(関心・意欲・態度)
- (2) 耕作・定植・除草・収穫などの活動を学級全員で実施することで、級友とのコミュニケーションの仕方や協力の仕方について学ぶことができる。
(社会生活技能)
- (3) サツマイモの成長の仕方やでき方について、理解することができる。
(理科知識・理解)
- (4) 畑の広さや収穫したイモの量などを計測することを通して、実際に即した計算能力を身につけることができる。
(計算技能)
- (5) 苗を植えるときの感想や収穫時の喜びなどの感想を書くことで、文章作成能力を身につけることができる。
(作文技能)
- (6) 収穫したイモの調理を通して、調理方法や調理技能を身につけることができる。
(調理技能)
- (7) 作物を収穫する喜びを味わうことができる。
(関心・意欲・態度)

4 単元の計画 (28時間完了)

- | | | |
|--------------------|-------|------------|
| (1) はたけをつくろう | ----- | 5時間 |
| (2) サツマイモをうえよう | ----- | 3時間 |
| (3) サツマイモをそだてよう | ----- | 10時間 |
| (4) サツマイモをしゅうかくしよう | ----- | 4時間 |
| (5) しゅうかくさいをしよう | ----- | 6時間(本時2/6) |

5 本時の展開

- (1) 本時の目標
 - ① サツマイモの量に興味をもち、いろいろな方法を使って意欲的に活動することができる。
(関心・意欲・態度)
 - ② 2等分する活動を班で協力しながらできる。
(関心・意欲・態度)
 - ③ 収穫したサツマイモを2等分する方法をいろいろ考えることができる。
(数学的な考え方)
 - ④ サツマイモを2等分することができる。
(技能)
- (2) 本時における学び合いのコーディネートについて

A 子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート

サツマイモの量を2等分する活動に意欲的に取り組めるようにするために、「いもきんとん」や「鬼まんじゅう」を提示して調理したい意欲を高め、材料をきちんと確保しようとする気持ちを高める場を設定する。

B 子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート

論理的な方法では理解することが難しい子どもたちに2等分の概念を理解できるようにするために、みんなで協力しながら行う等分作業を行い、等分の方法を話し合ったり、作業をやり直したりする等の体験的・試行錯誤的な活動の場を設定する。

(3) 本時の流れ

段階	子どもの学習活動 ・予想される反応 学び合いの中心場面	形態	教師の働きかけ・留意点 【評価】 コーディネートの中心場面(A・B)
1	サツマイモを収穫する様子をビデオで視聴し、感想を発表する。	一斉	T1 ビデオ視聴を通して、収穫の喜びを想起できるようにする。そして、そのイモ

つかむ 10	<p>・たくさんイモがとれてうれしい。 ・どれくらいとれたのかな。 ・調理して食べたい。</p> <p>2 サツマイモ調理に向けた準備をする。</p> <p>(1) 2つの班で調理する。 (2) 事前に考えた料理を実際に見る。 (3) 材料のイモを分けて確保する。</p>	<p>を調理して食べたいという気持ちを喚起する。</p> <p>T2 発表しやすいように、収穫についての感想文のフラッシュカードを活用するよう促す。</p> <p>A 2等分する活動に意欲的に取り組めるようにするために、「いもきんとん」や「鬼まんじゅう」を提示して調理したい意欲を高め、材料をきちんと確保しようとする気持ちにつなげていく。</p> <p>【評価】収穫したイモを量に着目してとらえることができたか。 (視線の集中度)</p>
2つのはんにおなじようにサツマイモをわけよう		
取り組む 27	<p>3 サツマイモを2等分にする方法を考え、発表する。</p> <p style="text-align: center;">班分け</p> <p>1班 A(1年男) 2班 D(2年男) (T1) B(4年女) (T2) E(3年女) C(6年女) F(5年女)</p> <p>・目分量で適当に分ける。 ・同じ個数にする。 ・はかりを使って同じ量に分ける。</p> <p>4 収穫したサツマイモを2等分する。</p> <p>(1) 試行錯誤を繰り返しながら行う。 (2) 班のみんなで協力して活動を行う。 ① 目分量方式 Aが行う。 ② 個数方式 一人1個ずつ交替で分け合う。 大きさを見てイモの交換をする。 ③ 重量方式 2班のそれぞれの総量を秤で量る。</p>	<p>グループ 一斉</p> <p>T1 子どもたちが数えることができる数量(12個)、しかも個数だけで分けると重量が不平等になるような不揃いのイモを意図的に提示する。</p> <p>T1T2 方法を考えることが難しい子どももいるので、全員が方法について意識できるように、最初はそれぞれの班で話し合うようにする。</p> <p>T1T2 必要に応じて、考えのヒントとなるよう、イモを観察したり触れたりできるようにする。</p> <p>T1 発表については、わかりやすい方法から発表できるように意図的に指名する。</p> <p>B2等分概念を理解できるようにするために、友達同士が協力してサツマイモを2等分する活動をする中で、方法についてみんなで話し合ったり、作業をやり直したりする。</p> <p>T1 わかりやすい方法から行い、活動途中や結果後に出てくる意見を子どもたちにフィードバックしていく。 目分量で分ける→同じ個数で分ける→イモを入れ替える→秤で量る</p> <p>T2 子どものつぶやきに応じてことばを付け加え、気軽に意見が言えるようにする。</p> <p>【評価】2等分についての正しい概念を踏まえて、作業をしたり、意見交換したりすることができたか。 (作業の様子・意見の内容)</p>
深める 5	<p>5 どの方法が2等分するためには、よい方法といえるかを話し合う。</p> <p>・目分量はおおざっぱ。 ・数えるのは個数が多くなると難しい。 ・秤で計ることが、より正確になる。</p>	<p>一斉</p> <p>T1 ほぼ同じ量になったのは、重量で分ける方法だっことを確認し、しかも、時間的にも早くできることに気付くようにする。</p> <p>T2 子どもの理解を一人一人確認し、理解が不十分な子どもには個別で補足する。</p>
まとめる 3	<p>6 本時の振り返りをする。</p> <p>・班で振り返り表を記入する。 ・班で協力しながら活動ができたか。 ・2等分の方法を理解できたか。</p>	<p>グループ</p> <p>T1T2 班で振り返り表を記入することで、お互いのかかわり方を見直すことができるようにする。</p> <p>T1T2 2等分の方法についても、それぞれの学力に応じて理解できたか評価する。</p>

(4) 評 価

- ① サツマイモの量に着目し、いろいろな方法で意欲的に活動することができたか。
(関心・意欲・態度)
- ② 等分活動の中で助け合って活動することができたか。
(関心・意欲・態度)
- ③ サツマイモを2等分する方法をいろいろ考え、試行することができたか。(数学的な考え方)
- ④ サツマイモを2等分することができたか。
(技能)

第三部 資料

- 1 現職教育通信
- 2 学校通信
- 3 参観日・保護者配布資料

1 現職教育通信

2011 年度の現職教育通信 6 本を掲載する。

共に学ぶ

犬山市立犬山北小学校

(文責：授業部会)

現職教育通信を発行します

2011年の現職教育通信をこの号から発行します。現職教育通信は職員間のみで配布されるものであって、「起案を経ずに全職員に配布できるもの」としたいと思います。このテンプレを職員用データの現職教育フォルダに入れておきますのでご活用ください。

通信の内容は、授業実践のふりかえりや先進校の視察のようす、研修先で聞いた講話の内容や最近読んだ本の内容など、自由に記述していけるものにしたいたいです。子どもの共生を願うのであれば私たちの同僚性も大切にしていきたいと思います。

さて、学級開きを行ってから約3週間が過ぎました。学級の組織もできあがって、順調に活動が進められていることだと思います。職員間の組織を見てみると、前回の研究三部会の集まりの中で、多くの意見が述べられたことと思います。本校のすべての教育活動は子どもの自立と共生を養うために意図的、計画的な活動であるべきと考えます。年度の初めには目指す子ども像と具現化する手だてを明確にして、それを授業の中で目に見える形で実践していきたいと思ひます。

以下には授業部会で話題になった内容を述べていきます。

＜授業部会で話題になった内容＞

◇教師同士の学び合いについて

- ・昨年度よりの授業公開や研修を通して、犬北小らしい統一感のある授業ができつつある。授業形態やねらいの明確化、単元の見通しなど確実に浸透している。
- ・研究授業を何本も提供していただいているが、授業を分析してどう授業者に返していくかは検討が必要。研究協議の持ち方から変えていきたい。

◇指導案について

- ・まずは長谷川先生から示された形式を大切にしたい。要請訪問や学校訪問で実際に作ってからわかるものもある。実践をしながら改善していきたい。
- ・指導案内に学びの姿の評価は入れない。学校訪問等で指導をいただくなかで今の形にいたっている。
- ・指導案から自立と共生という本校のめざす子ども像への明確なつながりが感じられない。単元設定の理由のなかで文言は感じられるが、明確な子ども像を設定すると指導案上でも示しやすくなる。

◇研究協議について

- ・参加型ワークショップで行ってきたが、手立てや教科のねらい、児童の姿など内容が雑多になっていた。視点を整理するとともに、教科の系統性という点でも意見交換できるとよい。

◇研修・視察について

- ・犬北小が明確にモデルにしている学校はとくにない。10月までの間であるが、「これが手本となる授業」というものを共有できるとよい。

短い時間ではありましたが、転勤してきたものにとっては学ぶことの多い時間となりました。

授業について、私自身は長良東小にみえた川田先生（現在は山県小）を尊敬して授業づくりのモデルとしています。ビデオを何本か持っていますので参考にしたい方は貸し出します。

裏面には学びの授業実践を行っていくためのチェックリストを掲載します。

◇学びの授業実践チェックリスト

※□にチェックしてみよう。

1 子どもに自信を持たせる試みについて

- 子ども一人一人に役割があり，達成感を持たせているか。
- 子どもの名前を「～さん」というように一人の人として扱い，丁寧に呼んでいるか。
- ペアや小グループでの活動を意図的に設定しているか。
- 友達のよさや自らのよさを見つける活動を取り入れているか。
- 一日の中で，子ども全員が発表できる場が設定されているか。
- 子ども全員と一日一回は話をしているか。
- 教師自身が子どもの発言を聞く姿勢を持ち，言いかえをしていないか。(リボイスでも可)

2 学級の中に共感的な関係を築き，学び合い分かち合う試みをしているか

- 机の配置に工夫しているか。(場面に応じてコの字型や集合隊形など)
- 学習の中に，交流する場面を取り入れているか。(グループ交流，全体交流)
- 共通の資料や掲示物を見ながら話し合いをしているか。
- 話す人の方に視線を向けて話を聞くよう指導しているか。
- 能動的に聞くように指導しているか。(うなずき，反応など)
- 聞く相手に呼びかけるような話形を提示しているか。(～いいですか？，みんなはどう思う？，○○さんはどう？)
- 朝の会や帰りの会にスピーチや発言の機会を設けているか。
- 活躍したり努力が見られた場合に拍手ができるよう心がけているか。
- 子どもをつぶやきを大切にしているか。(教師依存との区切りに注意)

3 ねらいの設定と振り返り活動を取り入れる試みについて

- 長期的・短期的に目標を設定しているか。(○年生の目標，運動会の目標，など)
- 目標設定や振り返りの際，家の方にアドバイスしてもらい成長を共有しているか。
- 子どもの将来の夢を大切に，夢について考えたり進路について知識を深めているか。
- 作文，振り返りに朱入れや児童相互の回し読みをしているか。
- 心のノートなどを使って，自分自身について振り返る活動を取り入れているか。
- 週の目当てを意識させて生活するよう呼びかけているか。
- 個人の学びの足跡を振り返られるようなファイルやフォルダがあるか。

すべてがチェックされなければ学びが成立しないわけではありませんが，参考にできる部分は参考にしていたたければと思います。

どうしても大人は経験に頼って日々を過ごしがちです。しかし，子どもがよりよい姿に成長できるように私たちも成長していきたいものです。

共に学ぶ

学校訪問が終わりました

2011年度の学校訪問が昨日終わりました。年度始め早々の学校訪問で準備に追われる慌ただしい日々でしたが、ご指導いただいた内容を参考にしてまた今日からの教育実践をよりよいものにしていきたいものです。また、研究授業として授業を提供してくださった山田先生、太田先生は日々授業づくりに努力されたはずです。お疲れ様でした。

さて、全体会の奥村教育長から鋭い指摘をいただきました。本校の自立と共生の考え方について、また、学び合いについての内容です。犬山市が学び合いの授業へと舵を切ってから10年以上経過しました。市内の学校でも考え方や実践方法がオリジナルのものとなり、一言で「犬山市の学び合いを取り入れた授業」とは定義づけられなくなりました。先日研修で参考になる資料を手にしたので何かの参考になればと思います。

「～合い」について

<伝え合う>と<学び合う>の違い

	伝え合う	学び合う
話す活動	<ul style="list-style-type: none"> 正確に情報を伝える。(内容に変容はない) 話す前に相手が話すことがおおよそわかっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えが固まっていないことを話し始める。(話す前後で内容は変わる) 相手の話す内容が相手に事前に分からない。
聞く活動	<ul style="list-style-type: none"> 正確に情報を聞き取る。 聞くことから得られることは発見でなく確認。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の話が予想外であるほど聞く価値が高まる。 聞くことによって新しく発見があったりものごとが進んだりする。

- 指導案上でグループ活動を取り入れたとき、単なる伝え合い活動になっていないか確認が必要である。話し合うことと伝え合うことは違うと常に意識しておく。

<教え合う>と<学び合う>と<高め合う>の違い

教え合う	学び合う	高め合う
<ul style="list-style-type: none"> 主として教える子の側から相手に働きかける。「教えてあげるよ」 	<ul style="list-style-type: none"> 分からない子の側から相手に働きかけることができる。「分からないから教えて」 	<ul style="list-style-type: none"> 自分と相手だけでなく、学級全体が変容しているかメタ的に意識している。

- 教え合いと学び合いは似て非なるもの。学習開始の主体者が違う。学び合う方が集団作りが大切でより高度である。
- 高め合うということはとたもレベルが高いこと。自分の学びだけで判断するのではなく、学級全体の学びが引き上げられていくことが必要。(参考 岩倉市教育委員会 高橋宏磁先生)

本校の現職教育テーマは「学び合い 育ち合う子どもの育成」となっています。本校の目指す「学び合い」と「育ち合い」とはどのようなものなのか分かりやすく表現することが大切になりそうです。私たちが目指す子ども像を明確にして日々の実践に取り組みたいものです。

共に学ぶ

今週は要請訪問です

先月末の学校訪問では主事先生らに授業についてアドバイスをいただき、2週間が経ちました。月曜の朝会での校長先生のお話にもあったように、犬北っ子のよい姿を見ていただけたところで再び要請訪問を迎えます。授業を提供していただく水津先生と近藤真美先生、鬼田先生に敬意をもって金曜日の授業研究が有意義なものにしていきたいものです。

前回の研究三部会の集まりの中では、多くの意見が述べられ、改善された部分が多くありました。昨日6日にも三部会が行われました。研究というのはどうしてもやらねばという気持ちの先に来てしまいがちですが、私たちの力量向上と児童の成長のためにも、部会での活動も大切にしていきたいものです。

以下には授業部会で話題になった内容を述べていきます。

＜授業部会で話題になった内容＞

◇聞き方名人・話し方名人の掲示物について

- ・掲示して3年間が経過しているが、一定の成果を挙げている。特に授業の中で掲示を取り上げるわけではないが、場面場面で目指そうねと声かけをしている。
- ・内容については3年前の現職教育で検討済みではあるが、話し方名人のレベルと内容について若干変更の余地があると感じている。今後見直しを行うとともに、環境部とも協力して夏休みには掲示物の張り替えも行いたい。

◇指導案形式について

- ・予想される子どもの反応の書き方が不明瞭で分かりにくい。字体や形式を決めて、指導案を読む人に分かりやすい形式にしたい。
- ・板書計画は授業づくりの要であり、指導案の最初に書く学校もある。最近では一度板書を作り上げ、写真撮影をして指導案に差し込む形が進められている。そこまでは言わないが、本校でも□や…で済ますことなく、板書計画を詳細に見通しのあるものにしたい。
- ・コーディネートについてはやはり記述するのが難しい。ABについても書きにくさはある。A→Bという順番で固定であるとか、ABが必ず一度ずつということではなく、B→AやA→B→Bという形で授業者の意図が明確であれば柔軟なコーディネートのあり方があってもよい。

◇研究協議の持ち方について

- ・学校訪問では従来の参加型ワークショップに変化を加えた。一つ目は3つの視点を設定したこと、二つ目は協議をさらに深める手立てを加えたことである。
3つの視点については視点①の自立と共生を1時間の中でどう育てていくかは本校の取り組みの核である。1時間の厚みは薄くても引き続き視点として取り入れたい。
視点③については授業者が本時の中で特に大切にしたいところ、検討してもらいところがきているが、あくまで②の教科の狙いの延長上にある。視点③は③として独立するのでなくも視点②の中に特に本時では、という形で記述して視点を2つにしぼってはどうか。
二つ目のさらに視点を絞って協議する方法は今までの言いつばなしの取り組みの反省から生まれている。今後も取り組みを続けてみて有効かどうかを検証したい。

◇犬北小の目指す児童像と犬北小の学び合いの定義について

- ・教育長の指摘もあった。授業部会でたたき台を作成したい。

通知表検討の後ということが多忙感のある中での協議でしたが、それぞれの思いや学校訪問の反省を伝え合うことができました。

今後の指導案や協議の持ち方についても踏み込み始めています。部会の中でとどまることなく、三部会の情報を全職員で共有していきたいものです。今週の要請訪問は校外からも多くの参観者が来校するそうです。私たちも向上心をもって参観させていただきたいものですね。

共に学ぶ

日曜学級と目指す子ども像

19日日曜日の午前には参観授業、午後には現職教育ということで指導案検討と三部会が行われました。毎日参観日を標榜している北小ではありますが、実際に保護者の方に児童の姿を見ていただく機会は限られています。今回はふれあいが中心でしたが、公開する授業の中に学び合いそしてその上段にある自立と共生の育成が保護者の方にも感じ取ってもらえるような試みが大切になります。保護者との協力、連携は児童のよい姿を見ていただければより得やすいものになります。セレモニー的ではない、実直な学びの授業を公開していきたいものです。

さて、夏休みまで一か月となりました。研究発表までは四か月ほどになります。全職員で本校の取組を再確認しながら、夏休みにすべきことを確認していきたいものです。

以下には19日の授業部会で話題になった内容を述べていきます。

＜授業部会で話題になった内容＞

◇聞き方名人・話し方名人の掲示物について

- ・裏面のように掲示物の内容の見直しを行った。話し方はレベル5までと変更した。また、低学年の掲示物についても漢字表記にルビとして、国語の学習環境整備ととらえながら掲示物を作成した方がよいと意見が出された。
(裏面の内容について修正案がありましたら授業部会にお知らせください。)

◇指導案形式について

- ・予想される子どもの反応の書き方は吹き出し、罫線囲みで記述。
- ・コーディネートについては、基本形はA→Bではあるが、B→AやA→B→Bという形でも意図が明確であればよい。
- ・(4) 評価は目標の裏返しは避けたい。授業中の形成的な評価から本時最後の大きな評価とつながるように記述するが、その際には評価の手立てや何ができたか目標達成であるかが分かる評価としたい。(さらに検討の余地あり)
- ・つかむの段階の本時のめあては、児童に示すままの表現で、まとめる段階でふりかえりを行う明確なめあてとする。
- ・指導案は読み手の目線も考えたい。行間の詰め過ぎや行間罫線の多用は避け、適度に改行と空きのある、見やすく余裕のある指導案としたい。

◇犬北小の目指す児童像と犬北小の学び合いについて

- ・本日授業部会の宿題として検討に入った。めざす児童像やコーディネートやしかけなど本校の取組みをまとめていく。(叩き台を見たい、検討したい方は授業部会まで)

◇先進校視察情報

多忙の中ですが時間を作って刺激をもらいましょう。岐阜の小学校の学び合いは圧巻です。

6月25日(土) 岐阜大学附属学校(小学校)

長良東小・西小と並んで学び合いでは日本トップクラスに行く小学校。附属と言っても選抜はくじ引きのみの、地域に開かれた学校。

7月2日(土) 岐阜市立加納小学校

日本でトップと言える学び合い先進県の岐阜でも特に力が入る学校。特に毎年取り組む6年生のオペラは圧巻。今年は走れメロス。

共に学ぶ

岐阜大学附属小学校の研究発表会に参加しました

6月25日土曜日に岐阜大学附属小学校の研究発表会に参加してきました。岐阜といえど今回の岐阜大学附属小学校、加納小学校、長良東小学校、長良西小学校などは毎年研究発表会を行っています。整然とした学習規律と自分の言葉で長く問いかけて話す力は圧巻です。雲の上の学校ではありますが、積極的に視察を行って参考にできる部分を日々の実践に取り入れられるといいですね。

さて、付属小の授業の様子ですが…参観者が500人以上いたので、各クラスに参観者が150名程度おり、とにかく暑く、子どもにとって集中しにくい状況でした。しかしいつも通りと言わばかりに授業が展開されていきます。「話します」「いいよ！」など児童相互の反応が快く、児童相互の関係が良好なことがすぐに分かります。全教室には「なかまのしあわせのために よくかんがえて たすけあい つくりだす」と掲示があります。学校全体で目指す児童像のようです。本校の目指す「共生」と似ています。その目標が具現化されつつあるのが授業から感じ取れました。

さて、他校はさておき私たちも10月には研究発表として多くの方に授業を見ていただく機会を得ることができます。あくまでひとつの通過点でしかありませんが、参観者にほめていただけるような児童の姿をお見せしたいものです。

27日の授業部会では以下のように具体的な話が進められました。

<授業部会で話題になった内容>

◇研究紀要における授業部会の担当内容について

- ・授業部会からの手だてとして2ページに取り組みをまとめる。
- ・各学年の実践を各1ページ作成する。その際には、代表的な授業実践を行って先生に押しつけとならず、授業部会の担当者が中心となって作成して欲しい。
- ・全教科全領域での取り組みということで、外国語活動と児童会活動、総合的な学習の時間でも記述を行いたい。総合の取り組みについては、3から6年の特色ある取り組みの様子の写真2枚と400文字程度の文章でまとめ、8月上旬までに授業部会の間瀬先生に提出する。

◇授業改善への取り組みについて

- ・全職員が共通理解をしながら授業改善を進めようという話題を受け、一度に多くの取り組みは難しいだろうということで、1週間単位で私たちの取り組みを確認していく強化週間を設定することとした。犬北小に足りない要素としてまずは「相手に伝わる声の大きさ、話し方」があがり、来週7月4日～8日は「話し方聞き方強化週間」としたい。各学級で児童と聞き方話し方を確認していただき、実践の成果や課題がありましたら全職員でシェアしたいと思いますので下の切り取り用紙に記入して坪内までお渡しください。
- ・お願い言葉で授業を進めている、という話題が出た。「読んでください」「ではお願いします」ではなく「しましょう」「しなさい」「します」など、教師としての立場を考えてことばがけを行いたい。(お願いされたからする、では自立は育たない)
- ・教師の言い換えやリボイスが子どもの発言の価値を低下させているケースが多々見られる。子どもの発言に価値を持たせたい。

◇先進校視察情報 7月2日(土) 岐阜市立加納小学校

8:30受付 なかよしあそび公開→9:45授業開始→13:05～13:55 オペラ「走れメロス」

----- 切り取り線 -----

7月4日～8日「話し方聞き方強化週間」成果シェア用紙

わたしはこんな手立てで、話し方聞き方を確認・強化したところ成果がありました。 名前()

共に学ぶ

犬山市立犬山北小学校

(文責：授業部会)

指導案検討会の視点について

夏休みが始まり、授業が再開されました。夏休み中にそれぞれの部会が精力的に活動していただけたため、紀要についてはめどが立ち、次は指導案と環境づくりが大切になります。残り2か月を切りましたが、あせることなく一步一步進んでいきたいものです。

さて、先週の30日には指導案検討会を行いました。夏休み前から温め、学年会で検討していただいた内容でしたからどの指導案も完成に近い状態であったと思います。ただ、検討すればするほどよくなるというのも事実です。前回の検討からさらに積み上げを行って、よりよい授業設計を行いたいものです。

前回の指導案検討の前にもお話ししましたが、今日の指導案検討でも気をつけていただきたい内容があります。誤字や漢字表記の統一も気になるところですが、以下に示す内容に特に気をつけ、指導案検討を実りあるものにししたいと思います。

<指導案検討の視点>

①自立と共生が意識されているか

繰り返しになりますが、立案の立場の(1)は本校の目指す子ども像が反映された内容になります。今、目の前にいる子どもたちに対してどのような願いを持って教育活動を行っていくか、読み手に伝わるように書けることが理想です。

②単元を通して、こういう力を育てたいと明確に語られているか

同じく立案の立場の(2)単元についても大切になります。これは教師自身の見通しが問われています。目の前の子どもに対して、単元を通してどのような力をつけたいかを記述します。その際には新指導要領も参考にして、学ぶ姿を育てることに偏りすぎず、教科のねらいがどのようなものであるかを意識しておくべきです。また、後述するように「**高めの目標**」を設定することも大切になります。

③コーディネートが的確であるか

コーディネートは「〇〇するために、△△を設定する」というように、ねらいがあるからその手だてが必要である、と記述します。その際、ねらいは低いものや浅いものであってはいけません。学び合いそのものがねらいになっていたり、そもそもねらいと手だてがリンクしない場合もあります。

コーディネートは教科のねらいを達成するため、もしくは目指す児童像の実現という大前提に迫るためのものであることを意識しておきましょう。

④本時のねらいは明快であり、まとめる段階で振り返られるか

指導案の最初に示すねらいは子どもの1時間の意欲と見通しを持たせるものです。もちろん単元の見通しを子どもと共有して進めていけば「先生今日はなにすんの」と聞く子どもはいませんが、それでもやはり本時の位置づけを明確にしてやることは大切です。

学びは我がごとであり、1時間後にどんな成長をしたのか感じることは一生学んでいく基礎となります。低すぎず、高すぎず、単元の学習の進捗状況と合わせてねらいを設定しましょう。(ですから当日指導案と違うねらいを設定する可能性もあります)

⑤「高めの目標設定」はされているか

紀要の3ページのコーディネートの方法に「①高めの目標設定」とあります。いざ指導案を書き始めてみたとき、「ん、具体的にいうと高めの目標って何だ?」という疑問は浮かびませんでしたか。「高め」だから学習指導要領に示された内容より「難しい問題」に取り組むべきなのか?それとも学習集団として、「全員習得」「全員説明」といったねらいとすればいいのか。

考え方を2つに分けたいと思います。1つ目は②と関係して、単元を見通した学習とのかかわりの中で、単元終了時に身につける教科の力を発展的な内容に設定し、1時間1時間少しずつ高みを目指していく、という考え方です。単元終了時にはこんな力がつくのだ、と子どもと共有しながら学習を進めていくことが大切になります。

2つ目は、本時における知的好奇心探究心という点での高めの課題設定です。こんなことが1時間でできるのかな、やってみたいな、という子どもの態度を引き出す課題です。めあてが「なんだ、もう知ってるよ」「簡単だな」という反応は1時間の学習の効果を薄くします。

なんとなく漠然とした説明になってしまいましたが、研究推進委員会でも高めの目標設定の定義づけには議論が起きました。手だての1つでしかないとはいえ、改めて考えるに難しい手だてだと思えます。指導案検討の際に話題にさせていただきたいと思えます。

2 学校通信

保護者向け学校通信「みんなとっしょ」を抜粋掲載する。

2010年 3月 16日発行 No. 12

2011年 5月 10日発行 No. 2

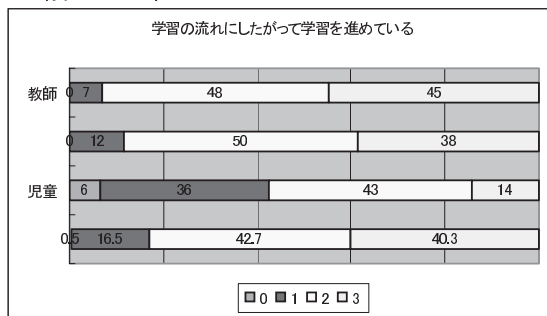
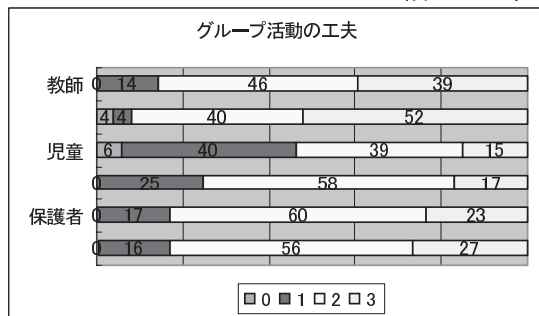
2011年 11月 10日発行 No. 5

2011年 12月 7日発行 No. 6

2月に実施した学校教育アンケートの結果を報告させていただきます。
項目ごとの結果を以下のようにグラフで表しました。児童用アンケートの結果は、自己評価に慣れている高学年のものです。ここでは、特に実態が顕著に表れたものをお示しします。

【よい結果の得られた主な項目】

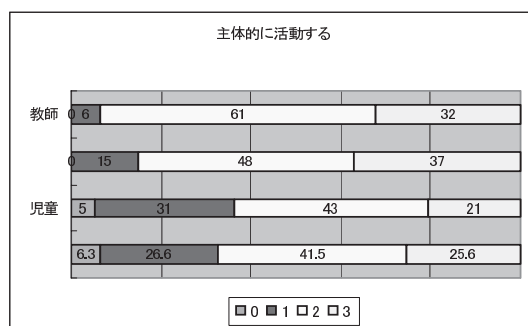
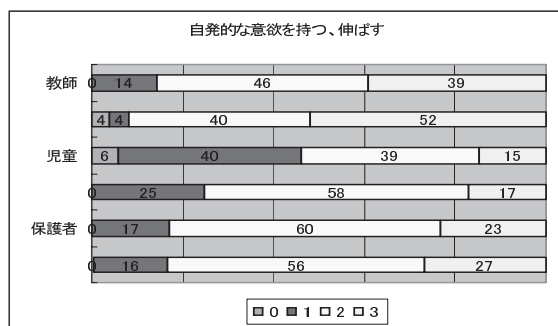
上段…20年度 下段…21年度



0 全然当てはまらない 1 少し当てはまる 2 たいがい当てはまる 3 よく当てはまる

上に挙げた『グループ活動の工夫』については、「よく当てはまる」「たいがい当てはまる」と答えた児童が昨年に比べ20%程増えています。また『グループ作りの工夫』、『学習によって机の向きを変える』についても同様の結果が見られました。

『学習の流れにしたがって学習をすすめている』については、日頃から子どもたちが主体的に活動できるよう、授業の始めにその時間の学習活動の流れを黒板に掲示し、次に何をするのか子どもたちに分かるように“子ども主体のコーディネート”に心がけている成果が、子どもたちの意識にも表われていることを確認できました。教師が「よく当てはまる」と答えたパーセンテージが減少している点を反省すると共に、授業での取り組みが、全体的に向上していることを励みに、今後も現在行っている指導法を継続していく努力をしていきたいと考えています。



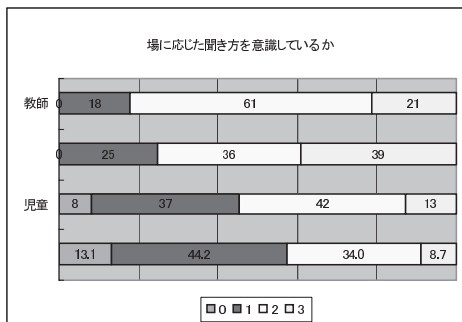
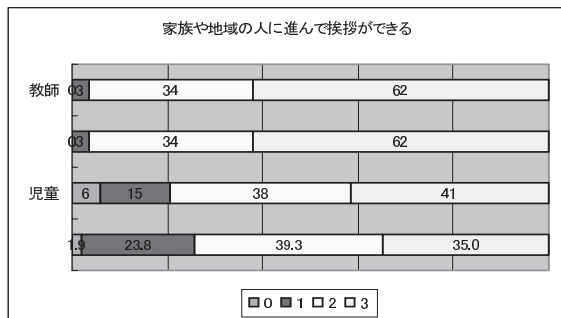
『自発的な意欲を持つ、伸ばす』については、昨年度から教師と保護者の回答の2, 3に高い数値がみられ、学校とご家庭とが同じように子どもたちの自発的な意欲を期待して教育に当たっている成果が、今年度児童の回答のよい結果をもたらしたと考えられると思います。併せて、『主体的に活動する』についても児童の回答に伸びが見られ、よい傾向であることが分かりました。

【残念な結果が表れた項目】

『家族や地域の人に進んであいさつができる』については、児童の回答の2, 3に昨年度より減少が見られ、残念な結果となりました。『先生たちとあいさつをしている』という項目には大きな伸びが見られ、実

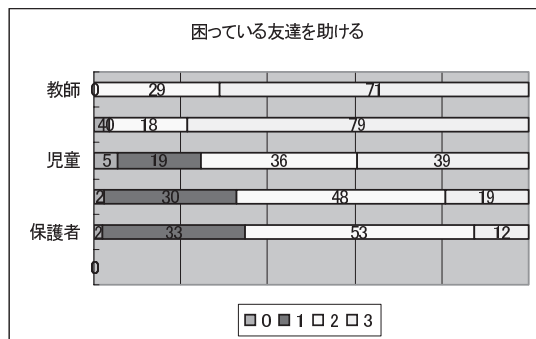
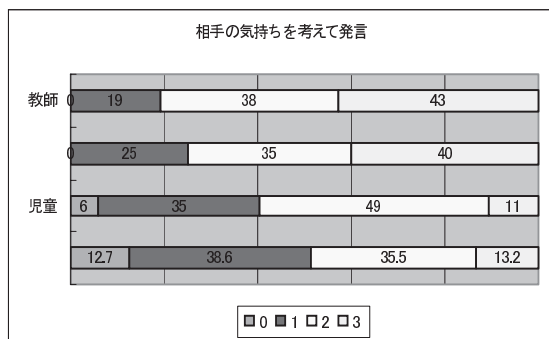
際登校時や校内ではよくあいさつをしている様子が見られるようになったのですが、まだ地域で実行できるところまでは浸透していないことが分かりました。学校でも、教師に出会ったときに先に挨拶できる子ばかりではなく、教師の挨拶を受けてから挨拶を返している子もあり、それが地域でとなるとさらに難しいのかもしれない。（地域での子どもたちの様子を伝えていただいた保護者の方の声を裏面に載せました。）ご家庭でも、あいさつについてはしっかり働きかけていただいているということが、今年度のアンケート結果からも伺えますが、事実はしっかりと受け止め、今後も学校と家庭と力を合わせて地域で温かな挨拶が交わされるように取り組んでいきたいと思います。

上段…20年度 下段…21年度



0 全然当てはまらない 1 少し当てはまる 2 だいたい当てはまる 3 よく当てはまる

右のグラフの『場に応じた聞き方を意識しているか』については、各教室に学年の発達段階に応じて作成して掲示した「聞き方名人」の望むレベルが高かったためか、アンケート上の成果は見られませんでした。しっかり聞ける子を育てることが学習の一番の基本だと考え、学習のめあての提示についてもさらなる研究を重ねて、指導に当たっていく必要性を感じました。



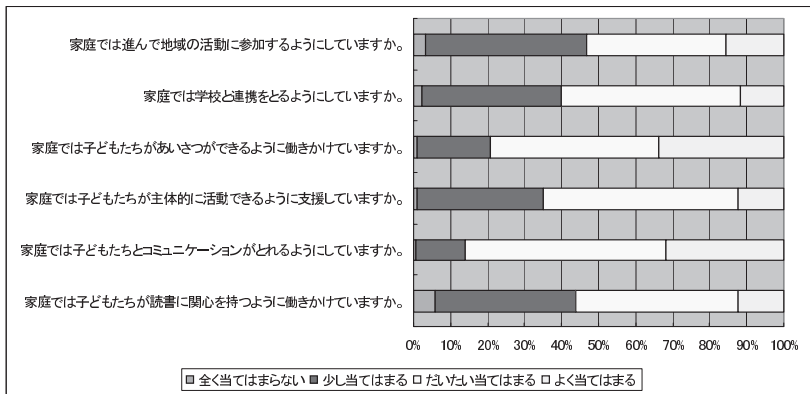
『相手の気持ちを考えて発言する』と『困っている友達を助ける』については、いずれも昨年度と比較して2、3と回答した数値が減少し、たいへん残念な結果となりました。子どもたちの学校生活の様子を見ておきますと、友達と助け合っている場面、優しい言葉を掛け合っている場面を見かけることも多々あり、『友達のよいところをほめることができる』という項目にもよい結果が表れているように、北小の子どもたちは、「思いやりのある子」になろうとしていると感じました。しかし、『友達に相談する』という項目にもよい結果が得られなかったことを考え合わせると、「よりよい人間関係づくり」が十分ではないことを反省せざるを得ません。生活のあらゆる場面で機会を捉え、友達とうまく関わることができる子どもたちを育てられるようご家庭と力を合わせていきたいと思います。

今回の評価アンケートの結果を真摯に受け止め、具体的な対応・実践につながるように話し合いを重ねて、来年度の教育活動の充実を図っていきたくて考えております。

【保護者アンケートの結果から】

保護者アンケートの家庭での様子に関わる項目の結果をグラフに表すと、次頁のようになりました。

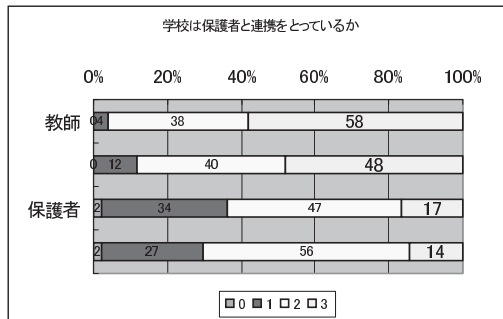
昨年度は保護者アンケートの回収率が66%でしたが、今年度は81%にアップしました。学校教育に目を向けてくださっていることを実感しております。アンケートのどの項目についても、半数以上のご家庭が、「よく当てはまる」、「だいたい当てはまる」と回答され、北小の保護者の皆様は教育に対する関心が高く、“我が子が学校のめざす子ども像に近づけるように”ご協力いただいていることが確認できました。



『学校は保護者と連携をとっているか』という項目について見てみると、教師で3に該当するという回答が10%減ったものの、保護者からの回答は2、3合わせると増加している結果が出ました。『家庭では学校と連携をとるようにしているか』という項目の結果が保護者の方の『学校は保護者と連携をとっているか』という結果と近い数値で、60%の方が「あまり当て

はまらない」としていることから、互いに連絡を取り合う必要があると感じました。この項目については、「どの先生について考えたいのか」、「先生によって違うのではないか」という面から、「学校は？と聞かれると答えるのが難しい」という声も挙がっていました。

『主体的に活動できるように働きかける』の回答で「よく当てはまる」が少なかったのも、具体的な姿がわかりにくかったためと考えられます。これらの問題点に対しては、PTA運営委員の方の声にあるように、学校として具体的にどう対応しているかが保護者の皆さんにもっと伝わるように努力し、学校と保護者が歩調を合わせられるように連携をとっていきたいと考えております。



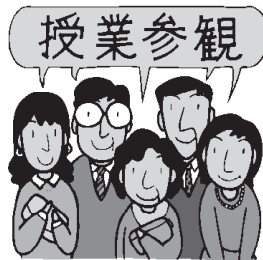
保護者アンケートの記入欄に書き込まれたご意見（抜粋）

朝の交通当番に行かさせていただいた時、きちんとあいさつをしてくれる子もいましたが、ほとんどが何も・・・知らん顔でした。はずかしかったりもあると思いますが。

学年が上がるにつれ、言葉遣いが悪いように感じます。言葉で人を傷つける事があるという事を家庭でも教えていきたいと思っています。

以前の様に学校に親が行かなくてよくなった分、楽な面もありますが、学校の様子や担任の先生の顔も、自分の子以外は分からないくらいで淋しくも思う一年でした。

PTA総会や研究発表会の時に子どもと共に帰宅できる状態は難しいのでしょうか？子どもが帰宅する為、出席者がいつも少なく残念に思います。学校に出入りされている支援の方々のことがほとんど伝わってこず、何をやっていて何が必要なのかがよく分からない。



ここに書かれている項目は一年行ったから、すぐに結果が出るものではないので評価するのは難しいです。（テストの点のように目に見えるものではないので・・・）学校が取り組んでいる活動は理解します。今、やっていることを継続し、更には子ども達に生きる力がつくよう、もっと工夫（コーディネート）し、後退することがないことを希望します。

子ども達が友達ともめたりすることは日常茶飯事だと思いますし、そのような経験は大切だと思いますが、担任が把握しても直接対応するのではなく、目をかけ、子ども達が自分で解決できるよう、気長に見守る必要があると思います。大人が間に入ることは、良い影響を与えないことを保護者も自覚する必要があると思うので、先生方はむしろ保護者のフォローに力を注ぐ方が良いケースが多々あるように感じています。

学校で取り組んでくださっている活動については全体についてよく把握できてはいませんが、満足あるいは好感を持っており、感謝しています。しかしながら子どもがどんな友達とどうつきあっているかやお友達の親御さんがどんな風になさっているか知る機会が少なく、孤立感につきまといながらの子育てになってしまっていることが悩みです。



評価アンケートの結果を見て (PTA運営委員の方々の感想 抜粋)



- ・「みんなの前で話すことができる」「子どもに目を配り温かく応援している」「話し方が向上するように働きかけをしている」など、児童が低い評価を付けた項目に対して、教師が積極的に働きかけていることが読み取れる。
- ・教師の働きかけと保護者の働きかけの評価の差が大きい項目に関しては、共通認識をもって取り組む必要がある。学校、家庭の両面から子どもたちに働きかけていかなければ成果は得がたい。
- ・「困っている友達を助ける」、「友達に相談する」「友達のよいところをほめることができる」「相手の気持ちを考えて発言」などの児童の評価から、友達と関わる力が弱いように読み取れる。
- ・各項目に対して、具体的にどのように対応しているのかを示したら、保護者の学校に対する意識が少しは向上するかもしれませんね。
- ・グラフから見ると学び合いの結果が出ていると思いますね。
- ・先生と保護者の意識が違いすぎるような気がします。先生自身が思い込んで良い評価をつけているのか…それとも保護者が学校での生活をあまりにも知らなさすぎて悪い評価になるのか…。
- ・困っている友達を助ける、友達に相談する、相手の気持ちを考えて発言等、心の温かさが少なくなっていて、このことは、大人の先生・親が身をもって教えなくてはだめだと思いました。今の道徳の授業はどんなのか分からないし、昔の道徳の授業とは違うのでしょうか。
- ・アンケート結果のグラフを見て、一番思ったことは、先生と子どもと保護者とはかなり意識の違いがあるなということです。特に友達のことに関しての設問についてはそう感じます。友達関係つまり人間関係は、これから大人になっていくうえでとても大切なことだと思います。何か困難なことにぶつかったときに一人で抱え込まずに誰かに相談するという、また、誰かが困っているときに手を差し伸べるということは急にできることではないので、子どものうちからできるようになった方が良いと思います。うちの子の場合でも「友達に相談する」ということはしたことがないと言っているの、やはり学校だけでなく家庭からもそういった環境づくりは大切だと思います。
- ・「話し方の向上」「相手の気持ちを考えて」の項目も前年よりも低くなっていて、最近の子どもたちの言葉遣いの悪さの結果ではないかと感じました。保護者の意識もそれほど高くないのが残念です。家庭で大人がもう少し言葉に対する意識を変えた方がよいのではないのでしょうか。
- ・「挨拶」の項目も前年より下がっていましたが、保護者の地域への交流も低くなっていて比例しているのではないのでしょうか。子どもたちばかりに挨拶を要求するのではなく、家庭も一丸となって取り組んでいかななくてはと思いました。
- ・「子どもに目を配り温かく接しているか」の項目で少し温度差があるのが気になります。温かくとはどういうことか判断が難しいと思いますが、児童に意識がないことには、どれだけ先生が努力されても当たり前前に感じてしまうかもしれません。まず児童たちが、本を読んだり体験したりすることによって人を思いやる気持ちを感じることが、少しずつ信頼関係や友達関係につながっていくと思います。ここが伸びると関連項目も自然に伸びるのではないのでしょうか。すべての子どもに目を配るのは、大変だとは思いますが、親子でも他人でも言葉にしないと気持ちは伝わりません。できる限りいいことはすぐに・・・は・・・でよかったよ、やさしいね、などしっかり理由もつけて、ほめる(しかる)ことが大切だと思います。あと、先生方が実践していることはお便りで家庭にも伝えていただくと、人間育成の面では学校と親で効果が期待できます。

評価アンケートについて、ご協力をいただきありがとうございます。評価アンケートの結果について、詳しいことをお知りになりたい方、ご意見ご質問等がありましたら、学校へお尋ねください。今後とも犬山北小学校の教育にご理解とご協力をお願いいたします。

4月27日の授業参観・PTA総会は、多くの方々にご参加いただきましてありがとうございました。

さて、今年度も子どもたちに「生きる力」を育む教育活動を推進して参ります。そのためには家庭・地域・学校の連携が不可欠です。今後も少しずつ本校の取り組みについて紹介させていただきます。互いに共通理解を図りながらご協力をお願いいたします。



学び合いで「生きる力」＝「確かな学力」と「豊かな人間性」を育みます

本校では、犬山北小学校に集う子どもたちが空間や時間を共に過ごすだけでなく、自分の個性や特性を理解すると共に、相手や周囲の人々の気持ちも推し量り、集団生活の中で、夢の実現に向けて行動できる人間に育つことを目指しています。また、「自分の幸せは、他の人々の幸せと共有できて初めて意味がある。」という意識を持てるように成長することを願っています。

これからの不透明な厳しい社会で生きる力を育てるためには、何事にも勇気を持って臨み、挑戦する強い意志が大切です。あらゆる教育活動に積極的に取り組み、子どもたちに様々な体験をさせることで自信をつけ、主体的な態度を育てたいと考えています。また、互いのよさを生かしながら、周囲と協力し合い、助け合い、自分と同じぐらい仲間を大切にできる心を培っていききたいと考えています。

そのために自ら学びを創造し、「確かな学力」と「豊かな人間性」を身につけることが必要です。その育成手段として日々の授業において本校が目指す「学び合い（自立と共生を育てる学習）」を実践していこうと考えています。

「挑戦する子(自立) 思いやりのある子(共生)」の育成を目指します

「挑戦する子」とは、失敗を恐れず、様々なことに主体的にチャレンジしようとする自立した子どもを育てることです。そのために保護者や教師は、子どもが持っている力を引き出すための仕掛けをするコーディネーター(主役である子どもたちを支援する人)として、失敗をチャンスと捉え、多少のリスクを伴っても子どもたち一人一人を伸ばす意識を持つことが大切です。

「思いやりのある子」とは、お互いに協力し助け合って、自分と同じぐらい仲間を大切にできる心を持つ子どもを育てるということです。

これからの社会で幸せに生きていくためには、「挑戦(自立)」と「思いやり(共生)」が不可欠であると考えます。

保護者・地域の方・教師 = コーディネーター

共に学び
共に育つ

みんなといっしょ

平成 23, 11, 10

犬山北小学校

紅葉がきれいな季節になりました。まだ暖かいですが、季節の変わり目で体調をくずさないようにお気をつけ下さい。

さて、先日、研究発表会(教員向け)や授業参観がありました。お手伝いや参観ありがとうございました。



研究発表会(教員向け)がありました

10月26日(水)に丹葉地方教育事務協議会・犬山市教育委員会から委嘱を受け、教員向けの研究発表会を開催しました。教師の力量向上がねらいで、市内外の教育関係者300名に参加いただき、本校の「学び合い」の取組を公開授業とプレゼンテーションで紹介しました。多くのPTAの方々にもお手伝いいただき、大変有意義な会になりました。ありがとうございました。



各学年の学び合いの授業の様子と教育関係者の参観の様子

授業参観・クラブ活動参観ありがとうございました

11月8日（火）に、授業参観・クラブ活動参観がありました。天候にも恵まれ、元気に活動する子どもたちの姿が見られました。

さて、「学び合い」の授業では、単に問題が解けるようにするだけでなく、子どもたちが互いにかかわり合いながら考えを交流する中で、互いに高め合っていくことを大切にしています。つまり、確かな学力を身に付けながら、よりよい人間関係を築く力も同時に身に付けていこうというねらいです。

今回は保護者案内に授業のねらいを載せてみました。授業の様子はいかがだったでしょうか。



授業参観・クラブ活動参観の様子

自主研究発表会（保護者向け）を開催します

1月28日（土）に保護者向けの自主研究発表会を開催します。授業を参観いただき、本校の学び合いの取組やその成果と課題について説明します。子どもたちに、「生きる力」を育むための教育活動です。保護者の方のご協力ご理解が必要な活動です。詳細は1月初旬にご案内しますので、多くの方の参加をお願いします。

共に学び
共に育つ

学校通信

NO, 6

みんなといっしょ

平成 23, 12, 7

犬山北小学校

12/3(土)の犬北っ子発表会には、たくさんの方にお越し頂きました。子どもたちの成長を感じることができたでしょうか？

さて、文部科学省から興味ある調査結果が出されました。子育てへの今後の参考にしてください。



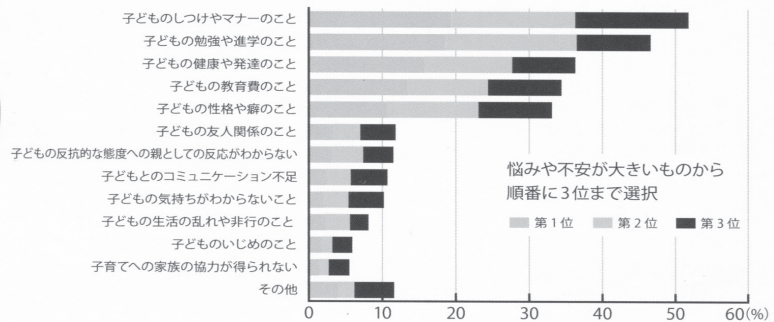
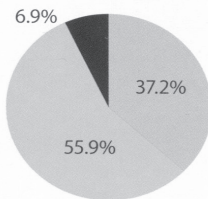
家庭教育を取り巻く状況は？

～文部科学省調査結果より～

子育てについての悩みや不安

約4割の保護者が悩みや不安を抱えているようです。

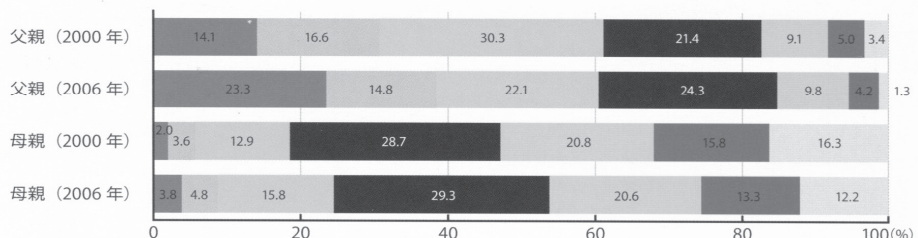
■ 悩みや不安がある ■ 悩みや不安はあまりない ■ 悩みや不安はまったくない



平日に親が子どもと接する時間の割合

母親と子どもの接する時間が減り、父親と子どもの接する時間は「ほとんどない」という割合が増加しているようです。

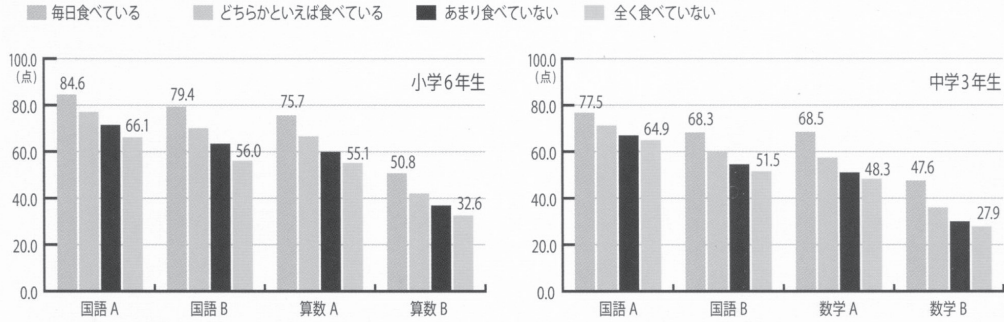
■ ほとんどない ■ 15分くらい ■ 30分くらい ■ 1時間くらい ■ 2時間くらい ■ 3時間くらい ■ 4時間以上



- ◆ 仕事で忙しい家庭や悩みを抱え孤立しがちな家庭など、様々な課題を抱えた家庭の状況
- ◆ いじめや不登校、児童虐待の増加といった問題の複雑化、多様化

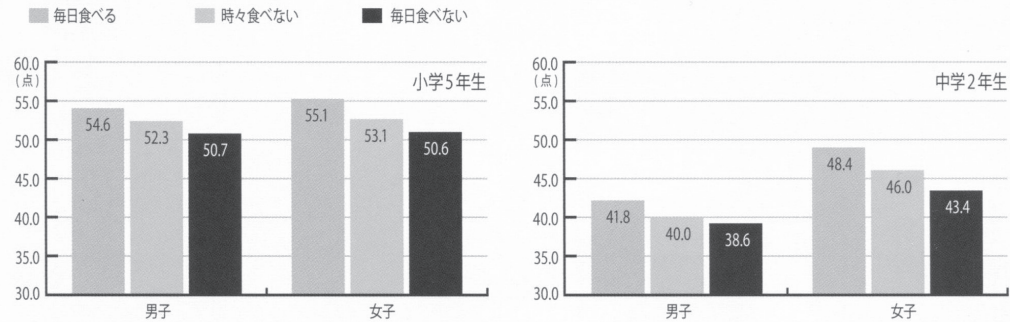
朝食の摂取と学力の関係

毎日朝食をとる児童生徒ほど、学力調査の得点が高い傾向にあります。



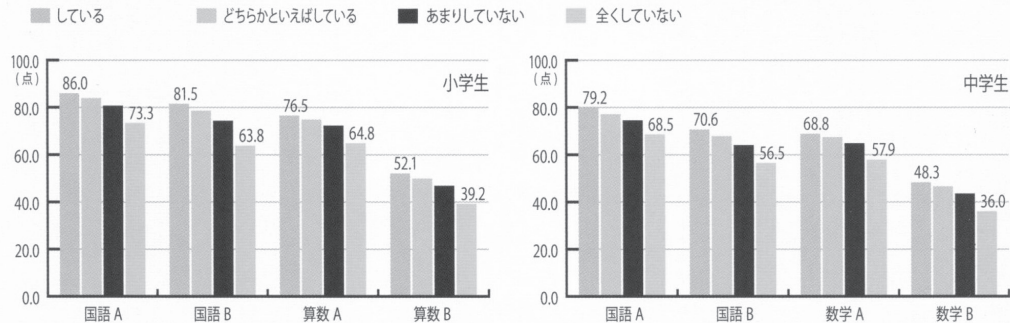
朝食の摂取と体力の関係

毎日朝食をとる児童生徒ほど、体力テストの得点が高い傾向にあります。



家庭でのコミュニケーションと学力との関係

家の人と学校での出来事について話をしている児童生徒ほど学力調査の平均正答率が高い傾向にあります。

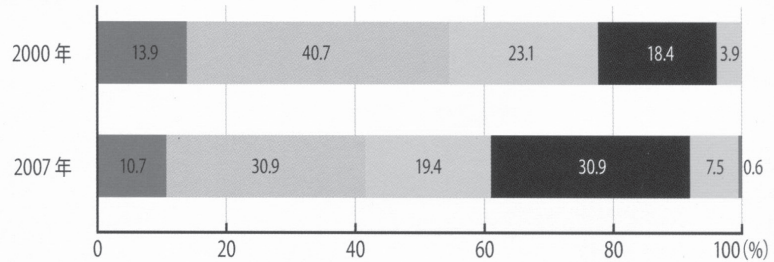


- ◆ 社会の多様化や生活環境の変化に伴う、子どもたちの生活習慣の乱れ
- ◆ 学習意欲や体力、気力の低下の要因との指摘

近所づきあいの程度

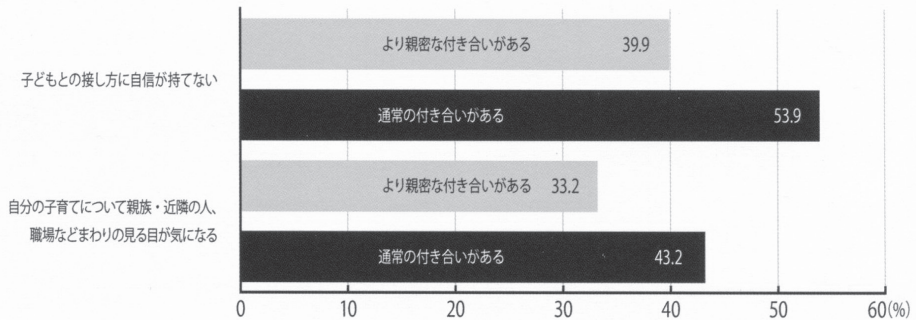
👁️ 地域のつながりが希薄化してきている傾向があるようです。

■ よく行き来している ■ ある程度行き来している ■ あまり行き来していない ■ ほとんど行き来していない ■ あてはまる人がいない ■ わからない・無回答



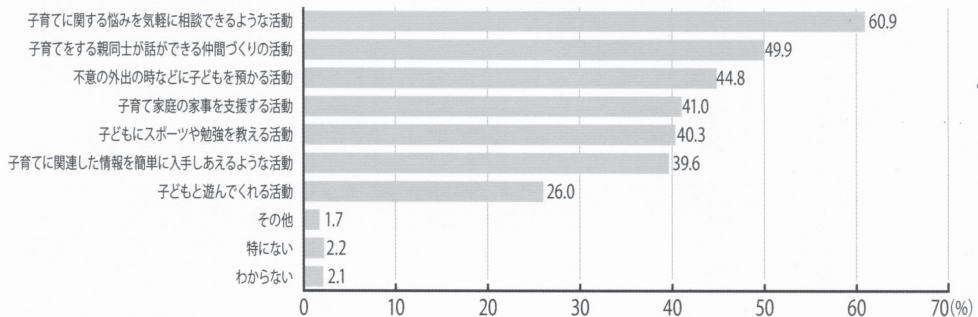
地域とのつながりと子育ての不安や悩みとの関係

👁️ 地域とより親密なつきあいのある人は子育てへの不安が少ないようです。



子を持つ親にとってあればいいと思う地域活動

👁️ 地域で気軽に相談できる活動があればいいと思っているようです。

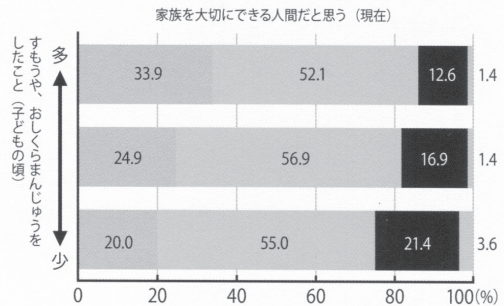
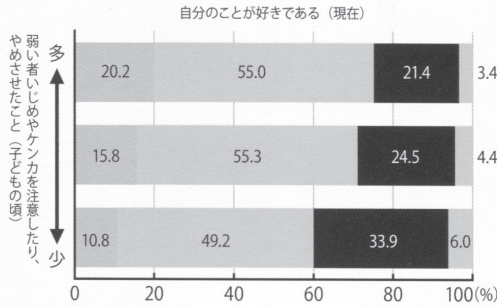


◆ 地域のつながりの希薄化など、地域全体で親子の「学び」や「育ち」を支える地域の教育力の低下

子どもの頃の「友だちとの遊び」と「自尊心」の関係

子どもの頃、友達と遊んだ経験の多い人ほど、自尊心が高い傾向がみられます。

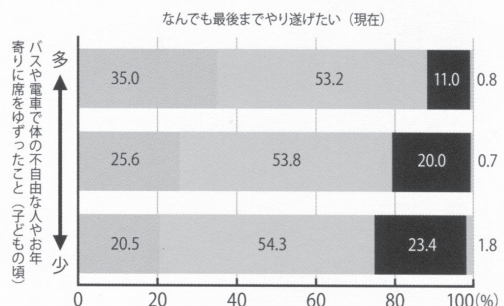
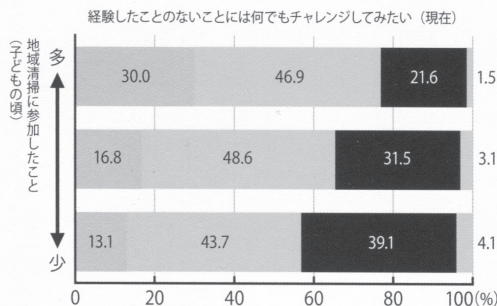
■ とてもあてはまる ■ ややあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ まったくあてはまらない



子どもの頃の「地域活動」と「意欲・関心」の関係

子どもの頃、地域活動に参加した経験の多い人ほど、意欲や関心が高い傾向がみられます。

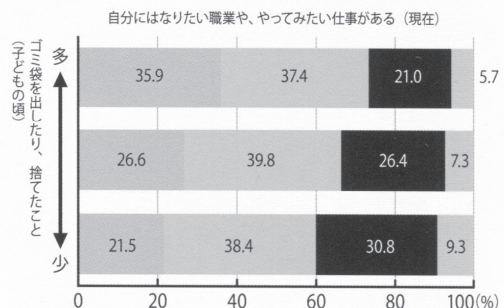
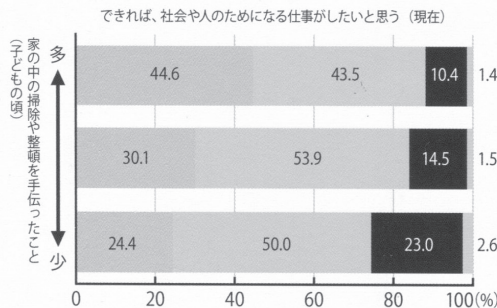
■ とてもあてはまる ■ ややあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ まったくあてはまらない



子どもの頃の「家事・お手伝い」経験と「職業意識」の関係

子どもの頃、家事や手伝いをした経験の多い人ほど、職業意識が高い傾向がみられます。

■ とてもあてはまる ■ ややあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ まったくあてはまらない




3 参観日・保護者配布資料


犬山北小学校では、10月26日の研究発表に続いて、1月28日に保護者向けの授業公開を行った。その折、参観者に授業改善の意図を知らせる意味を含めて、「学び合いプラン」という形の資料をもって参観をしてもらった。

以下はその折配布したすべての授業の「学び合いプラン」である。

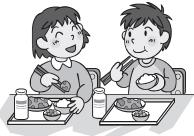
1年1組 ・ 国語科学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日(土) 4限	1の1教室	嶋崎 崇大
単元	たぬきの糸車 6/10		
めざす子どもの姿	登場人物になりきった音読の活動を通して、子どもたちのさまざまな想像を導き出し、表情や動作などの表現力を豊かにしたい。		
本時のめあて	おかみさんやたぬきのようすをそうどうして、気持ちがつたわるおんどくができるようになろう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全	① 第2場面の挿絵を見ながら、前時を想起する。	
	個グ	② 第3場面を音読して、登場人物や場面の様子を想像する。(A)	
	全	③ 想像したことを発表する。	
	グ	④ 登場人物になりきって、劇遊びをする。(B)	
	個全	⑤ 振り返りをして、まとめの音読をする。	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート	・想像したことを言葉で表しやすくし、音読に生かせるようにするために、吹き出しのついたワークシートに自分の考えを書き、意欲的に取り組むことができるようする。		
B:子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート	・会話文の読み方を工夫した音読になるように、それぞれの考えを交流し、グループで音読に取り組む場を設定する。		

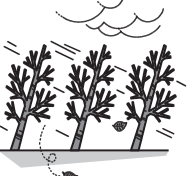
1年2組 ・ 算数科学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日(土) 4限	1の2教室	稲垣 江美
単元	大きい かず 7/14		
めざす子どもの姿	数のカードを持って大きい順に並ぶ活動を通して、数の順序や系列の理解を深めたい。		
本時のめあて	かずの 大きいじゅんに ならぶことが できるようになろう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全	① 本時のめあてを提示し、学習の流れを確認する。	
	全	② カードゲームのやり方確かめる。	
	グ	③ グループごとに数の大きい順に並ぶゲームをする。(A)	
	グ	④ 2グループ・3グループが一緒になって並ぶ。(B)	
	個	⑤ 練習問題に取り組む。	
	全	⑥ 学習を振り返り、分かったことを発表する。	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート	・進んで活動に取り組むようにするために、一人が1枚ずつカードを持って並ぶ場面を多く設定する。		
B:子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート	・数の大小比較が確実にできるようにするために、並ぶ人数をだんだん増やして取り組む場面を設定する。		


1年3組 ・ 学級活動学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日(土) 4限	1の3教室	加藤 千智 ・ 斉木 伊津子
題 材	めざせ おはし名人 1/1		
めざす子どもの姿	箸の持ち方などの基本的な食事のマナーに対する関心を高め、好き嫌いなく給食を食べられるようにしたい。		
本時のめあて	おはしめい人になろう!		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全	① めあて、学習の流れを知り、学習の見通しをもつ。	
	個	② 鉛筆の持ち方を確認し、自分の名前を書く。(A)	
	個	③ 鉛筆の持ち方から、正しい箸の持ち方を知る。	
	ペ	④ スポンジを使って、正しい持ち方のつかみ方を確認する。	
	ペ	⑤ スポンジや大豆を使って、箸つかみ競争をする。(B)	
	全	⑥ 活動の振り返りを行う。	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート	・ 正しい箸の持ち方を知るために、子どもたちにとって身近な鉛筆の持ち方を参考にして、箸の持ち方を確認できる場を設定する。		
B:子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート	・ 正しい箸の使い方を練習するために、グループのみんなと楽しくゲームをする場を設定する。		


2年1組 ・ 国語科学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日(土) 4限	2の1教室	坪内 茂雅
単 元	詩を書こう 5/5		
めざす子どもの姿	自分の感動や発見、発想を短い言葉で表現する創作活動を通じて、楽しみながら表現活動を行う子どもを育てたい。		
本時のめあて	詩を読み合い、よい書き方を見つけよう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全	① 本時のめあてを確認する。	
	個	② 詩を読み合い好きな詩を選ぶ。(A)	
	個	③ 好きな詩を選び、好きなわけをふせんに記入する。	
	スク	④ 好きな詩と好きなわけを発表する。(B)	
	個全	⑤ 学習を振り返り、表現の良さに気が付いたことを発表する。	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート	・ 音読で紹介するだけでは伝わりにくい表現の良さに気付くようにするために、前の時間に書いた詩を全員分コピーして全員の詩を紹介する。		
B:子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート	・ 多くの友達とかかわりながら詩の良さを味わうために、スクランブル交流の場面を設定する。		


2年2組 ・ 学級活動学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日(土) 4限	2の2教室	藤本 弘子
題 材	本と友だちになろう 3/4		
めざす子どもの姿	アニメーションのゲームを通して読書の楽しさを味わうとともに、読書に対する関心や意欲を高め、読書好きの子どもを育てたい。		
本時のめあて	みんなで協力してだれのことばかを当てよう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全	① 本時の流れを聞き、アニメーションのゲームに興味を持つ。	
	個	② 『フライパンじいさん』についてだれの言葉かをプリントに書く。(A)	
	全	③ グループで話し合っ、だれの言葉かをまとめる。(B)	
	全	④ 『くまさぶろう』で「ならびかえ」のゲームをする。	
	個	⑤ 読み聞かせを聞きながら、出来事の順番を確認する。	
	個	⑥ 本時の振り返りをする。	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート	・一人一人が「これだれのことば」のゲームに積極的に取り組むために事前に『フライパンじいさん』の本を読ませておく。		
B:子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート	・子どもたちが本の内容により深く関われるようにするために、グループで話し合っ、意見交換しながら答えを導き出す場面を設定する。		


2年3組 ・ 道徳学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日(土) 4限	2の3教室	山田 敦貴
主 題	楽しいはずなのに		
めざす子どもの姿	誰に対しても真心をこめて謝ることの大切さを知り、実際に謝ることができるような実践力を身に付けさせたい。		
本時のめあて	じょうずなあやまり方について考えよう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全	① 謝ってもらえなかったり、謝っても許してもらえなかったりした経験について話し合う。	
	全	② 資料前半を聞き、状況を理解する。	
	パ	③ インタビューをして、登場人物の気持ちを確認め合う。(A)	
	パ	④ 資料後半を聞き、上手な謝り方について考える。	
	全	⑤ 真心をこめた謝り方を、3つの観点でまとめる。	
	パ全	⑥ 別の場面を想定し、観点を意識して謝る練習をする。(B)	
	個	⑦ 振り返りカードを使って、本時を振り返る。	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート	・登場人物の気持ちを知り、謝ることの大切さに注目させるために、登場人物になりきってペアでインタビューし合う場面を設定する。		
B:子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート	・真心をこめた謝り方を身に付け、互いに目標の達成が認め合えるようにするために、ペアで謝り方を練習する場面を設定する。		


3年1組 ・ 社会科学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日（土）4限	3の1教室	水津 徹哉
単 元	古い道具と昔の暮らし		3 / 9
めざす子どもの姿	体験的な学習や調べ学習を通して、様々な資料を利用することで先人の努力について理解し、自分の考えをもてる子どもを育てたい。		
本時のめあて	今とむかしの明かりのちがいや人々の努力についての考えをもてるようになろう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全	① めあてをつかみ、学習の流れを確認する。	
	グ	② 昔の明かりを体験する。	
	個グ	③ 現代と昔の明かりの違いについての感想を書く。	
	全	④ 資料を読み、先人の暮らしの様子について知る。(A)	
	個全	⑤ 先人の工夫や努力について考え、全体で交流する。(B)	
	個	⑥ 本時の振り返りをする。	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート	・昔の暮らしをより実感して知ることができるようにするために、子どもたちが調べてきたプリントや資料を利用する。		
B:子どもたちが育め合い深め合うためのコーディネート	・様々な道具の明るさを体験しながら、自由に感想を交流できるようにするために、いろいろな明かりを用意し、話し合う場面を設定する。		


3年2組 ・ 音楽科学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日（土）4限	第1音楽室	大島 奈保美
題 材	音のスケッチ		2 / 3
めざす子どもの姿	曲の旋律の重なりやリズム・パターンの重なりを面白さを感じ取りながら友達と一緒に自分たちの音楽をつくり、拍の流れにのってみんなで歌ったり演奏したりすることを楽しめる子どもを育てたい。		
本時のめあて	拍の流れにのって、楽しくリズムうちができるようになろう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全	① 既習曲を歌う。（「ドレミのかいたん」、「雪のおどり」）	
	全	② 本時のめあてと学習の流れを確認する。	
	ペ	③ 「マンガニ、雨とおどろろ」を木琴等の伴奏を重ねながら歌う。(A)	
	グ	④ リズムカードを組み合わせてリズムをつくり、手拍子で打つ。	
	グ	⑤ リズム・パターンをつくり、伴奏に合わせて演奏する。(B)	
	個全	⑥ 本時を振り返り、楽しかったことを書いたり発表したりする。	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート	・面白さを感じながらいろいろな演奏を試すために、合わせるフレーズを相談して練習する場面を設定する。		
B:子どもたちが育め合い深め合うためのコーディネート	・みんなでつくったリズム・パターンを演奏して楽しむために、他のグループがリズム遊びをしているところを回って歩く場面を設定する。		


3年3組 ・ 理科学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日(土) 4限	3の3教室	武山 綾乃
単 元	豆電球にあかりをつけよう 4/9		
めざす子どもの姿	電気の性質や働きについての見方や考え方を養うとともに、実験に興味をもって積極的に取り組むことのできる子どもを育てたい。		
本時のめあて	電気を通すものと通さないものに分けられるようになろう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全	① 本時のめあてをつかみ、学習の流れを確認する。	
	グ個	② 持ってきた材料をグループで確認し、個人で実験の予想を立てる。(A)	
	ペ	③ 豆電球を用いて実験を行い、電気を通すものと通さないものとに分類する。	
	個	④ 他のグループと実験結果を交流する。(B)	
	グ全	⑤ 結果の共通点を話し合い、わかったことをまとめ発表する。	
	全	⑥ 本時のまとめと振り返りを行う。	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート	・実験に興味をもって取り組めるようにするために、事前に実験してみたい材料を準備し、予想を立てる場面を設定する。		
B:子どもたちが高め合い、深め合うためのコーディネート	・より多くの物についてどのように分類されるかを確認するために、他のグループと実験結果を交流する場面を設定する。		


4年1組 ・ 道徳学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日(土) 4限	4の1教室	伊藤 佑
主 題	100万回生きたねこ		
めざす子どもの姿	一人一人が葛藤を経て自分の本音で話し合うことで、多くの人の考えを知り、自分の考えを広げ、勤勉・努力の心を育てたい。		
本時のめあて	自分の生き方について考えよう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全	① 自分は何歳まで生きたいか考える。	
	全	② 死なない人生は幸せか不幸せかについて話し合う。(A)	
	全	③ 「100万回生きたねこ」の話を聞く。	
	ペ全	④ 一度きりの人生どのように生きたいか話し合う。(B)	
	全	⑤ 北小の先生やお家の人の日頃大切にしていることを聞く。(B)	
	個	⑥ 本時の学習を振り返る。	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート	・一人一人が葛藤し、本音を出すことができるようにするために、ハートカードを利用して、自分の考えを確認し話し合う場面を設定する。		
B:子どもたちが高め合い、深め合うためのコーディネート	・多くの人の考えを知り、自分の考えを広げるために、ねこの生き方、周りの友達や先生、お家の人たちの考えを聞く場面を設定する。		


4年2組 ・ 算数科(TT)学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日(土) 4限	4の2教室	吉田 清美 ・ 長谷川 誠
単 元	分 数		4/9
めざす子どもの姿	友達に説明したり、問題を出し合ったりすることで、共に学び合う大切さと楽しさを味わい、「帯分数」の意味をより深く理解させたい。		
本時のめあて	1より大きい分数をいろいろな表し方に直すことができるようになろう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全 個 ペ グ 全 個	 <ul style="list-style-type: none"> ① 本時のめあてを提示し、学習の流れを確認する。 ② 仮分数は、整数とどんな分数を合わせた数か考える。 ③ 「帯分数」の用語とその意味を知り、数直線を使って確認する。 ④ 帯分数を仮分数に直す考え方を数直線を使って説明する。(A) ⑤ 練習問題に取り組み、帯分数・仮分数の理解を深める。(B) ⑥ 本時の振り返りをする。 	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート	・帯分数・仮分数の用語とその意味を確認し、理解を深めるために、友達と互いに説明し合う場面を設定する。		
B:子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート	・より多くの練習問題に取り組むことができるようにするために、友達が作った問題を解く場面を設定する。		


4年3組 ・ 国語科学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日(土) 4限	4の3教室	加藤 順子
単 元	熟語の意味を考えよう		2/2
めざす子どもの姿	身近な熟語を見つけたり、その意味を調べたりすることで熟語に興味をもち、熟語の成り立ちや意味を深く理解させたい。		
本時のめあて	熟語の意味やその組み合わせを考えながら熟語作りをしよう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全 グ 個 グ 全 全	 <ul style="list-style-type: none"> ① 本時のめあて、学習の流れを確認する。 ② 国語辞典や漢字辞典を使って問題を解く。(A) ③ 熟語の問題作りをする。 ④ 作った問題を解き合う。(B) ⑤ がんばっていた友達を紹介する。 ⑥ 本時の振り返りをする。 	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート	・熟語の成り立ちや意味を確認したり、深く理解したりするために、国語辞典や漢字辞典を用いる場面を設定する。		
B:子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート	・より多くの熟語を集め、理解を深めるために、グループ間で問題を解き合う場面を設定する。		


5年1組 ・ 外国語活動学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日(土)4限	英語ルーム	宇佐見 沙里
単元	Lesson8 I study Japanese. 時間割を作ろう 1/4		
めざす子どもの姿	外国語を通して、進んでコミュニケーションを図りながら、はっきりと自分の考えを伝え、みんなで認め合える集団にしていきたい。		
本時のめあて	外国の小学校ではどんな学習をしているのかを知り、教科名を英語で言えるようになろう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全	① ジェスチャーをつけてあいさつをする。	
	個	② 本時のめあてと学習の流れを確認する。	
	全	③ 各教科の英語での言い方を知る。(各教科, study, subject) (A)	
	個	④ 外国の小学校では、どのような学習をしているのかを知る。	
	全	⑤ Game「We are the same」「Sunday to Saturday Wow」をする。(B)	
	個	⑥ 振り返りをする。	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート	・教科名を聞いたり言ったりしながら、積極的に英語の音声やリズムに慣れ親しむことができるように、ゲーム感覚で楽しむ場面を設定する。		
B:子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート	・英語の音声やリズムを確認し、より英語に親しめるように、ペアやグループの中でアドバイスをする場面を設定する。		


5年2組 ・ 算数科(少人数)学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日(土)4限	5の2教室	間瀬 千鶴子
単元	割合 7/15		
めざす子どもの姿	関係図をかくことによって、割合やもとにする量、比べる量を具体的に表し、割合の問題の理解を深めさせたい。		
本時のめあて	割合の問題のつくり方を知り、問題をつくらせて友達と解きあおう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全	① 本時のめあてと学習の流れを把握する。	
	全	② 割合、もとにする量、比べる量の求め方を復習する。	
	個	③ 問題を読み、関係図をかく。	
	グ	④ 割合、もとにする量、比べる量を求める問題づくりをする。(A)	
	全	⑤ グループでつくった問題について話し合う。	
	個	⑥ 問題をつくり、友達と解きあおう。(B)	
	個全	⑦ 学習の振り返りをする。	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート	・問題づくりに抵抗なく取り組みやすくするために、グループで問題づくりをする場面を設定する。		
B:子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート	・割合の理解を深めるために、各自がつくった問題を友達と解きあおう場面を設定する。		


5年2組 ・ 算数科(少人数)学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日(土) 4限	5年ワークスペース	佐光 美智子
単 元	割 合 7/15		
めざす子どもの姿	関係図をかくことによって、割合やもとにする量、比べる量を具体的に表し、割合の問題の理解を深めさせたい。		
本時のめあて	割合の問題のつくり方を知り、問題をつくって友達と解きあおう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全	① 本時のめあてと学習の流れを確認する。	
	全	② 割合、もとにする量、比べる量の求め方を復習する。	
	個	③ 問題を読み、関係図をかく。	
	グ	④ 割合、もとにする量、比べる量を求める問題づくりをする。(A)	
	全	⑤ グループでつくった問題について話し合う。	
	個	⑥ 各自で問題をつくり、友達と解きあう。(B)	
	個全	⑦ 振り返りをする。	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート	・ 関係図を確認し、問題づくりに取り組みやすくするために、グループで問題づくりをする場面を設定する。		
B:子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート	・ 割合の理解を深めるために、関係図を活用して、各自がつくった問題を友達と解きあう場面を設定する。		


5年3組 ・ 国語科学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日(土) 4限	5の3教室	鬼田 聡
単 元	ゆるやかにつながるインターネット		3/8
めざす子どもの姿	自分の知識や経験と関連づけて内容を読み取り、構成の仕方や巧みな叙述などと関連づけて要旨をとらえる力を育てる。		
本時のめあて	「ゆるやかなつながり」の意味をとらえることができるようになろう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全	① 3段落を音読をする。本時の流れとめあてを確認する。	
	個	② 「強いつながり」と「ゆるやかなつながり」を対比する。(A)	
	全	③ 「つながり」を身近な例で考える。	
	全	④ 「インターネット」のつながりについて話し合う。(B)	
	個	⑤ 4段落を音読し、筆者の考えを確かめる。	
	個	⑥ 本時の学習の振り返る。	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート	・ 筆者の考える「強いつながり」「ゆるやかなつながり」の意味をとらえるために対比して考えたり、自分の事に置き換えて考えたりする。		
B:子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート	・ 自分の考えを深めるために、根拠になる言葉に着目させながら、友達と意見を交流する場面を設定する。		


6年1組 ・ 国語科学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日（土）4限	6の1教室	太田 育宏
単元	作品の世界を深く味わおう		10/10
めざす子どもの姿	「春暁」の読解を通して、読解能力を高め、昔の人の感じ方を理解させたい。		
本時のめあて	話者は今、幸せか不幸せか説明できるようになろう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
 ※教科にかかわ	全	① 音読後、めあてをつかみ、学習の流れを確認する。(A)	
	全	② わかりにくい言葉の確認をする。	
	個	③ 話者は今、幸せか不幸せか考え、自分の意見を書く。	
	全	④ 全体で話し合い、読解を深める。(B)	
	全	⑤ 本時の振り返りをする。	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネーター	・子どもたちの漢詩への意欲を高めるために、本時の教材は子どもたちがよく知っている教材とし、また十分に音読を重ねる。		
B:子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネーター	・議論を活性化するために、「話していない人は話してください」「この意見に反論してください」など司会的発言を取り入れる。		


6年2組 ・ 理科(TT)学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日（土）4限	理科室	中西 俊雄 ・ 小川 春海
単元	水よう液の性質		13/14
めざす子どもの姿	水溶液の性質やはたらきについての考え方を養うとともに、実験などの活動を通して互いに協力し、高め合うことができるようにする。		
本時のめあて	なぞの液体の正体を見つけることができるようになろう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全	① 本時の学習めあてと学習の流れを知る。	
	個	② 「なぞの液体」(6種類)の判別方法を考える。(A)	
	グ	③ 考えた方法に従って実験の準備をする。	
	グ	④ 実験を行い、水溶液の正体を見つける。(B)	
	個	⑤ 実験で分かった水溶液の正体と、理由を自分の言葉でまとめる。	
	全	⑥ 水溶液の名前を発表し、「なぞの水溶液」の正体を確認する。	
	全	⑦ 本時を振り返り、実験器具を片付ける。	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネーター	・水溶液を判別する意欲を高めるために、6種類の水溶液を準備し、「なぞの液体」として子どもに提示する。		
B:子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネーター	・より少ない手順で確実に判別するために、仲間と協力して実験し、気付いたことを声に出して伝え合うようにする。		


6年3組 ・ 算数科(少人数)学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日(土)4限	6の3教室	黒谷 あかね
単 元	資料の調べ方 よみとる算数 《日本の米》 8/8		
めざす子どもの姿	目的に応じた資料を適切に選択してその資料を読み取るとともに、自分の立場を示して考え方の根拠を説明することができるようにしたい。		
本時のめあて	根拠をもって資料を選んで使い、問題を解決できるようになろう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全	① 本時のめあてと学習内容を知る。	
	個	② 各資料から必要な情報を読み取り、消費量や収穫量の割合を求め。(教科書 P46①・②) (A)	
	個グ	③ 円グラフの割合やつばささんの考え方について、自分の考えをもち説明し合う。(B)	
	個	④ 本時の振り返りをする。	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート	・活用した資料から読み取ったことを「割合」として考えやすいように、既習の関係図や線分図を提示する。		
B:子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート	・根拠をもって資料の選択や活用するために、自分の考えを言葉や式にして説明し合う場面を設定する。		

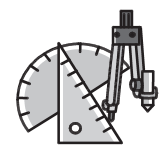
6年3組 ・ 算数科(少人数)学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日(土)4限	6年ワークスペース	近藤 真美
単 元	<資料の調べ方> よみとる算数 《日本の米》 8/8		
めざす子どもの姿	各資料から必要な情報を読み取るとともに、他者の考えに対して自分の考え方の根拠を説明することができるようにしたい。		
本時のめあて	根拠をもって資料を選んで使い、問題を解決できるようになろう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全	① 本時のめあてと学習内容を知る。	
	個	② 各資料から必要な情報を読み取り、消費量や収穫量の割合を求め。(教科書 P46①・②) (A)	
	個グ	③ 円グラフのつばささんの考え方について、自分の考えをもとに説明し合う。(B)	
	個	④ 本時の振り返りをする。	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネート	・既習の「割合」の考え方を思い出すようにするために、関係図や線分図を提示する。		
B:子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネート	・自分の考えを言葉や式にして説明し合うために、根拠をもって資料の選択や活用ができるようにする。		

仲よし学級1組 ・ 国語科学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日(土) 4限	仲よし1組教室	林 栄五郎
単 元	ひらがな あつまれ 1/2		
めざす子どもの姿	ひらがな表からことばを見つけ出す楽しさと喜びを体感し、語彙を増やそうとする学習意欲を高めたい。また、グループ学習を通して、協力してできることの満足感を味わわせたい。		
本時のめあて	ひらがなひょうからたくさんのことばをみつけだそう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全個	① 「あいうえおであそぼう」を元気よく音読する。(A)	
	全	② ひらがな表を全員で音読する。	
	全	③ ひらがな表からことばを見つけ出すやり方を知る。	
	全	④ 全員で協力して考えながら、表に隠れていることばを見つけ出す。(B)	
	全個	⑤ 見つけ出したことばを発表する。	
	個	⑥ 授業の振り返りをする。	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネーター	・自信をもって見つけたことばを発表できるようにするために、授業のはじめに全員で「あいうえおであそぼう」を元気よく音読する。		
B:子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネーター	・ひらがな表からことばを見つけ出すことができる喜びを互いに共有できるように、1枚のひらがな表で全員が協力して探索活動を行う。		

仲よし学級2組 ・ 算数科学び合いプラン

日時・場所・指導者	1月28日(土) 4限	仲よし学級2組教室	吉田 幸子
単 元	形をしらべよう 1/7		
めざす子どもの姿	身の回りにある様々な図形に関心をもち、それぞれの図形の性質を見つけたり、見つけたことを実際に活用したりしようとする意欲を高めたい。		
本時のめあて	直角のある形を見つけ、仲間分けしよう		
授業の流れ	形態	学 習 活 動	
	全	① 本時のめあてを提示し、学習の流れを確認する。	
	ペ個	② 不定形の紙から直角をつくる。	
	ペ	③ さし絵の中から直角のある形を見つけ、自分たちが作った直角をさし絵の図形に貼る。(A)	
	個	④ さし絵の中の三角形や四角形を直角に着目しながら仲間分けする。	
	ペ	⑤ 各自が仲間分けした結果を発表し合い、なぜそういう分け方をしたか、相手の考えを聞き合う。(B)	
	個ペ	⑥ 学習の振り返りをする。	
A:子どもたちが主体的に活動するためのコーディネーター	・直角を具体的にイメージし、自信をもって活動できるように、自分達で作った直角を、協力してさし絵の図形に貼っていく場面を設定する。		
B:子どもたちが高め合い深め合うためのコーディネーター	・いろいろな仲間分けの仕方があることに気付くために、各自の仲間分けの仕方(視点)を発表し合う場面を設定する。		

監修者

田中 康史 犬山市立犬山北小学校校長
杉江 修治 中京大学国際教養学部教授
博士（教育心理学）

研究同人

<平成23年度>

田中 康史	杉本 義裕	長谷川 誠	坪内 茂雅	林 栄五郎	野本 大助
間瀬千鶴子	吉田 幸子	佐光美智子	稲垣 江美	吉田 清美	藤本 弘子
斉木伊津子	中西 俊雄	大矢 豊子	大島奈保美	鬼田 聡	嶋崎 崇大
山田 敦貴	宇佐見沙里	加藤 順子	加藤 千智	黒谷あかね	太田 育宏
武山 綾乃	水津 徹哉	伊藤 佑	森田 直	松山 淑子	日比野雄子
江口 典代	千田 初子	小川 春海	近藤 真美	高橋 多糸	根本 清香
デービッド・ベーリンジャー		藤田 好美	近藤留美子	小林 高子	水口 昇

<平成22年度>

大矢 恵一	浅輪 郁代	荒木 陽子	高木真由美	小松 敏朗	村瀬 秀子
近藤 晴美	河内沙智絵	谷岡 弥生			

学び合い育ち合う子どもの育成

（協同教育実践資料16）

2012年3月31日 第1刷発行

著者 犬山市立犬山北小学校

監修者 田中康史・杉江修治

発行 一粒書房(有限会社一粒社 出版部)

〒475-0837 愛知県半田市有楽町 7-148-1

TEL. 0569-21-2130

編集・印刷・製本（有）一粒社出版部(代表 都築延男)

〒475-0837 半田市有楽町 7-148-1

TEL. 0569-21-2130

ISBN978-4-86431-081-9 C1337

